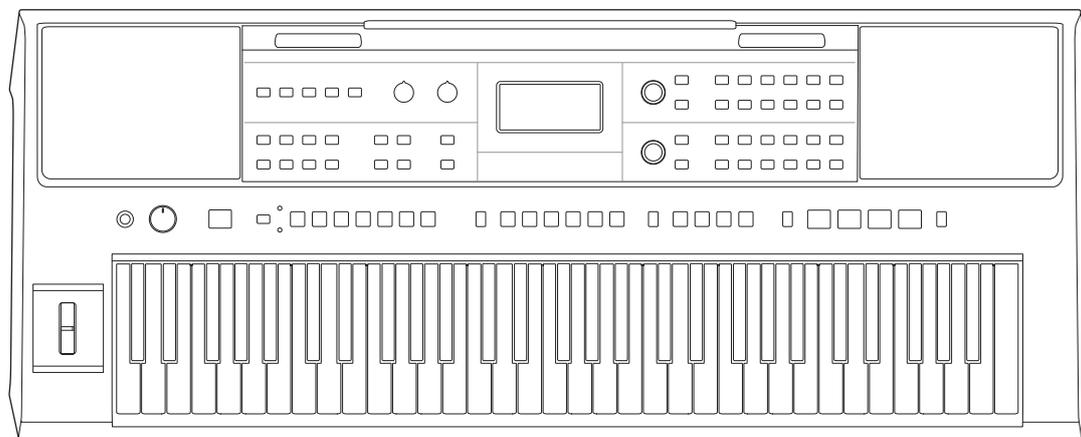

電子キーボード

リファレンスマニュアル

PSR-E483



説明書について

この製品には、以下の説明書が用意されています。

■ 製品に付属

● 取扱説明書

この製品の基本的な機能の説明や、ご使用前に必ずお読みいただく「安全上のご注意」を掲載しています。最初にお読みください。

■ ウェブサイトで提供

● リファレンスマニュアル(本書)

この製品のすべての機能について、詳しく説明しています。

● データリスト

この楽器に搭載している音色、ソング、スタイルなどのリストやMIDIに関する資料を掲載しています。

● スマートデバイス接続マニュアル

楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスを接続する方法などを説明しています。

● MIDI入門

MIDIについての基礎知識を説明しています。

上記説明書は、下記のヤマハウェブサイトからご覧いただけます。



PSR-E483関連ダウンロードページ

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/downloads/>

ソングデータ/ソングブックのダウンロード

この楽器で再生できるソングデータと、ソングデータの楽譜を記載したソングブックを上記ウェブサイトから無料でダウンロードいただけます。

ぜひご利用ください。



ソングデータ

この楽器で再生できる曲データ(MIDIデータ)です。



ソングブック

ソングデータの楽譜が記載されています。

■ 動画マニュアル

この楽器の使い方を説明した動画マニュアルを用意しています。



下記のヤマハウェブサイトからご覧いただけます。

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/>

表記について

本書では、内容に応じて、下記のような表記で注意文などを記載しています。

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
ご注意	「製品の故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。
 NOTE	知っておくとよい補足情報です。

お知らせ

- このリファレンスマニュアルに掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- MIDIは、一般社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- USB Type-C™およびUSB-C™はUSB Implementers Forumの商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

対応フォーマットと機能



GMシステムレベル1

メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。



XGライト

ヤマハの高品位な音源フォーマットである[XG]の簡易(ライト)版です。[XG]のソングデータを[XGlite]マークの付いた音源を使って手軽に再生して楽しむことができます。ただし、[XGlite]ではコントロールできるパラメーターやエフェクトなどに一部制限がありますので、[XG]のソングデータが元のデータと異なって聞こえる場合があります。



スタイルファイルフォーマット(SFF)

ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した、伴奏スタイルに関するフォーマットです。

もくじ

説明書について	2	コーラスタイルを選ぶ.....	31
表記について	3	マスター EQを設定してお好みの音にする	32
お知らせ	3	ピッチバンドホイールを使う	32
対応フォーマットと機能.....	3		
ご使用前の準備	6	自動伴奏機能を使いながら演奏する(スタイル)	33
電源の準備	6	自動伴奏機能(スタイル)とは	33
電源を入れる/切る	7	自分でコードを弾きながら演奏する	34
オートパワーオフ機能.....	8	コードを自分で弾くときのコードの指定方法を 設定する(フィンガリングタイプ)	36
譜面立てを使う	8	スタイルキーを設定する (オートコードプレイ/スマートコード).....	37
和文シートを使う	8	楽器に自動でコードを再生させて演奏する (オートコードプレイ).....	38
各部の名称	9	スタイル再生に変化をつける.....	41
基本操作と画面表示	13	スタイルのシンクロストップを使う	42
基本操作	13	スタイルのトラックをオン/オフする	42
画面表示.....	14	スタイルの各トラックの音量を調節する	42
共通の機能を使う	16	スタイルを構成するパートのボイスを変更する (スタイルリボイス).....	43
テンポを調節する	16	マルチフィンガーでのコードの弾き方	44
メトロノームを使う	16	スマートコードで指定されるコード	45
楽器全体の音量を上げる(メガブースト)	18	外部で作られたスタイルファイルを読み込む	46
鍵盤のタッチ感度を変える(タッチレスポンス).....	18		
楽器の音の高さを変える(トランスポーズ)	19	ノブを回して演奏音を変化させる	47
楽器の音の高さを微調整する(チューニング).....	19	ノブを使う	47
		ノブの設定をする	48
		ノブに割り当てられる機能.....	49
いろいろなボイス(楽器音色)で弾く	20	スケールチューン(音律)に関する設定をする	50
ボイス(メインボイス)を選んで弾く	20	プリセットの音律を選ぶ.....	50
グランドピアノの音で弾く	20	音律のベースノートを変える	50
最適なパネル設定を呼び出す ワンタッチセッティング(OTS).....	20	ノート別にチューニングしてオリジナル音律を作る	51
もう1つのボイス(デュアルボイス)を重ねる.....	21		
左手と右手とで別のボイス(スプリットボイス)を弾く	22	ソング(MIDIデータ)やオーディオファイルを再生する	52
ボイスに関する設定を変える	23	デモソングを再生する.....	53
アーティキュレーション効果をかける	24	ソング(MIDIデータ)を再生する.....	53
ハーモニー機能を使う	25	USBフラッシュメモリー内の オーディオファイルを再生する	54
アルペジオ機能を使う.....	26	ソング、オーディオファイルを 早送り、早戻し、一時停止する	55
アルペジオとスタイル/ソングの同期タイミングを 変更する(アルペジオクオンタイズ)	27	ソングの一部をくり返して聞く(A-Bリピート).....	55
フットスイッチでアルペジオ再生を継続する (アルペジオホールド).....	27	録音したフレーズ(ユーザーソング)を くり返し再生する.....	56
演奏や再生音に効果をかける	28	ソングのメロディーボイスを変える	56
DSP効果をかける	28	ソングの各トラックをミュート(消音)する	57
モーションエフェクトをかける	30	ソングの各トラックの音量を調節する	57
リバーブタイプを選ぶ.....	31		

マイクを接続して弾き語りをする	58
マイクを接続する	58
マイクを外す	59
自分の演奏を録音する	60
この楽器での録音方式.....	60
演奏をソングとして新規録音する(MIDI録音).....	60
トラック(パート)ごとに録音する	62
録音する小節数を設定する.....	63
ユーザーソングを消去する(ソングクリア)	64
ユーザーソングの特定のトラックを消去する (トラッククリア).....	64
ユーザーソングをMIDIファイルとして USBフラッシュメモリーに保存する	65
USBフラッシュメモリー内の MIDIファイルを削除する.....	66
演奏をオーディオファイルとして USBフラッシュメモリーに録音する	67
USBフラッシュメモリー内の オーディオファイルを削除する	68
お好みの設定を記録する/呼び出す (レジストレーションメモリー)	69
レジストレーションメモリーに記録された 設定を呼び出す.....	69
パネル設定をレジストレーションメモリーに記録する	70
記録したパネル設定のうち、 呼び出したいくない項目を指定する(フリーズ).....	71
クイックサンプリング機能を使う	72
サンプルを再生する	72
サンプルをループ再生する.....	72
スタイル/ソングの再生に合わせて サンプリングを再生する(同期再生)	73
サンプリングの準備をする.....	74
サンプリングをする	74
初期設定のサンプルに戻す.....	76
サンプルをUSBフラッシュメモリーに保存する	77
USBフラッシュメモリー内のWAVファイルを サンプルとして取り込む.....	78
サンプルをUSBフラッシュメモリーから読み込む.....	79
USBフラッシュメモリー内のサンプルを削除する.....	80
ルーパー機能を使う	81
フレーズを録音する	81
オーバーダブ録音(多重録音)する	82

録音したフレーズをループ再生する	83
スタイル/ソング再生に合わせて フレーズをループ再生する(同期再生)	83
録音したフレーズを消去する.....	84
ルーパー機能で録音したフレーズを USBフラッシュメモリーに保存する	85
ルーパーファイルを USBフラッシュメモリーから読み込む	86
USBフラッシュメモリー内の ルーパーファイルを削除する	87

USBフラッシュメモリーを接続する 88

USBフラッシュメモリー内のファイルを操作する.....	89
USBフラッシュメモリーをフォーマットする	91
ユーザーデータを USBフラッシュメモリーに保存する	92
ユーザーファイルを USBフラッシュメモリーから読み込む	93
USBフラッシュメモリー内の ユーザーファイルを削除する	94
ファイルコントロール操作に関する エラーメッセージ一覧.....	95
ヘッドホンを使う	96
ペダル(フットスイッチ)を使う	96
楽器の音を外部スピーカーから鳴らす	97
オーディオ機器の音をこの楽器で鳴らす	97
メロディーパートの音を小さくする (メロディーキャンセル).....	98
コンピューターと接続する.....	98
コンピューター /スマートデバイスと楽器の間で データを送受信する	101
アプリを使う	102

機能設定 103

機能設定の基本操作	103
-----------------	-----

バックアップと初期化 110

バックアップされるデータや設定	110
楽器を初期化する	110

結線図(ブロックダイアグラム) 111

困ったときは 112

索引 114

ご使用前の準備

電源の準備

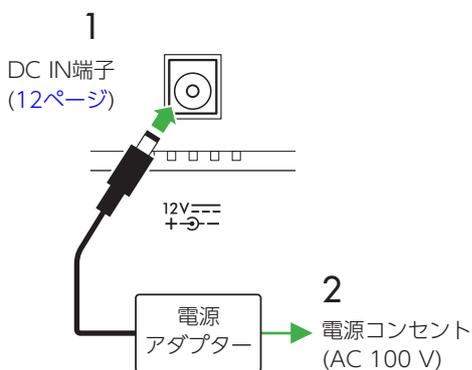
この楽器の電源には、電源アダプターか電池を使用できますが、電源アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USBフラッシュメモリーを接続する場合は、電源アダプターをご使用ください。電池を使用すると、操作中に電源が切れてデータを失うおそれがあります。

電源アダプターを使う

図の順序で電源アダプターを接続します。

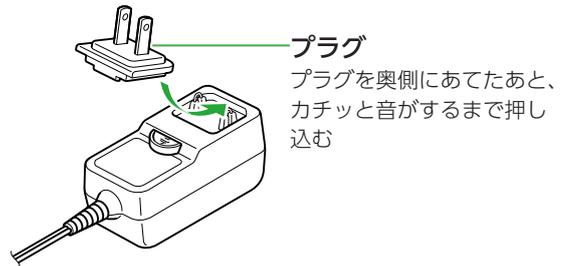


電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

警告

- 電源アダプターは、必ず付属または指定のものをご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。
- 本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないよう注意して、カチッと音がするまで押し込んでください。また異物が入らないようご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。

PA-150Cの場合



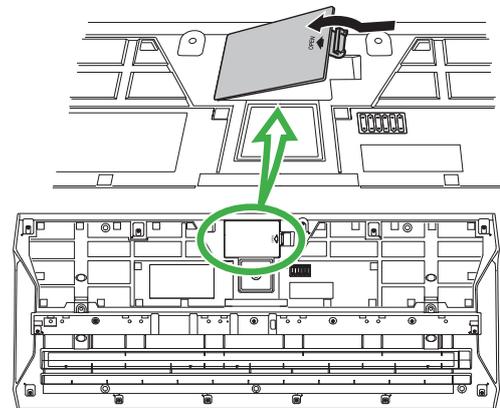
電池を使う

この楽器は、単3形のアルカリ乾電池、マンガン乾電池、充電式ニッケル水素電池(充電電池)を使用できます。ただし、使い方により大きな電力を消費する場合がありますので、アルカリ乾電池または充電電池のご使用をおすすめします。

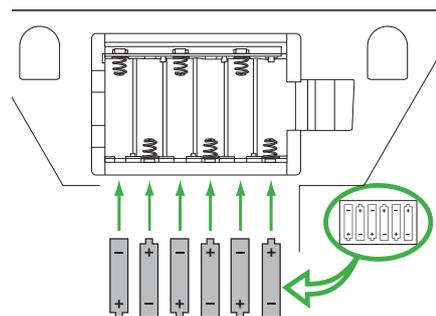
ご注意

- 充電電池をお使いの場合は、必ず充電電池の説明書をお読みください。

- 1 電源が切れていることを確認します。
- 2 本体を柔らかい布などの上で裏返し、電池カバーを外します。



- 3 電池6本を入れます。イラストに合わせて、向きを間違えないように入れます。



4 電池カバーを閉めます。

5 お使いの電池の種類に合わせて、本体の設定を切り替えます(下記参照)。

ご注意

- 電池がセットされ電源が入っているときに、電源アダプターのDCプラグを抜き差ししないでください。電源が一時的に切れて録音中や転送中のデータが失われます。
- 電池は早めの交換をおすすめします。電池の残量が少なくなると、音量が小さくなったり、音質が劣化したり、正常に動かなくなったりすることがあります。

NOTE

- 充電電池は、必ず専用の充電器で充電してください。この楽器では、充電できません。
- 電池が本体に入っている状態でも、電源アダプターが接続されている場合は、電源アダプターが電源として使われます。

■ 電池の種類を設定する

お使いの電池の種類に合わせて、本体の設定(乾電池または充電電池)を切り替えてください。設定は、電源を入れたあと、機能設定画面(109ページ、機能番号079)で切り替えます。

初期設定：Alkaline

Alkaline	アルカリ乾電池、マンガン乾電池
Ni-MH	充電式ニッケル水素電池(充電電池)

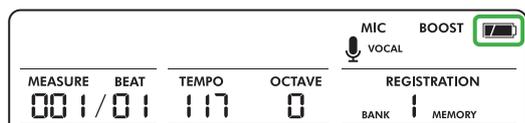
ご注意

- 電池の種類の設定を間違えると、電池の劣化が早まり、使用可能時間が短くなります。正しい設定でお使いください。

■ 電源の状況を確認する

電池と電源アダプターのどちらが電源として使われているかは、画面上で確認できます。

電池が使われている場合は、画面右上に電池アイコンが点灯し、残量も確認できます。



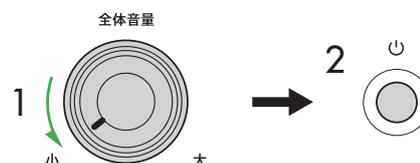
NOTE

- 電源アダプターが接続されている場合は、電池がセットされていても画面上にアイコンは表示されません。

電池の残量表示

	電池残量がありません。電源が切れます。
	電池残量が少なくなっています。充電電池の場合は早めの充電を、乾電池の場合は早めの交換をおすすめします。電池残量が少なくなると、音量が小さくなったり音質が劣化したり、また正常に動かなくなることがあります。
	電池の残量が十分にあります。

電源を入れる/切る



- 1 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。
- 2 [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。電源が入ると、画面に表示が現れます。
- 3 鍵盤を弾いて音をかめながら、[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左右に回して全体音量を調節します。
- 4 電源を切るには、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒ほど押します。

警告

- 電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

ご注意

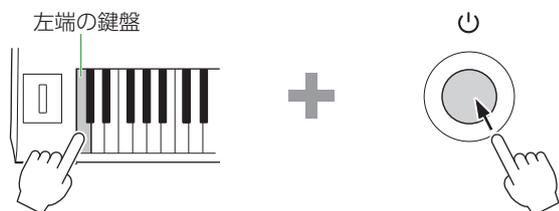
- 電源を入れるときは、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチ以外(鍵盤、ボタン、フットスイッチなど)を操作しないでください。楽器が誤動作する原因になります。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では15分ですが、変更することもできます(109ページ、機能番号078)。

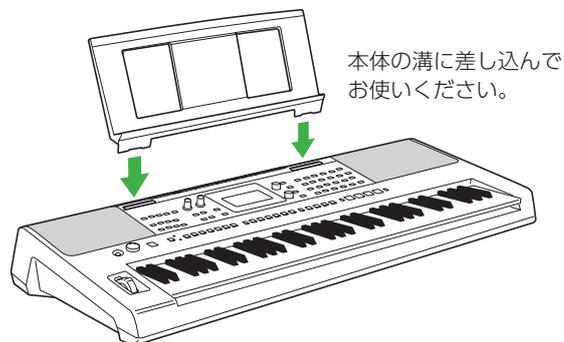
オートパワーオフ機能を簡単に解除する

電源を入れるとき、左端の鍵盤を押したまま[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します。画面上段に「AutoPowerOff」、下段に「Disabled」が表示され、自動では電源が切れなくなります。



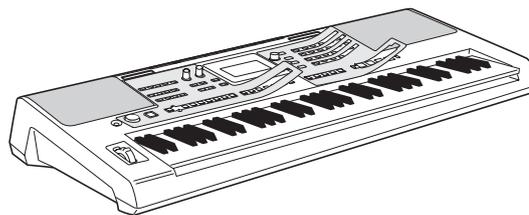
もう一度オートパワーオフ機能を設定するには、機能設定画面(109ページ、機能番号078)でお好みの時間を設定します。

譜面立てを使う



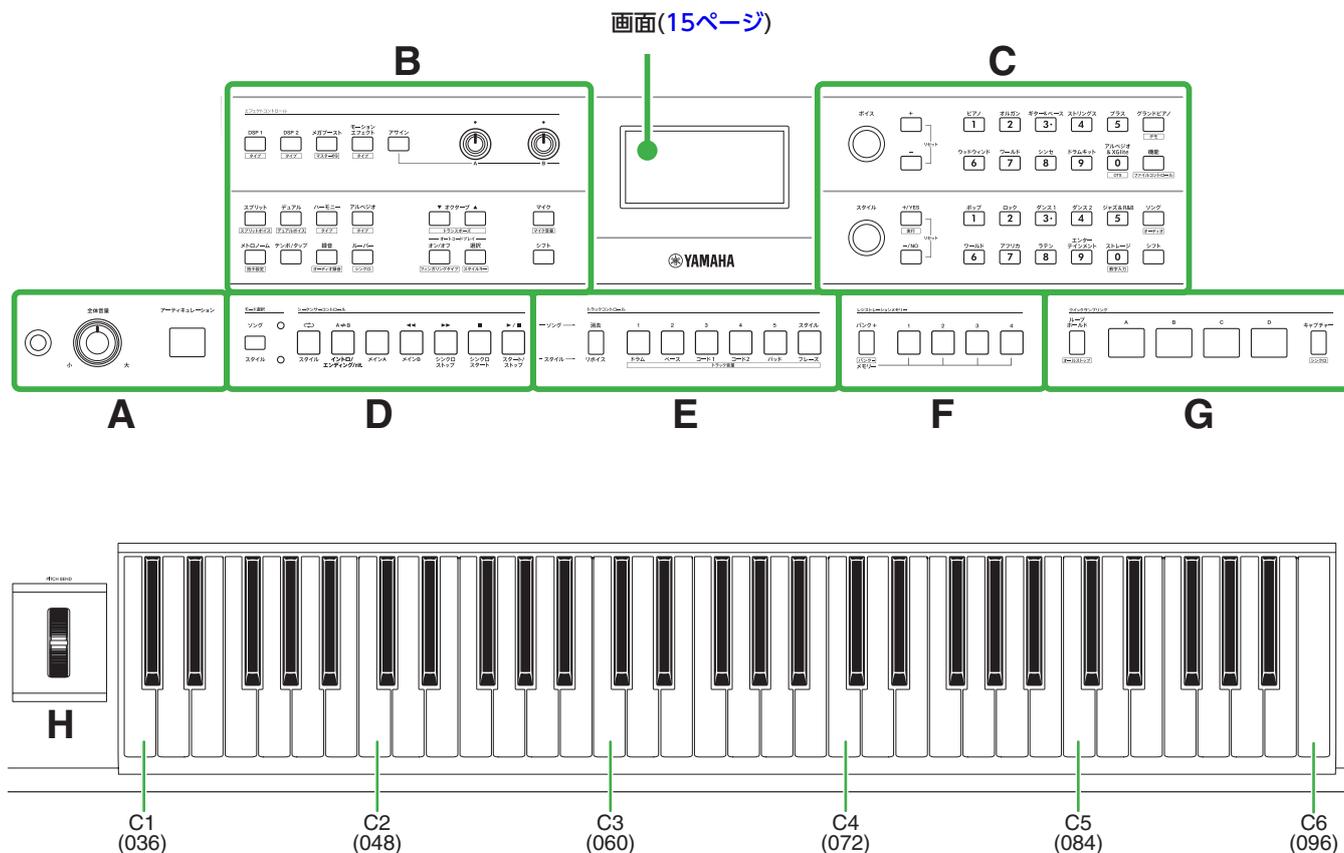
和文シートを使う

付属の和文シートをパネルに載せてご使用ください。和文シートは粘着式になっていますので、パネル面に貼り付けることもできます。



各部の名称

■ トップパネル (和文シートを載せた状態)



各鍵盤には音名(例C1)と番号(例036)が割り当てられています。これらは機能設定で使います。

で囲まれたボタン名について(シフト機能)

[シフト] (SHIFT) ボタンを押したままボタンを操作すると、その枠内に書かれた機能が実行されます。たとえば、**[シフト] (SHIFT)** ボタンを押したまま **[マイク] (MIC)** ボタンを押すと、**マイク音量** 設定画面が呼び出されます。

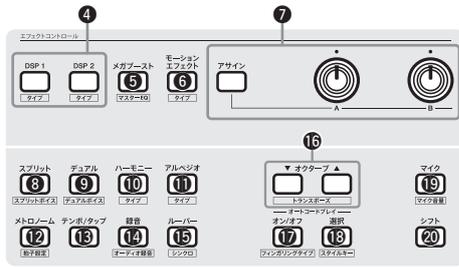
押したまま

A



- ① **[O]**(スタンバイ/オン)スイッチ.....7ページ
- ② **[全体音量] (MASTER VOLUME)**コントロール
.....7ページ
- ③ **[アーティキュレーション] (ARTICULATION)**ボタン
.....24ページ

B



エフェクトコントロール (EFFECT CONTROL)

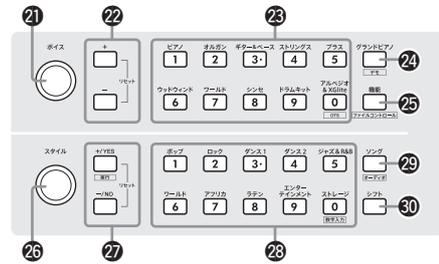
- ④ [DSP1]、[DSP2]ボタン 28ページ
タイプ 28ページ
- ⑤ [メガブースト] (MEGA BOOST)ボタン... 18ページ
マスターEQ 32ページ
- ⑥ [モーションエフェクト] (MOTION EFFECT)ボタン
..... 30ページ
タイプ 30ページ
- ⑦ [アサイン] (ASSIGN)ボタン、[A]/[B]ノブ
..... 47ページ

その他、サウンドなどのコントロール

- ⑧ [スプリット] (SPLIT)ボタン 22ページ
スプリットボイス 22、105ページ
- ⑨ [デュアル] (DUAL)ボタン 21ページ
デュアルボイス 21、104ページ
- ⑩ [ハーモニー] (HARMONY)ボタン 25ページ
タイプ 25ページ
- ⑪ [アルペジオ] (ARPEGGIO)ボタン 26ページ
タイプ 26ページ
- ⑫ [メトロノーム] (METRONOME)ボタン
..... 16、17ページ
拍子設定 17ページ
- ⑬ [テンポ/タップ] (TEMPO/TAP)ボタン 16ページ
- ⑭ [録音] (REC)ボタン 60ページ
オーディオ録音 67ページ
- ⑮ [ルーパー] (LOOPER)ボタン 81ページ
シンクロ 83ページ
- ⑯ オクターブ (OCTAVE) [▼][▲]ボタン... 19ページ
トランスポーズ 19ページ

- ⑰ オートコードプレイ [オン/オフ]
(AUTO CHORD PLAY [ON/OFF])ボタン . 38ページ
フィンガリングタイプ 36ページ
- ⑱ オートコードプレイ [選択]
(AUTO CHORD PLAY [SELECT])ボタン ... 38ページ
スタイルキー 37ページ
- ⑲ [マイク] (MIC)ボタン 58ページ
マイク音量 58ページ
- ⑳ [シフト] (SHIFT)ボタン 9、14ページ

C



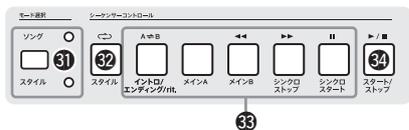
上段のコントロール

- ⑳ [ボイス] (VOICE)ダイヤル 13ページ
- ㉑ [+], [-]ボタン 13ページ
- ㉒ ボイス (VOICE)カテゴリーボタン 13ページ
OTS 20ページ
- ㉓ [グランドピアノ] (PORTABLE GRAND)ボタン
..... 20ページ
デモ 53ページ
- ㉔ [機能] (FUNCTION)ボタン 103ページ
ファイルコントロール 89ページ

下段のコントロール

- ㉕ [スタイル] (STYLE)ダイヤル 13ページ
- ㉖ [+ / YES]、[- / NO]ボタン 13ページ
実行 90ページ
- ㉗ スタイル (STYLE)カテゴリーボタン 13ページ
数字入力 13ページ
- ㉘ [ソング] (SONG)ボタン 52ページ
オーディオ 54、67ページ
- ㉙ [シフト] (SHIFT)ボタン 9、14ページ

D



モード選択 (MODE SELECT)

31 モード選択(MODE SELECT)ボタン 14ページ

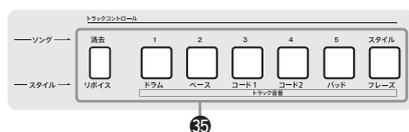
シーケンサーコントロール (SEQUENCER CONTROL)

32 [↔]/[スタイル] (ACMP)ボタン 33、56ページ

33 再生コントロールボタン
..... 34、41、42、53、55ページ

34 [▶/■]/[スタート/ストップ] (START STOP)ボタン
..... 34、53ページ

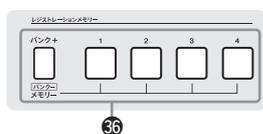
E



トラックコントロール (TRACK CONTROL)

35 トラックコントロールボタン 42、57ページ
[トラック音量] 42、57ページ

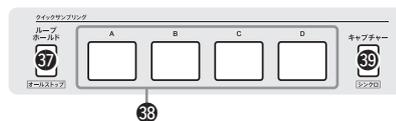
F



レジストレーションメモリー (REGISTRATION MEMORY)

36 レジストレーションメモリーボタン 69ページ

G



クイックサンプリング (QUICK SAMPLING)

37 [ループホールド] (LOOP HOLD)ボタン ... 72ページ
[オールストップ] 72ページ

38 [A] ~ [D]パッド 72ページ

39 [キャプチャー] (CAPTURE)ボタン 74ページ
[シンクロ] 73ページ

H



40 [PITCH BEND] (ピッチベンド)ホイール... 32ページ

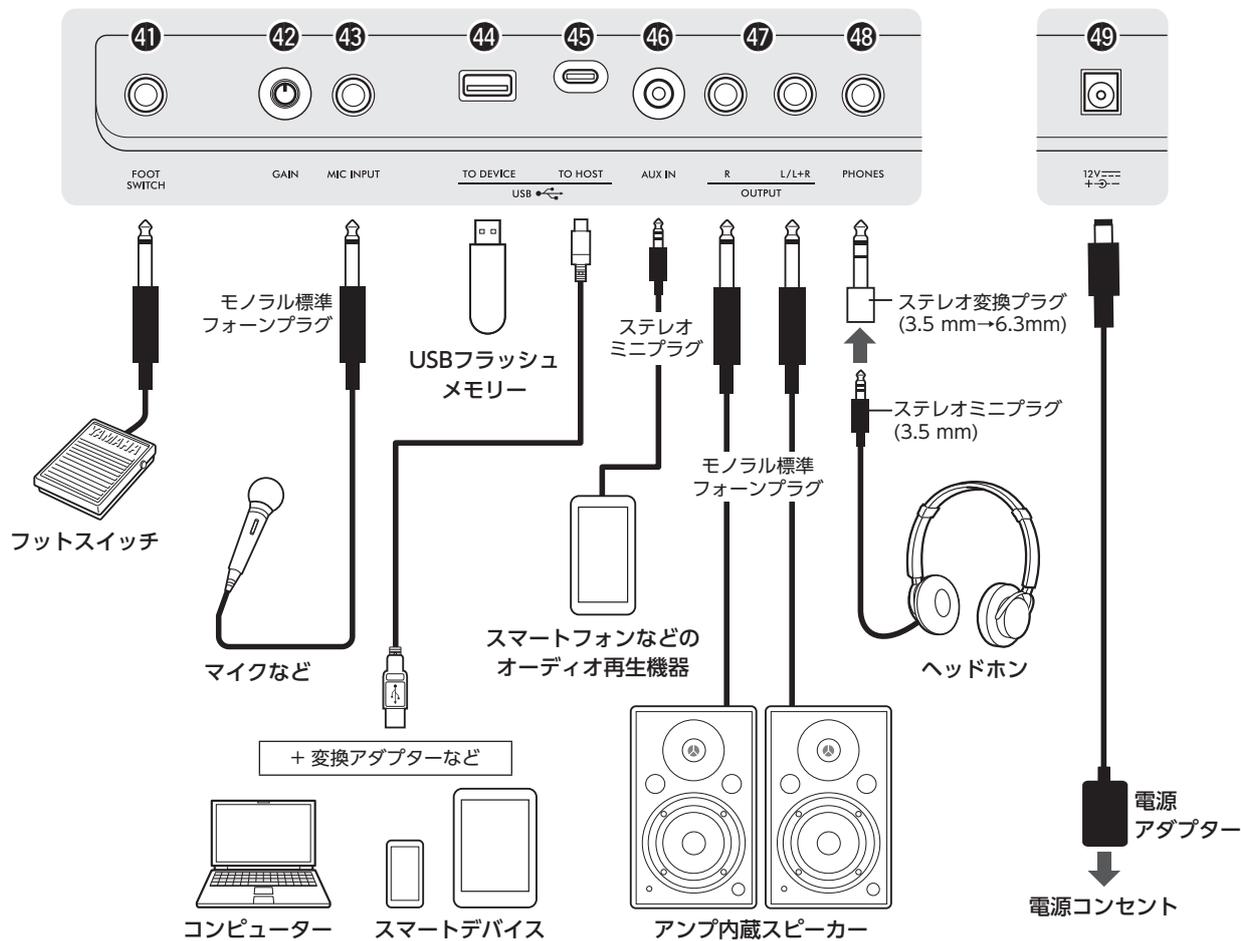
パネル設定

この楽器では、パネル上のボタンやダイヤルなどを使って、ボイスやスタイルの選択など、さまざまな設定ができます。これらの設定を「パネル設定」と呼びます。

■ リア(背面)パネル (楽器を後ろから見た図)

接続例

接続する機器により、使用するケーブルは異なります。



- ④1 [FOOT SWITCH]端子..... 96ページ
- ④2 [GAIN]ノブ..... 58ページ
- ④3 [MIC INPUT]端子..... 58ページ
- ④4 [USB TO DEVICE]端子 (USB Type-A)... 88ページ
- ④5 [USB TO HOST]端子 (USB Type-C™)... 98ページ

- ④6 [AUX IN]端子 97ページ
- ④7 OUTPUT [L/L+R]、[R]端子 97ページ
- ④8 [PHONES]端子..... 96ページ
- ④9 DC IN端子.....6ページ

基本操作と画面表示

基本操作

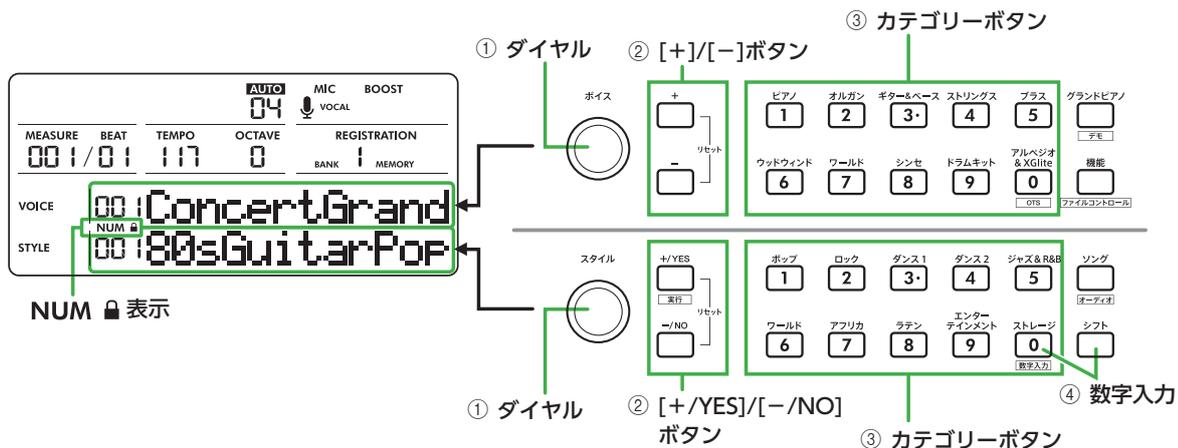
スタイルやボイス、テンポ、機能などの項目を、共通の操作で設定できます。
ボイスやスタイルの番号や名称については、ウェブサイト上の**データリスト**をご覧ください。

NOTE

- ボイス(VOICE)とは、本製品に搭載されている様々な楽器音色のことです。

項目を選択する/数値を設定する

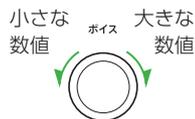
画面(14、15ページ)の上段の項目は、上段のボタン群で設定します。
画面の下段の項目は、下段のボタン群で設定します。



項目を選んだり、数値を設定したりする方法は、次の4つです。

① ダイヤルで選ぶ

画面上段に表示される項目は[ボイス](VOICE)ダイヤルで、下段に表示される項目は[スタイル](STYLE)ダイヤルで選びます。右(時計回り)に回すと大きな数値に、左に回すと小さな数値になります。



NOTE

- 本書では、項目を選んだり、数値を変更したりする操作を、ダイヤルを使う方法で説明します。

② [+]/[-]ボタン、または[+/YES]/[-/NO]ボタンで選ぶ

画面上段に表示される項目は[+]/[-]ボタンで、下段に表示される項目は[+/YES]/[-/NO]ボタンで選びます。[+]/[-]ボタン、[+/YES]/[-/NO]ボタンを押し続けると、連続して数値が変わります。また、[+]/[-]ボタン、または[+/YES]/[-/NO]ボタンは、設定内容をリセットするときにも使います(右記参照)。

③ カテゴリーボタンで選ぶ(ボイス、スタイルのみ)

カテゴリーボタンを押すたびに、カテゴリー内で順番に切り替わります。

④ 数字入力で選ぶ

[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[ストレージ](STORAGE)ボタンを押すと、画面に「NUM」が表示され、カテゴリーボタン[1]～[0]を数字入力ボタンとして使えるようになります。



NOTE

- ボイス、スタイル以外の各種設定では、常にカテゴリーボタンを数字ボタンとして使えます。

表示中の項目をリセットする(初期値に戻す)

[+]/[-]ボタン、または[+/YES]/[-/NO]ボタンを同時に押すと、初期設定の値に戻ります。たとえば、ボイスやスタイルの場合は、それぞれ001番に戻ります。

基本操作 動画マニュアル

基本の操作方法を確認できます。

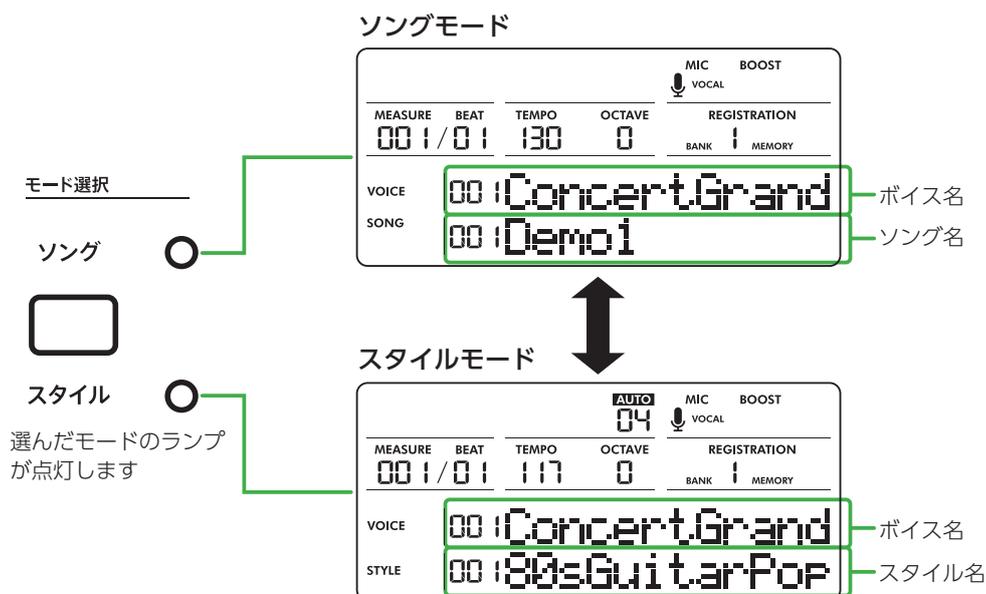
https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/basic_operations/

画面表示

ホーム画面

下記イラストのように、上段にボイス名、下段にソング名またはスタイル名が表示された画面を「ホーム画面」と呼びます。電源を入れたときは、画面の上段にボイス名(VOICE)、下段にスタイル名(STYLE)が表示されます。

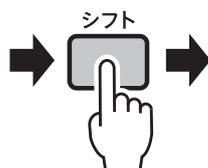
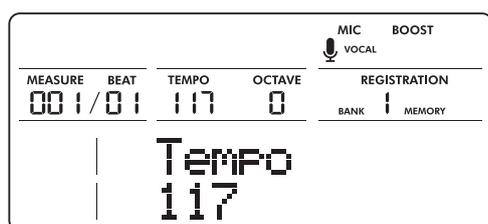
下段は、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押すたびにソング名とスタイル名が交互に表示されます。



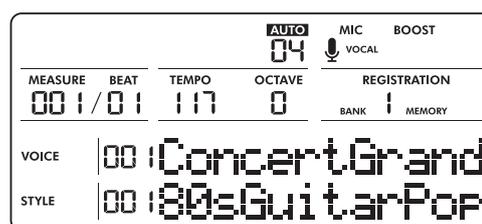
ホーム画面に戻る

機能設定画面(103ページ)やテンポ設定画面からホーム画面に戻るには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

例：テンポ設定画面

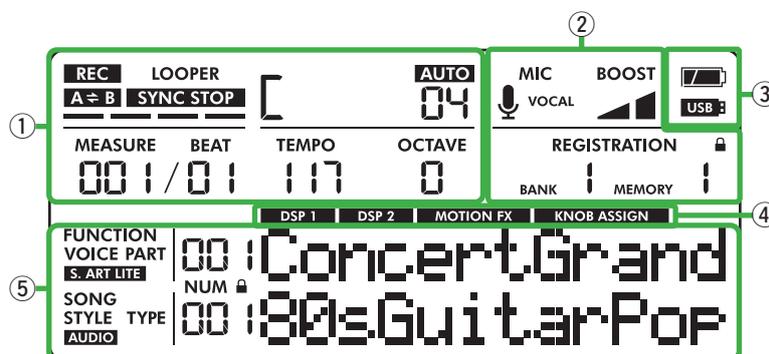


ホーム画面



画面表示

ボイス、スタイル、ソング、オーディオファイルなど、楽器の状態が表示されます。



① 再生/録音状態、機能の状態表示

認識されているコードやテンポなど、再生や録音の状態を表示します。

REC	録音待機中または録音中 (60ページ)
A ⇄ B	A-Bリピート(55ページ)がオン
LOOPER	ルーパー機能(81ページ)使用中
SYNC STOP	シンクロストップ(42ページ)がオン
MEASURE BEAT 001 / 01	MEASURE : 小節(番号) BEAT : ビート(拍)
[自動伴奏鍵域(33ページ)で弾いたコード、オートコードプレイ(38ページ)やソング(52ページ)で再生されたコード
AUTO 04	AUTO : オートコードプレイがオン 数字: 再生する小節(コード)数のカウントダウンをくり返し表示
TEMPO 117	テンポ(16ページ)
OCTAVE 0	[オクターブ](OCTAVE)[▼][▲]ボタンの設定(19ページ)

② 各種機能の状態表示(1)

各機能の状態を表示します。

MIC VOCAL	マイク(58ページ)
BOOST	メガブースト(18ページ)
REGISTRATION BANK 1 MEMORY 1	レジストレーションメモリーの状態(69ページ) ・バンク番号 ・最後に呼び出した/記録したメモリーの番号 ・フリーズのオン/オフ

③ 電池/USB状態表示

電池、USBフラッシュメモリーの使用状態を表示します。

	電池の状態(7ページ)
USB	USBフラッシュメモリーの接続状態(89ページ)

④ 各種機能の状態表示(2)

各機能の設定画面が表示中であることを示します。

DSP 1 DSP 2	DSP(28ページ)
MOTION FX	モーションエフェクト(30ページ)
KNOB ASSIGN	[A]/[B]ノブで音を変化させるパート、ノブに割り当てられた機能(47ページ)

⑤ メイン表示

選択中のボイス名、スタイル/ソング名や番号を表示します。機能設定(103ページ)中は機能番号と機能名を表示します。ボイス名等の左側に表示されるアイコンは、それぞれ以下の意味です。

FUNCTION	機能設定中(103ページ)
VOICE	ボイス名表示中(20ページ)
PART	DSP 1/2(28ページ)、モーションエフェクト(30ページ)効果対象パート表示中
S. ART LITE	S. Art Liteボイス選択中(24ページ)
SONG	ソングモード選択中(14ページ)
STYLE	スタイルモード選択中(14ページ)
TYPE	DSP 1/2タイプ(28ページ)、モーションエフェクトタイプ(30ページ)表示中
AUDIO	オーディオファイル再生/録音中(54、67ページ)
NUM	数字入力が有効(13ページ)

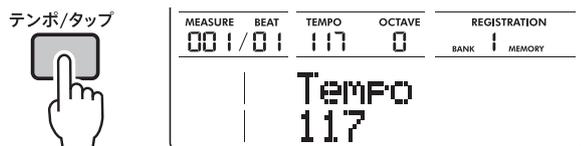
共通の機能を使う

テンポを調節する

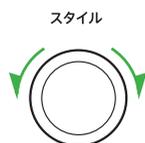
メトロノーム、スタイル(33ページ)、ソング(52ページ)のテンポを調節できます。

- 1 [テンポ/タップ](TEMPO/TAP)ボタンを押して、テンポ設定画面を表示させます。

画面に現在のテンポが表示されます。



- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回してテンポを調節します。



- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、テンポ設定画面を抜けます。



タップ機能を使う

スタイルやソングの再生中に[テンポ/タップ](TEMPO/TAP)ボタンを2回押すと、そのテンポに切り替わります。停止中は、選んだスタイル/ソングの拍子の回数(4拍子なら4回)ボタンを押すと、そのテンポで再生をスタートできます(タップスタート)。



メトロノームを使う

メトロノームは、正確なテンポで練習したいときなどに使います。

- 1 [メトロノーム](METRONOME)ボタンを押してスタートします。



- 2 もう一度[メトロノーム](METRONOME)ボタンを押すと止まります。

メトロノームの音量を設定する

機能設定画面(108ページ、機能番号061)で設定します。

初期設定：100
設定範囲：0～127

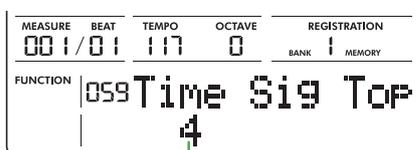
メトロノームの拍子を設定する

初期設定は選んだスタイルやソングごとに最適な設定値になっていますが、お好みの設定にも変更できます。ここでは例として、6/8拍子に設定する手順を紹介します。

1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[メトロノーム](METRONOME)ボタンを押します。



メトロノームの拍子(分子)設定画面「Time Sig Top」(機能番号059)が呼び出されます。

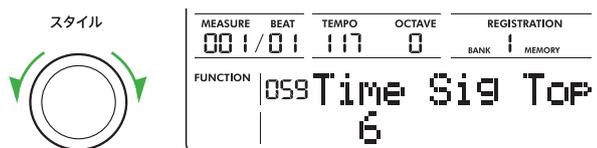


拍子(分子)

2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、拍子の数を選びます。

1拍目に「チーン」と鳴り、それ以外の拍では「カチ」と鳴ります。拍子を0に設定した場合は、「チーン」と鳴らずにすべての拍で「カチ」と鳴ります。この例では「6」を選びましょう。

設定範囲：0～60



NOTE

- ・スタイルやソングの再生中は拍子を設定できません。

3 「Time Sig Btm」(機能番号060)が画面上段に表示されるまで [ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

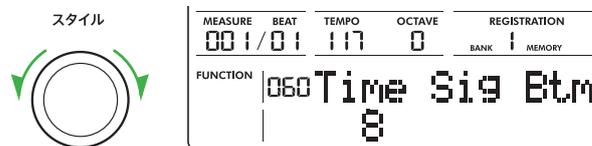
メトロノームの拍子(分母)設定画面が呼び出されます。



拍子(分母)

4 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、2、4、8、16分音符の中から音符を選びます。

この例では「8」を選びましょう。



5 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、設定画面を抜けます。



6 メトロノームを鳴らして確認してみましょう。

1拍が八分音符の長さになり、6拍ごとに「チーン」と鳴ります。

楽器全体の音量を上げる(メガブースト)

メガブースト機能を使うと、最大で6 dB程度音量がアップするので、外部スピーカーを接続しなくても、この楽器1台で迫力のある演奏ができます。[メガブースト] (MEGA BOOST) ボタンを押すたびに、以下の3つが順に切り替わります。



BOOST 	音量アップ(+3 dB程度)
BOOST 	さらに音量アップ(+6 dB程度)
表示なし	メガブーストオフ

ご注意

- マイク使用時にメガブースト機能を使うと、ハウリングが起これやすくなります。ハウリングが起こった場合、以下の方法でハウリングを解消してください。
 - マイク音量を小さくする。
 - メガブースト機能による音量アップを小さくする。
 - メガブースト機能をオフにする。
- メガブースト機能をオンにすると、選ばれているボイスやスタイルによっては、音がひずみやすくなります。

NOTE

- ヘッドホン接続時は、メガブーストは自動的にオフになります。
- メガブースト機能は、本体スピーカーの他に、OUTPUT [L/L+R]、[R]端子からの出力にも効果します。

鍵盤のタッチ感度を変える (タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能の設定で、鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感度)を変更できます。鍵盤自体の重さは変わりません。

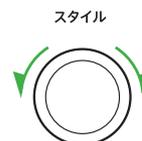
- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 [TouchRespons] (機能番号006)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。画面下段に現在のタッチ感度が表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みのタッチ感度を選びます。



タッチレスポンス

1	Soft	弱いタッチで弾いても比較的大きな音が出やすい設定です。
2	Medium	標準的なタッチです。(初期設定)
3	Hard	より強く弾かないと大きな音が出にくい設定です。
4	Off	タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。

- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。



楽器の音の高さを変える(トランスポーズ)

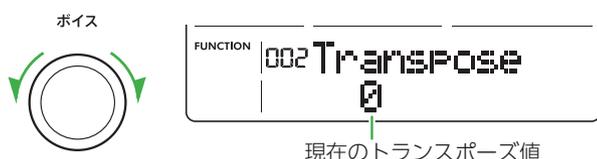
ドラム/SFXキットボイス(ボイス番号323～362)を除くこの楽器全体の音の高さを、半音単位で±1オクターブの範囲で変更できます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 [Transpose] (機能番号002)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

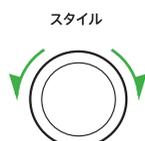
画面下段に現在のトランスポーズ値が表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、トランスポーズ値を変更します。

設定範囲：-12～12

初期設定：0



NOTE

- ・ シフト(SHIFT)ボタンを押したままオクターブ(OCTAVE)[▼][▲]ボタンを押して、トランスポーズ値を変更することもできます。

- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。



楽器の音の高さを1オクターブ上げ下げする

オクターブ(OCTAVE)[▼][▲]ボタンを押すと、楽器全体の音の高さを1オクターブ単位で上げ下げできます。

設定範囲：-2～0～2

初期設定：0

楽器の音の高さを微調整する(チューニング)

この楽器全体の音の高さを、約0.2 Hz単位で427.0 Hz～453.0 Hzの範囲で微調整できます。微調整することにより、ドラム/SFXキットボイス(ボイス番号323～362)を除くこの楽器全体のチューニングを変えることができます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 [Tuning] (機能番号003)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

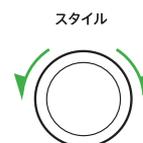
画面下段に現在のチューニング値が表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みの値に設定します。

設定範囲：427.0 Hz～453.0 Hz

初期設定：440.0 Hz



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。

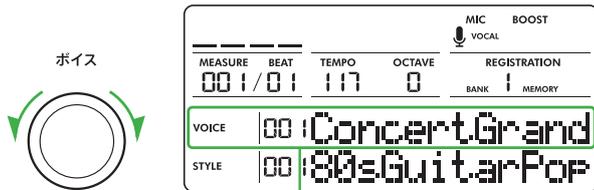


いろいろなボイス(楽器音色)で弾く

ピアノ以外にもいろいろなボイスを選んで演奏できます。また、ひとつのボイス(メインボイス)を鳴らすだけでなく、もうひとつ別のボイス(デュアルボイス)を重ねて鳴らしたり、鍵盤を左右に分けて左手と右手とで別のボイス(スプリットボイス)を弾いたりできます。

ボイス(メインボイス)を選んで弾く

- 1 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、鳴らしたいボイスを選びます(13ページ)



選んだボイスの名称と番号がここに表示されます。

NOTE

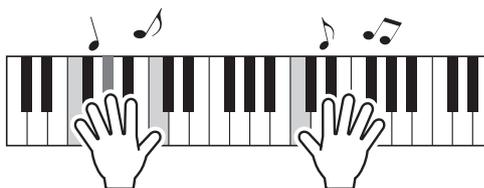
- ダイヤル以外の選択方法は、13ページをご覧ください。

各ボイスの特徴

001 ~ 322	いろいろな楽器の音です。一部のボイスは、パネル上の[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンで、ギターハーモニクスなどの楽器特有の奏法を再現できます(24ページ、S. Art Liteボイス)。
323 ~ 362	ドラムや打楽器などの音や、効果音などが鍵盤に割り当てられています。鍵盤への割り当てについては、ウェブサイト上のデータリスト内「ドラム/SFXキットリスト」をご覧ください。
363 ~ 402	アルペジオ演奏(26ページ)が楽しめるボイスです。このボイスを選ぶと、自動的にアルペジオがオンになります。
403 ~ 860	ヤマハの高品位な音源フォーマットである[XG]の簡易(ライト)版の音、XGliteボイスです。詳細は、ウェブサイト上のデータリスト内「ボイスリスト」をご覧ください。
000	ワンタッチセッティング(OTS)(右記参照)

ボイスの番号や名称については、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。

- 2 鍵盤を弾いてみましょう。



グランドピアノの音で弾く

いろいろな設定をリセットし、「ピアノの音で弾きたい」というときは、[グランドピアノ](PORTABLE GRAND)ボタンを押しましょう。

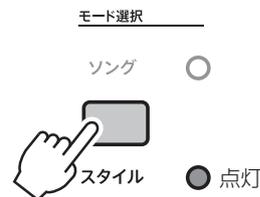


すべての鍵盤が「Live! Concert Grand Piano」(ボイス番号001)の音になります。

最適なパネル設定を呼び出す —ワンタッチセッティング(OTS)

現在選択されているスタイル、ソングに最適なボイスやテンポなどのパネル設定をまとめて呼び出すことができます。

- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、スタイルまたはソングモードを選びます。



- 2 お好みのスタイルまたはソングを選びます(13ページ)。

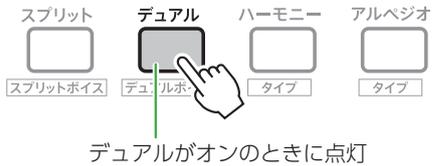
- 3 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、ボイス番号000 [OTS]を選びます。

[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[アルペジオ & XGlite](ARP. & XGlite)ボタンを押して、[OTS]を選ぶこともできます。

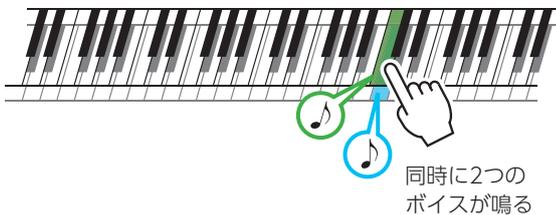
もう1つのボイス(デュアルボイス)を重ねる

メインボイスに重ねて、もう1つ別のボイスを鳴らせます。

- 1 [デュアル](DUAL)ボタンを押してデュアル機能をオンにします。



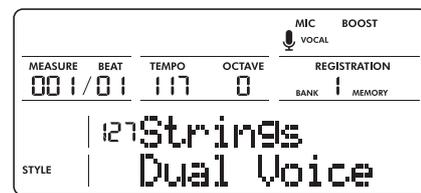
- 2 鍵盤を弾いてみましょう。



- 3 デュアル機能をオフにするには、もう一度[デュアル](DUAL)ボタンを押します。

デュアルボイスを変更する

デュアルボイスは、選択中のメインボイスに最適なものが自動的に選ばれますが、好みのボイスに変更できます。[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[デュアル](DUAL)ボタンを押して表示された画面で、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回してお好みのボイスを選びます。各ボイスの特徴については、[20ページ](#)をご覧ください。



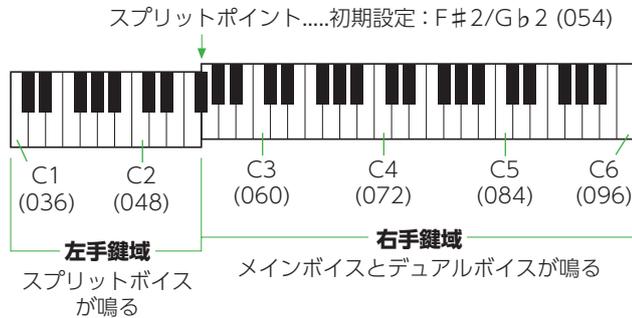
デュアルボイス選択画面からホーム画面([14ページ](#))に戻るには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

デュアルボイスの音量を調節する

機能設定画面([104ページ](#)、[機能番号016](#))で設定します。

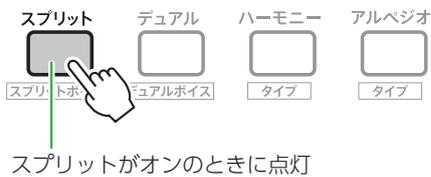
左手と右手とで別のボイス(スプリットボイス)を弾く

鍵盤全体を2つの領域に分けて、左手と右手で違うボイスを鳴らせます。



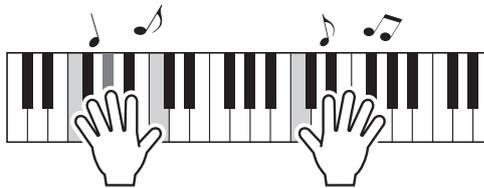
左手鍵域でスプリットボイスを鳴らし、右手鍵域でメインボイスとデュアルボイスを鳴らします。左手鍵域と右手鍵域の境目の鍵盤を「スプリットポイント」と呼び、自由に変更できます。スプリットポイントに当たる鍵盤は左手鍵域に含まれます。

1 [スプリット](SPLIT)ボタンを押してスプリット機能をオンにします。



鍵盤が左手鍵域と右手鍵域に分割されます。

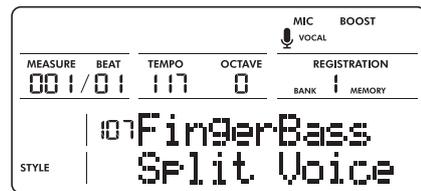
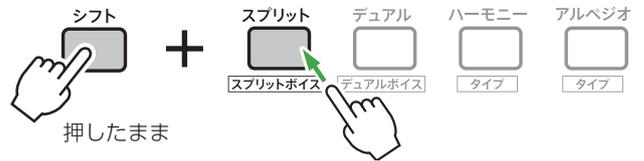
2 鍵盤を弾いてみましょう。



3 スプリット機能をオフにしたい場合は、もう一度[スプリット](SPLIT)ボタンを押します。

スプリットボイスを変更する

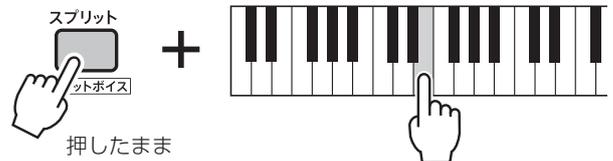
[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[スプリット](SPLIT)ボタンを押して表示された画面で、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回してお好みのスプリットボイスを選びます。各ボイスの特徴については、[20ページ](#)をご覧ください。



スプリットボイス選択画面からホーム画面([14ページ](#))に戻るには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

スプリットポイントを変更する

[スプリット](SPLIT)ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。



スプリットポイントは、機能設定画面([103ページ](#)、[機能番号005](#))でも変更できます。

スプリットボイスの音量を調節する

機能設定画面([105ページ](#)、[機能番号025](#))で設定します。

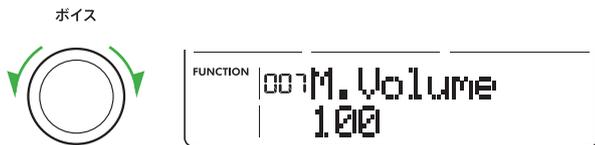
ボイスに関する設定を変える

メイン/デュアル/スプリットボイス、それぞれの音量やオクターブ、リバーブやコーラスの深さなどを調節できます。いろいろな項目の設定値を変えて、好みの音を作ってみましょう。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 設定したい項目が表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

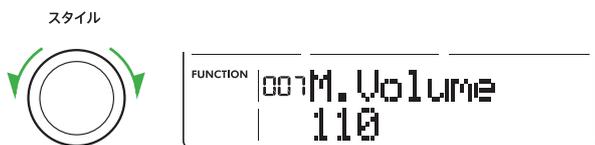


各設定項目は下記のように表示されます。

- ・メインボイスに関する項目:
M.***** (機能番号007 ~ 015)
- ・デュアルボイスに関する項目:
D.***** (機能番号016 ~ 024)
- ・スプリットボイスに関する項目:
S.***** (機能番号025 ~ 029)

各項目について詳しくは、「機能リスト」の104 ~ 105ページをご覧ください。

- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、設定値を変えます。



- 4 手順2 ~ 3をくり返して、いろいろな項目の値を調節します。
- 5 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。
- 6 必要に応じて、作った設定をレジストレーションメモリーに記録します(70ページ)。
記録しておく、作った音をあとで呼び出すことができます。

ご注意

- ・別のボイスを選ぶ前に記録してください。別のボイスを選ぶと、ボイス関連の設定がリセットされます。

アーティキュレーション効果をかける

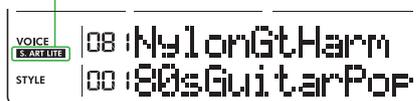
アーティキュレーション効果は、ギターハーモニクスなど、楽器特有の奏法を再現する効果です。[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを押している間、演奏音に効果がかかります。

この効果をかけられるボイスをS. Art Liteボイス(スーパーアーティキュレーションライトボイス)と呼びます。

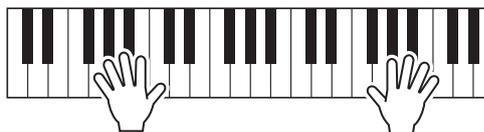
1 お好みのS. Art Liteボイスを選びます。

S. Art Liteボイスを選択すると、画面に **S. ART LITE** が表示されます。また、S. Art Liteボイスは、ウェブサイト上のデータリスト内の「ボイスリスト」で「***」が付けられています。

S. ART LITE S. Art Liteボイスを選ぶと表示



2 鍵盤を弾きながら、[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを使って効果を試してみましょう。



アーティキュレーション



[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを離すと、アーティキュレーション効果はオフになります。

ペダルを使ってアーティキュレーション効果をかける

機能設定画面(107ページ、機能番号054)でペダル(フットスイッチ)にアーティキュレーション機能を割り当てると、ペダルを踏むことで効果をかけられます。

NOTE

- アーティキュレーション効果は、メインボイスのみにかけられます。
- S. Art Liteボイスは、鍵盤を弾く強さ(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。

アーティキュレーション効果の例

ギターのボイスを選択した場合、以下のような操作でギター固有の奏法をリアルに再現できます。

【例1】

ボイス番号081

S. Art Lite Nylon Guitar Harmonics(ナイロン弦ギターハーモニクス)

[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを押したまま鍵盤を弾くと、ハーモニクス音が鳴ります。

【例2】

ボイス番号085

S. Art Lite Distortion Guitar (ディストーションギター)

[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを押すと、ピックスクラッチ音が鳴ります。

アーティキュレーション効果は、S. Art Liteボイスが選択されている場合のみ、そのボイスに最適な効果がかかります。

そのほかの場合は、アーティキュレーション効果はかからず、かわりに音を揺らすような効果がかかります。

ハーモニー機能を使う

鍵盤で弾いたメインボイスの演奏音に、デュエットやトリオなどのハーモニーや、トレモロ、エコーなどの効果をかけられます。

1 [ハーモニー](HARMONY)ボタンを押します。

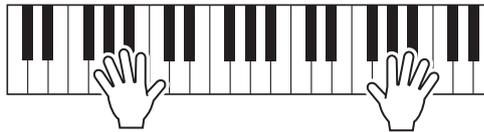
[ハーモニー](HARMONY)ボタンが点灯し、ハーモニー機能がオンになります。



ハーモニー機能がオンのときに点灯

2 鍵盤を弾いてみましょう。

選ばれているボイスに最適なハーモニータイプの効果が付きます。



ハーモニータイプによって、弾き方が異なります。詳しくは、後述の「ハーモニータイプ別の弾き方」をご覧ください。

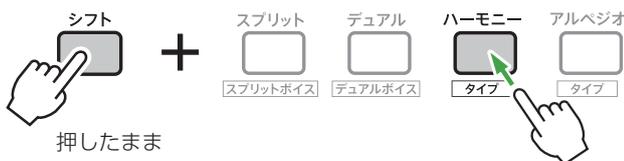
3 もう一度[ハーモニー](HARMONY)ボタンを押すと、ハーモニー機能がオフになります。

ハーモニータイプを変更する

ボイスを選ぶと、自動的にそのボイスに最適なハーモニータイプが選ばれますが、お好みのタイプに変更することもできます。

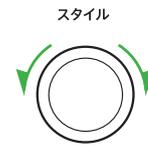
1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[ハーモニー](HARMONY)ボタンを押します。

画面上段に「Harmony」、下段に現在のタイプが表示されます。



現在選ばれているタイプ

2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、タイプを選びます。

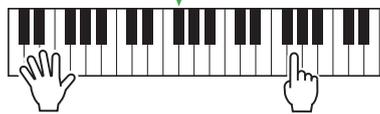


ハーモニータイプの詳細は、ウェブサイト上の[データリスト](#)をご覧ください。

ハーモニータイプ別の弾き方

● ハーモニータイプ 001 ~ 005

スプリットポイント.....初期設定：F#2/Gb2 (054)

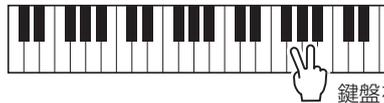


スタイルをオン(34ページ)にして、自動伴奏鍵域でコードを弾きながら右手で鍵盤を弾く

NOTE

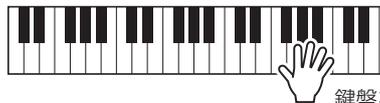
- スタイルの伴奏やリズムを鳴らさなくても、ハーモニーを付けて演奏できます(35ページ)。

● ハーモニータイプ 006 ~ 012 (トリル)



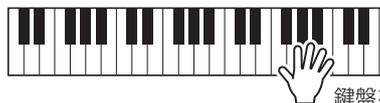
鍵盤を2つ
押さえ続ける

● ハーモニータイプ 013 ~ 019 (トレモロ)



鍵盤を押さえ続ける

● ハーモニータイプ 020 ~ 026 (エコー)



鍵盤を弾く

ハーモニー音量を調節する

ハーモニー音量は、機能設定画面(106ページ、機能番号050)で調節します。

アルペジオ機能を使う

鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ(分散和音)の自動再生ができます。

1 [アルペジオ](ARPEGGIO)ボタンを押します。

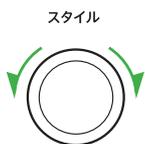
[アルペジオ](ARPEGGIO)ボタンが点灯して、アルペジオ機能がオンになります。

ボイス番号363～402のボイスは、選ぶだけでアルペジオ機能が自動的にオンになり、ボタンが点灯します。それ以外のボイスは、[アルペジオ](ARPEGGIO)ボタンを押して、アルペジオ機能をオンにしてください。オンにすると、選ばれているボイスに最適なアルペジオタイプが自動的に選ばれます。



アルペジオ機能がオンのときに点灯

2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、タイプを選びます。



アルペジオタイプの詳細は、ウェブサイト上の[データリスト](#)をご覧ください。

NOTE

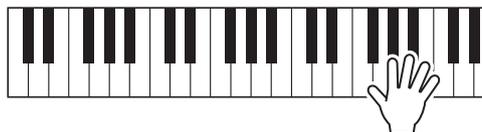
- 117～164番のアルペジオタイプは、各タイプに合うおすすめの声があります。詳しくは、ウェブサイト上の[データリスト](#)をご覧ください。

3 鍵盤を弾いてみましょう。

押さえる鍵盤の数や位置を変えると、再生されるアルペジオ(分散和音)が変わります。

スプリット機能(22ページ)がオンのときとオフのときでは、以下のようにアルペジオが再生されるボイスが異なります。

スプリットオフの場合：



メインボイス/デュアルボイスにアルペジオが自動再生されます。

スプリットオンの場合：

スプリットポイント.....初期設定：F#2/Gb2 (054)



スプリットボイスにのみアルペジオが自動再生されます。

4 もう一度[アルペジオ](ARPEGGIO)ボタンを押すと、アルペジオがオフになります。

NOTE

- ボイス番号393～402のボイスは、アルペジオ機能だけでなく、スプリット機能も自動的にオンになります。この場合、アルペジオはスプリットボイスのみに有効なので、スプリットポイント(22ページ)と、それより左側の鍵盤を押さえてください。
- フットスイッチにアルペジオのホールド機能を割り当てることで、鍵盤から手を離してもアルペジオを鳴らし続けられます。詳しくは、27ページをご覧ください。

アルペジオ再生時のベロシティー (強さ)を設定する

アルペジオのベロシティー (強さ)は、機能設定画面(107ページ、機能番号052)で調節します。

アルペジオとスタイル/ソングの同期タイミングを変更する(アルペジオクオンタイズ)

スタイル/ソングの再生に合わせてアルペジオを鳴らすとき、拍のタイミングに合わせて鍵盤を弾いたつもりでも、多少は前後にずれてしまいます。このときアルペジオの再生は、以下のいずれかのタイミングで同期するよう補正されます。

- Off: 同期しない
- 1/4: 4分音符のタイミングで同期
- 1/8: 8分音符のタイミングで同期
- 1/16: 16分音符のタイミングで同期

この設定項目を「アルペジオクオンタイズ」といいます。アルペジオタイプを選ぶと、自動的に上記のいずれかが設定されますが、変更することもできます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。

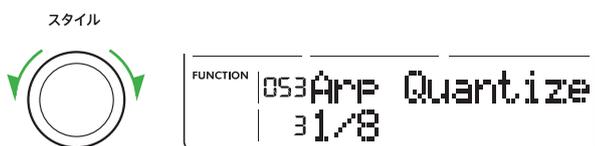


- 2 [Arp Quantize] (機能番号053)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在の設定値が表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、設定値をOff、1/4、1/8、1/16の中から選びます。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。

フットスイッチでアルペジオ再生を持続する(アルペジオホールド)

アルペジオ再生時に鍵盤から指を離しても、[FOOT SWITCH]端子に接続したフットスイッチを踏み続けることで再生が続くよう、設定できます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 [Foot Switch] (機能番号054)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在フットスイッチに割り当てられている機能が表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、[ArpeggioHold]を選びます。



フットスイッチの機能を通常のサステインペダルに戻したいときは、「Sustain」を選びます。アルペジオホールドとサステインを同時に有効にしたいときは、「Sus+ArpHold」を選びます。

- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。

- 5 フットスイッチを使いながら、アルペジオ演奏をしてみましょう。

鍵盤を弾いてアルペジオを鳴らし、フットスイッチを踏みます。鍵盤から指を離してもアルペジオは鳴り続けます。アルペジオを止める場合は、フットスイッチから足を離します。

演奏や再生音に効果を加える

DSP効果を加える

この楽器には、音にデジタル信号処理を施して変化を付けるDSP(デジタルシグナルプロセッサ)が2つ搭載されています(DSP 1、DSP 2)。DSP 1はメインボイスに、DSP 2は指定したパートにDSP効果がかかります。

DSP 1タイプを変更する

DSP 1の効果は、メインボイスを選んだときに最適なタイプが自動的に選ばれますが、以下の操作でお好みのタイプに変更することもできます。

- 1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[DSP 1]ボタンを押して、DSP 1タイプの設定画面を呼び出します。

画面下段に現在のDSP 1タイプが表示されます。

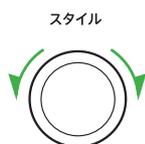


DSP 1 DSP 1タイプ設定画面で点灯



- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、お好みのDSP 1タイプを選びます。

DSP 1タイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(エフェクトタイプリスト)をご覧ください。



- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、DSP 1タイプの設定画面を抜けます。



- 4 鍵盤を弾いて、手順2で選んだDSP 1の効果を確かめましょう。

- 5 もう一度[DSP1]ボタンを押すと、DSP 1がオフになります。

DSP 2の設定をする

DSP 2の効果は、自動的に設定されません。オン/オフ、タイプ、効果を加えるパートを選択して使います。

- 1 [DSP 2]ボタンを押して、DSP 2をオンにします。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[DSP 2]ボタンを押して、DSP 2の設定画面を呼び出します。

画面上段に現在効果がかかるパートが、下段に現在のDSP 2タイプが表示されます。



DSP 2 DSP 2タイプ設定画面で点灯



- 3 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、DSP 2の効果をかけたいパートを選びます。

効果を加えるパートは、以下の中から選びます。

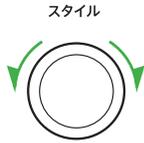


画面表示	効果を加えるパート
1 All	2～5の全パート
2 Keyboard	メイン、デュアル、スプリットボイス
3 Backing	スタイル、ルーパー、ソング再生、MIDI入力
4 Mic	マイク入力
5 Sampling	サンプリングパッド再生

次ページへ続く

4 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みのDSP 2タイプを選びます。

DSP 2タイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト (エフェクトタイプリスト)をご覧ください。



5 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、DSP 2タイプの設定画面を抜けます。



6 手順3で選んだパートを鳴らして、DSP 2の効果がかかっていることを確かめてみましょう。

7 もう一度[DSP 2]ボタンを押すと、DSP 2がオフになります。

NOTE

- ユーザーソング(MIDI)録音時、DSP 1、DSP 2の設定 (タイプ、オン/オフ、効果をかけるパート)はユーザーソングに記録されません。ただし、DSP効果のかかった演奏をオーディオファイルとしてUSBフラッシュメモリーに録音することはできます。
- DSP 1、DSP 2の設定は、レジストレーションメモリーに記録し、呼び出すことができます(69ページ)。
- DSP 1、DSP 2、その他効果の結線図については、111ページをご覧ください。

DSP 動画マニュアル

DSPの使い方を確認できます。

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/dsp/>

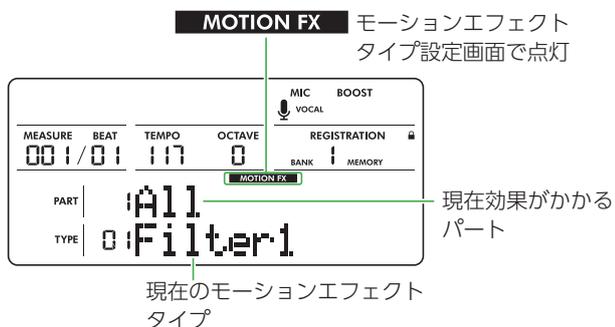
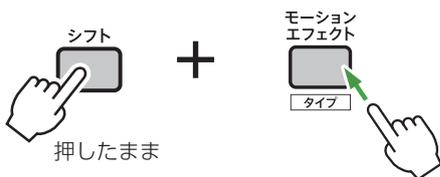
モーションエフェクトを加える

演奏音に動的な効果を加えることができます。
[モーションエフェクト](MOTION EFFECT)ボタンを押している間だけ、効果がかかります。
 モーションエフェクトには、フィルター効果、ピッチ効果、モジュレーション効果など、様々なタイプがあります。どのようなタイプがあるかは、ウェブサイト上の**データリスト**内の「モーションエフェクトタイプリスト」をご覧ください。

モーションエフェクトの設定をする

- 1 **[シフト](SHIFT)**ボタンを押したまま**[モーションエフェクト](MOTION EFFECT)**ボタンを押して、設定画面を呼び出します。

画面上段に効果を加えるパートが、下段にモーションエフェクトタイプが表示されます。



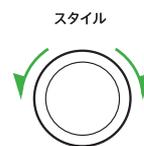
- 2 **[ボイス](VOICE)**ダイヤルを回して、効果をかけたいパートを選びます。



効果を加えるパートは、以下の中から選びます。

	画面表示	効果を加えるパート
1	All	下記の全パート
2	Keyboard	メイン、デュアル、スプリットボイス
3	Style	スタイルの全パート
4	Style Dr	スタイルのリズムパートのみ
5	Style Ac	スタイルの伴奏(ACMP)パートのみ
6	Looper	ルーパー
7	Song	ソングの全トラック
8	Sampling	サンプリングパッド再生
9	KbSampling	メイン、デュアル、スプリットボイス、サンプリングパッド再生

- 3 **[スタイル](STYLE)**ダイヤルを回して、好みのモーションエフェクトタイプを選びます。



効果をかけたいパートを鳴らしながら**[モーションエフェクト](MOTION EFFECT)**ボタンを押して、効果を確認してみましょう。

- 4 **[シフト](SHIFT)**ボタンを押して、設定画面を抜けます。



モーションエフェクト 動画マニュアル

モーションエフェクトの使い方を確認できます。

https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/motion_effect/

リバーブタイプを選ぶ

リバーブは、演奏音にコンサートホールで弾いたような残響音を加える効果です。リバーブタイプは、スタイルやソングを選ぶと、最適なものが自動的に選ばれますが、自分で選ぶこともできます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 画面上段に「Reverb」(機能番号038)が表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在のリバーブタイプが表示されます。

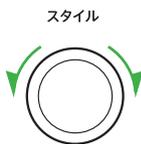


NOTE

- パネル操作では選べないリバーブタイプ(特定のスタイルやソング専用のタイプ)が使われている場合、画面の表示が「---」となることがあります。

- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、お好みのリバーブタイプを選びます。

鍵盤を弾いて音の響きを確認してみましょう。リバーブタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(リバーブタイプ)をご覧ください。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。



リバーブの深さを調節する

メイン/デュアル/スプリットボイスのそれぞれにかかるリバーブの深さを、リバーブタイプ選択と同じ方法で調節できます。手順2で、メインボイスは機能番号010、デュアルボイスは019、スプリットボイスは028を選んで調節します。

コーラスタイプを選ぶ

コーラスは、同時に複数のパートを演奏しているかのような厚みを音に加える効果です。コーラスタイプは、スタイルやソングを選ぶと、最適なものが自動的に選ばれますが、自分で選ぶこともできます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



- 2 画面上段に「Chorus」(機能番号040)が表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在のコーラスタイプが表示されます。

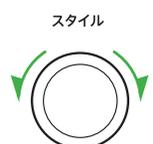


NOTE

- パネル操作では選べないコーラスタイプ(特定のスタイルやソング専用のタイプ)が使われている場合、画面の表示が「---」となることがあります。

- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、お好みのコーラスタイプを選びます。

鍵盤を弾いて音の響きを確認してみましょう。コーラスタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(コーラスタイプ)をご覧ください。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。



コーラスの深さを調節する

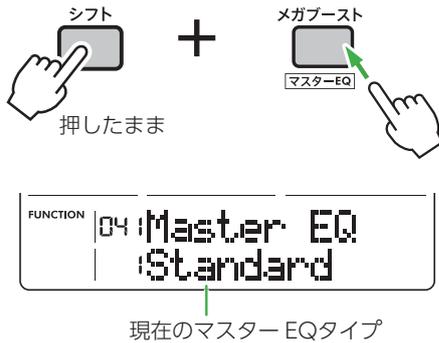
メイン/デュアル/スプリットボイスのそれぞれにかかるコーラスの深さを、コーラスタイプ選択と同じ方法で調節できます。手順2で、メインボイスは機能番号011、デュアルボイスは020、スプリットボイスは029を選んで調節します。

マスター EQを設定してお好みの音にする

本体スピーカーやヘッドホン、外部スピーカーなどで鳴らすサウンドを、お好みの音に設定します。

- 1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[メガブースト](MEGA BOOST)ボタンを押して、設定画面を呼び出します。

画面下段に現在のマスター EQタイプが表示されます。



- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、マスター EQタイプを選びます。



マスター EQタイプ

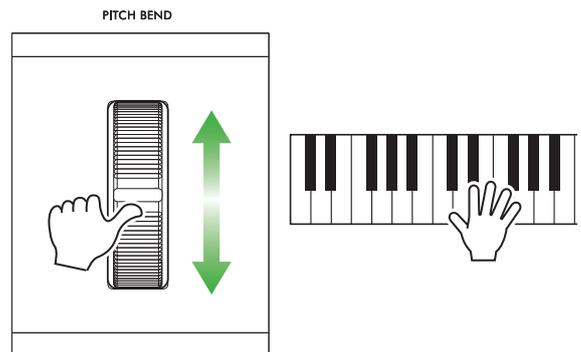
1	Standard	標準的な設定です(初期設定)。
2	Bright 1	高い周波数の音を強調したEQ設定です。明瞭な音になります。1より2の方がより明瞭な音になります。
3	Bright 2	
4	Mellow 1	高い周波数の音をカットしたEQ設定です。聴き心地が優しい音になります。1より2の方がより優しい音になります。
5	Mellow 2	

- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、設定画面を抜けます。



ピッチベンドホイールを使う

鍵盤を弾きながら[ピッチベンド](PITCH BEND)ホイールを上下に動かすと、鍵盤演奏音のピッチ(音高)を滑らかに上げたり下げたりできます。[ピッチベンド](PITCH BEND)ホイールから手を離すと、自動的に中央の位置に戻り、元のピッチに戻ります。フレーズの頭で一時的に半音下げで装飾音を表現したり、発音後にピッチを上げ下げしてギターのコウキン奏法を再現したりできます。



自動伴奏機能を使いながら演奏する(スタイル)

自動伴奏機能(スタイル)とは

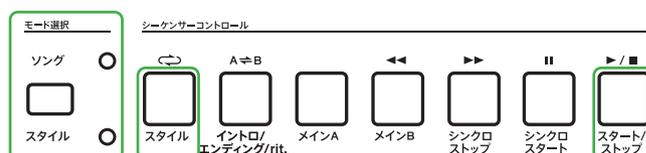
自動伴奏機能(スタイル)とは、さまざまなリズムや指定したコードに合った伴奏(ベースやフレーズ)を、楽器が自動で再生する機能です。楽器が再生する伴奏に合わせて弾くと、1人でもバンドやオーケストラと演奏しているかのような演奏を楽しめます。

■ 自動伴奏機能(スタイル)を使うには

モード選択ボタンで「スタイル」を選んでスタイル側のランプを点灯させます。

■ 伴奏やリズムを再生するには

シーケンサーコントロール [スタート/ストップ] (START/STOP)ボタンを押します。



[スタイル](ACMP)ボタン消灯時

リズムだけが再生されます。全鍵域を演奏用に使えます。

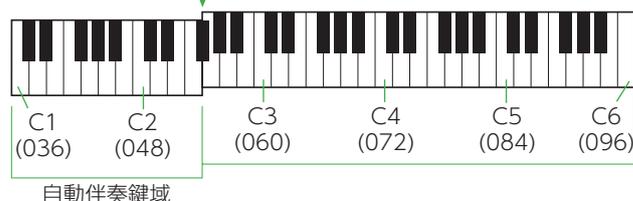
[スタイル](ACMP)ボタン点灯時

スプリットポイントと、それより左側の鍵盤が、コードだけを認識する「自動伴奏鍵域」になります。自動伴奏鍵域でコードを弾いて指定します。

- **コードを指定したとき:** リズムと、コードに合った伴奏が再生されます。
- **コードを指定しなかったとき:** リズムだけが再生されます。

伴奏のバリエーションを変えたり、演奏開始時にイントロをつけたり、終了時にエンディングをつけたりすることもできます(41ページ)。

スプリットポイント.....初期設定 : F#2/Gb2 (054)



● 演奏時のコード指定方法

楽器が伴奏やリズムを再生するためのコード指定方法は以下の3つです。楽器に自動でコードを指定させる方法もあります。自分に合った方法でコードを指定して、伴奏やリズムを再生してみましょう。

自分で鍵盤を弾いてコードを指定する方法

方法	フィンガリングタイプ (36ページ)の設定	必要な操作	特徴
マルチフィンガー	1 マルチフィンガー (初期設定)	• 左手でコードを弾く。	弾きたい曲のコードの構成音を自分ですべて弾いて、コードを指定する方法です。弾きたい曲の調(スタイルキー)の事前設定は不要です。
スマートコード	2 スマートコード	• 事前にスタイルキー (37ページ)を設定する。 • 左手でコードのルート音を弾く。	弾きたい曲のコードのルート音だけを弾いて、コードを指定する方法です。コードのすべての構成音が分からなくてもコードを指定できます。弾きたい曲の調(スタイルキー)の事前設定が必要です。

楽器に自動でコードを指定させる方法

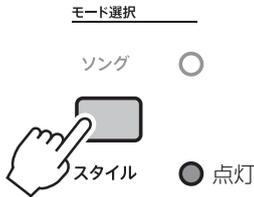
方法	フィンガリングタイプの設定	必要な操作	特徴
オートコードプレイ (38ページ)	不要	• 事前にスタイルキーを設定する。 • オートコードプレイタイプを設定する。	楽器に内蔵、または保存したコード進行をもとに自動でコードを指定させる方法です。自分でコードを弾かなくてもコードを指定できます。弾きたい曲の調(スタイルキー)の事前設定が必要です。

【NOTE】

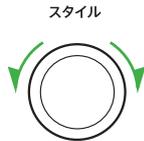
- スタイルキーの設定や、曲の「調」については、37ページをご覧ください。

自分でコードを弾きながら演奏する

1 必要に応じて、モード選択ボタンを押して、スタイルモードにします。



2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、お好みのスタイルを選びます。

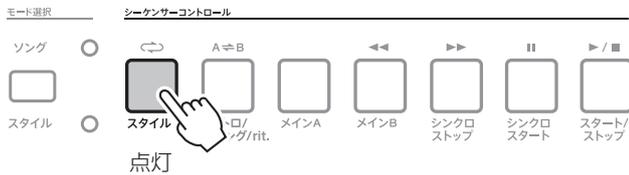


NOTE

- スタイルの番号や名称については、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。
- 内蔵のスタイルと同様に、外部から楽器に読み込んだスタイル(スタイル番号346 ~ 355、46ページ)も選べます。
- ダイヤル以外の選択方法は、13ページをご覧ください。

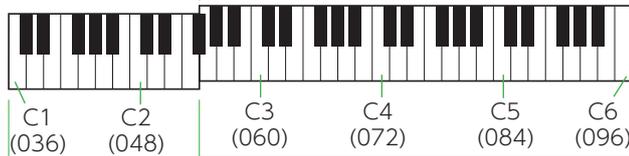
3 シーケンサーコントロールの[スタイル](ACMP)ボタンを押して、スタイル(自動伴奏)をオンにします。

[スタイル](ACMP)ボタンが点灯します。



スプリットポイントと、それより左側の左手鍵域が、コードだけを認識する「自動伴奏鍵域」になります。

スプリットポイント.....初期設定 : F#2/Gb2 (054)



自動伴奏鍵域

スプリットポイントは変更できます。変更するには、[スプリット](SPLIT)ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい音の鍵盤を押します(22ページ)。

4 [スタート/ストップ](START/STOP)ボタン、または[シンクロスタート](SYNC START)ボタンを押します。

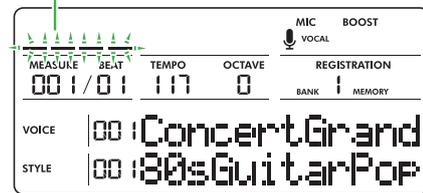
- [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押したとき
リズムパートだけがスタートします。



- [シンクロスタート](SYNC START)ボタンを押したとき
鍵盤を弾くと同時にスタイルがスタートする状態(シンクロスタート)になります。



シンクロスタート待機状態のときに点滅



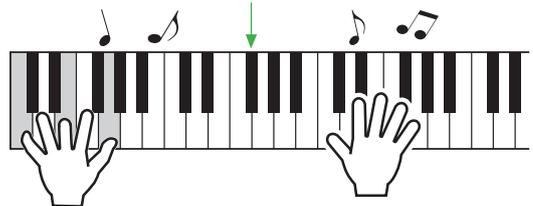
5 自動伴奏鍵域でコードを弾いて、スタイル再生をスタートさせます。

左手でいろいろなコードを弾き、右手でメロディーを弾いてみましょう。

自分でコードを弾くとき、コードを構成する音をすべて弾く方法(マルチフィンガー)と、コードのルート音のみ弾く方法(スマートコード)の2つの方法があります(フィンガリングタイプ、36ページ)。

マルチフィンガーでのコードの弾き方については、44ページをご覧ください。

スプリットポイント



6 [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押して、スタイル再生を終了させます。



リズムパートだけを鳴らす

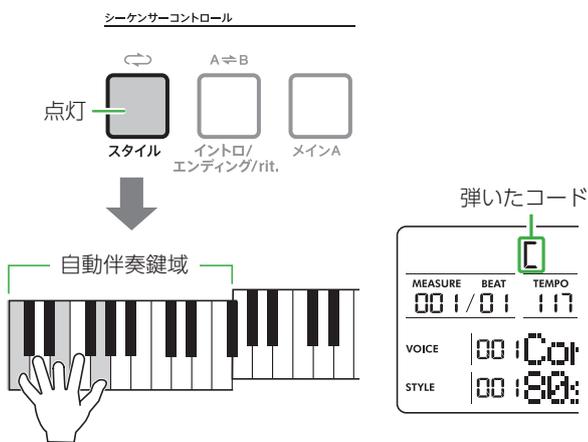
34ページの手順3で[スタイル](ACMP)ボタンを押さずに、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すと、リズムパートだけを鳴らして、全鍵域でメロディー演奏ができます。

NOTE

- [スタイル](ACMP)ボタンが点灯していると、リズムパート以外のパートも鳴ります。[スタイル](ACMP)ボタンを押して消灯してから、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押してください。
- リズムデータを含まない一部のスタイルでは、リズムだけを鳴らそうとしたときに音が鳴りません。この場合、スタイル(自動伴奏)をオンにして、自動伴奏鍵域でコードを弾くと、伴奏が再生されます。

スタイルを鳴らさずにコードを指定する

34ページの手順4で[スタート/ストップ](START/STOP)ボタン、または[シンクロスタート](SYNC START)ボタンを押さずに自動伴奏鍵域でコードを弾くと、スタイルのコード音だけが鳴ります。弾いたコードは画面に表示されます。



この状態でハーモニーをオンにして(25ページ)、ハーモニータイプ001～005を選ぶと、右手鍵域で弾いた演奏音にハーモニーがつきます。

スタイルの音量を調節する

スタイルの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定画面(105ページ、機能番号030)で調節します。

スタイルのテンポを調節する

16ページ「テンポを調節する」をご覧ください。

スタイルのテンポを固定する(テンポロック)

スタイルを切り替えたとき、切り替えたあとのスタイル再生のテンポを、切り替える前のテンポのままに固定することができます。あらかじめ設定しておいたテンポで、複数のスタイルを切り替えながら再生したい場合などに便利です。

詳しくは、機能設定の「テンポロック」(103ページ、機能番号001)の説明をご覧ください。

コードを自分で弾くときのコードの指定方法を設定する(フィンガリングタイプ)

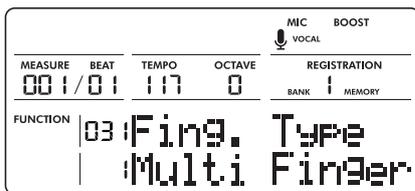
スタイルを再生するとき、自動伴奏鍵域(33ページ)でコードを指定する方法をフィンガリングタイプと呼びます。次の2つのフィンガリングタイプから選べます。

- **マルチフィンガー (Multi Finger) (初期設定)**
自動伴奏鍵域でコードを構成する音をすべて弾いてコードを指定する方法です。ただし、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスは、鍵盤を1～3個だけ押さえて指定することもできます(44ページ)。マルチフィンガーのときのコードの弾き方は、44ページをご覧ください。
- **スマートコード(Smart Chord)**
コードのルート音(根音)だけを弾いて自動伴奏を鳴らす指定方法です。スマートコードで自動伴奏を行うには、事前に演奏する曲の調に合わせてスタイルキー (機能番号032、37ページ)を設定する必要があります。スマートコードのときにルート音を弾いて再生されるコードの詳細は、45ページをご覧ください。

- 1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、オートコードプレイ[オン/オフ](AUTO CHORD PLAY [ON/OFF])ボタンを押します。

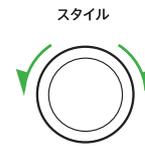


フィンガリングタイプ設定画面が呼び出されます。



現在のフィンガリングタイプ

- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、「Multi Finger」または「Smart Chord」を選びます。



- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、フィンガリングタイプ設定画面から抜けます。



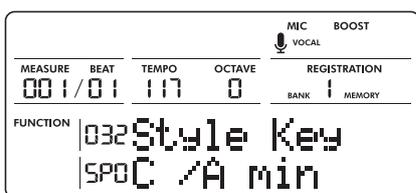
スタイルキーを設定する (オートコードプレイ/スマートコード)

フィンガリングタイプをスマートコードに設定した場合、またはオートコードプレイ(38ページ)でコードを指定する場合は、演奏前に弾きたい曲のキー(調)に合わせてこの楽器のスタイルキーを設定します。曲のキーは、楽譜に記載されたシャープ(#)やフラット(b)の数から判断します(45ページ)。

- 1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、オートコードプレイ[選択](AUTO CHORD PLAY [SELECT])ボタンを押します。

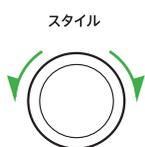


スタイルキー設定画面が呼び出されます。



現在のスタイルキー

- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、楽譜に合ったスタイルキーを設定します。



たとえば、下記の楽譜を弾きたい場合は、スタイルキーを「FL2(フラットb2個) Bb/G min」に設定します。



- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、スタイルキー設定画面から抜けます。



曲のキー(調)とは

曲の「調」とは、その曲がどの音を主音(基準となる音)とし、長調か短調のどちらの音階に基づいて構成されているかを示すものです。

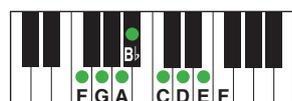
楽譜から調を判断するには、調号を見ます。調号とは、どの音にシャープやフラットをつけるかを示すものです。調によって使われる音階が異なるため、調が変わると、主に弾く鍵盤(白鍵と黒鍵の組み合わせ)が変わります。

【例】

ハ長調(調号なし)のとき



ヘ長調(フラット1個)のとき



このように、調によって弾く鍵盤が異なります。たとえば、Bの音について、ハ長調はそのままBの音を弾きますが、ヘ長調ではBbを弾きます。

フィンガリングタイプをスマートコードに設定した場合、調によって異なる音階(鍵盤の組み合わせ)に対応した伴奏を再生するために、「スタイルキー」の設定を弾きたい曲の調に合わせる必要があります。

下記は、ヘ長調の楽譜です。ヘ長調の楽譜にはフラットが1つ付いています。この場合、スタイルキーは「FL1(フラット1個) F /D min」に設定します。これにより、楽器がヘ長調に合った伴奏を再生できるようになります。



スタイルキー設定画面

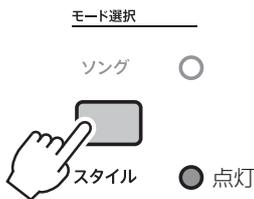


オートコードプレイ(38ページ)を使い、楽器に自動でコードを指定させる場合も、スタイルキーの設定が必要です。スタイルキーを設定すれば、設定した調に合った音でコード進行が再生されます。

楽器に自動でコードを再生させて演奏する (オートコードプレイ)

オートコードプレイは、コードを自分で弾くことなく、楽器に自動でコードを再生させる機能です。コード名が画面に表示されるので、コード進行を覚えたり、伴奏に合わせて右手でメロディーを弾いたりしてみましょう。

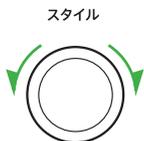
- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、スタイルモードにします。



- 2 オートコードプレイ [オン/オフ](AUTO CHORD PLAY [ON/OFF])ボタンを押して **AUTO** アイコンを点灯させます。

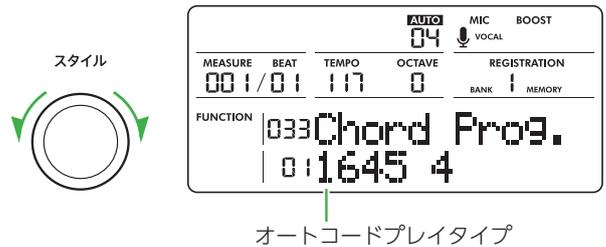


- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みのスタイルを選びます。



- 4 お好みのコード進行のオートコードプレイタイプを選びます。

オートコードプレイ[選択](AUTO CHORD PLAY [SELECT])ボタンを押して機能設定画面(105ページ、機能番号033)を表示させ、[スタイル](STYLE)ダイヤルを選びます。



内蔵されているオートコードプレイタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリストの「オートコードプレイタイプリスト」をご覧ください。

- 5 [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押します。

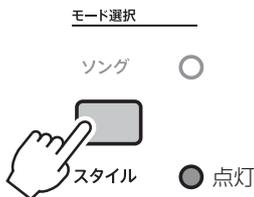
コードが自動的に進行し、そのコードに合った伴奏が鳴ります。



オートコードプレイのコード進行を編集する

弾きたい曲に合うオートコードプレイタイプがない場合、コード進行を編集できます。

- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、スタイルモードにします。



- 2 オートコードプレイ [オン/オフ](AUTO CHORD PLAY [ON/OFF])ボタンを押して **AUTO** アイコンを点灯させます。



- 3 編集したいオートコードプレイタイプを選びます。

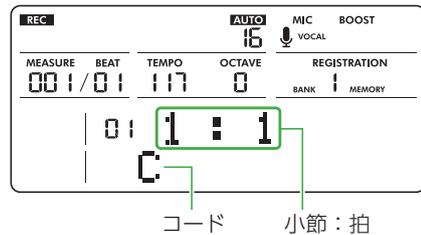
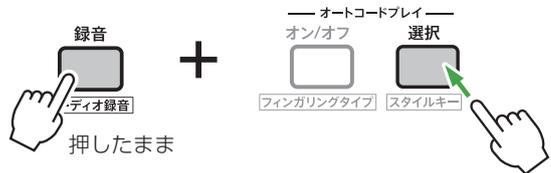
オートコードプレイ[選択](AUTO CHORD PLAY [SELECT])ボタンを押して機能設定画面(105ページ、機能番号033)を表示させ、[スタイル](STYLE)ダイヤルで選びます。

94 ~ 100のオートコードプレイタイプは、すべての小節のすべての拍にコードが設定されているので、お好みのコード進行に編集するとき便利です。



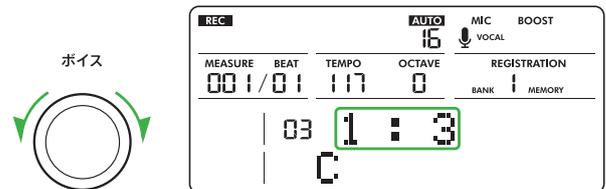
- 4 [録音](REC)ボタンを押したまま、オートコードプレイ[選択](AUTO CHORD PLAY [SELECT])ボタンを押して、コード進行編集画面を呼び出します。

選択中のオートコードプレイタイプをもとに、編集画面が表示されます。

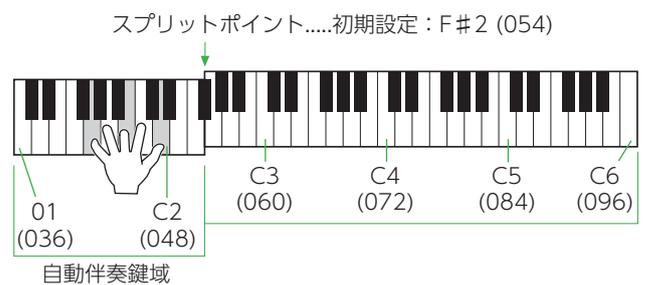


(この画面は、1小節目の1拍目を意味しています。)

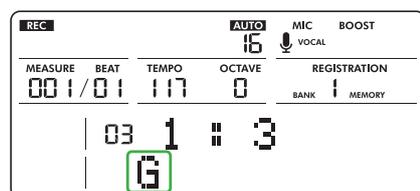
- 5 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、別のコードに変えたいコードがある小節と拍を選択します。



- 6 自動伴奏鍵域の鍵盤を押して、お好みのコードを指定します。



手順5で選択した小節、拍のコードが、指定したコードに変わります。

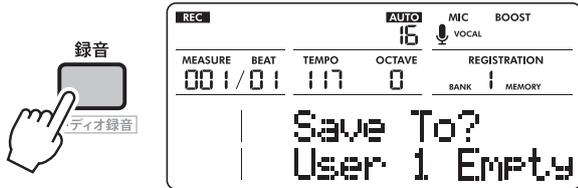


次ページへ続く

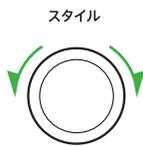
7 手順5、手順6をくり返して、お好みのコード進行を完成させます。

8 [録音](REC)ボタンを押して、手順5、手順6で変更したコード進行の保存先選択画面を表示させます。

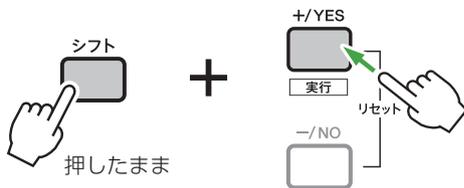
画面下段に、コード進行保存先のオートコードプレイタイプ名が表示されます。
保存先にまだ何もコード進行が保存されていない場合、右側に「Empty」と表示されます。



9 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、コード進行の保存先を選びます。



10 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[+/YES]ボタンを押して、変更したコード進行を保存します。



画面に「Writing!」と表示され、コード進行が保存されます。

11 保存したコード進行のオートコードプレイタイプを選び、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押して、確認してみましょう。

保存したコード進行が再生されます。想定と違う結果の場合は、編集をやり直し、上書き保存するか、別の保存先に保存してください。

NOTE

- コード編集時と再生時でスタイルキー (37ページ)が違くと、編集時とは違うコードで再生されます。たとえば、スタイルキーがSP0からSP1に変わると、Cに設定したコードがGに変わります。

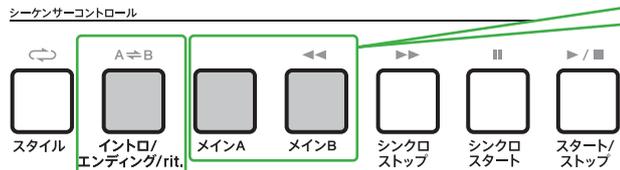
オートコードプレイ 動画マニュアル

オートコードプレイを使った演奏例やコード進行編集を確認できます。

https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/auto_chord_play/

スタイル再生に変化をつける

スタイルには、イントロ、メインA/B(フィルイン)、エンディングのセクション(伴奏パターン)があります。通常再生されるのはメインA/Bセクションですが、セクションを切り替えることで、演奏に変化をつけられます。



● メインA/B(フィルイン):

[メインA](MAIN A)または[メインB](MAIN B)ボタンを押すと、ほかのセクションボタンを押すまで、くり返し再生されます。再生中に、もう一方のボタンを押してメインセクションを切り替えると、2つのセクションの間に自動的にフィルイン(装飾伴奏)が挿入されます。

● イントロ:

スタイル再生停止中に[イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押すと、演奏開始時に自動でイントロが再生されます。イントロ再生が終了すると、自動的にメインAまたはメインBに切り替わります。

● エンディング:

スタイル再生中に[イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押すと、演奏終了時に自動でエンディングが再生されます。エンディングの再生終了と同時にスタイル再生も終了します。エンディング再生中にもう一度[イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押すと、リタルダンドして(だんだん遅くなって)スタイル再生が終了します。

セクションを使った演奏例

- 1 モード選択(MODE SELECT)ボタンを押してスタイルモードにします。
- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルでお好みのスタイルを選びます。
- 3 [スタイル](ACMP)ボタンを押します。
- 4 [イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押します。
- 5 [メインA](MAIN A)ボタンを押します。
- 6 [シンクロスタート](SYNC START)ボタンを押します。

これでイントロから再生を開始する準備が整います。

● スタイル再生開始時

- 7 自動伴奏鍵域(34ページ)でコードを弾きます。

NOTE

- オートコードプレイ(38ページ)を使う場合は、オートコードプレイ[オン/オフ](AUTO CHORD PLAY [ON/OFF])ボタンを押したあと、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押してスタートします。

● スタイル再生中

- 8 [メインB](MAIN B)ボタンを押します。

フィルインが入ったあと、メインAからメインBの再生に切り替わります。

● スタイル再生終了時

- 9 [イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押します。

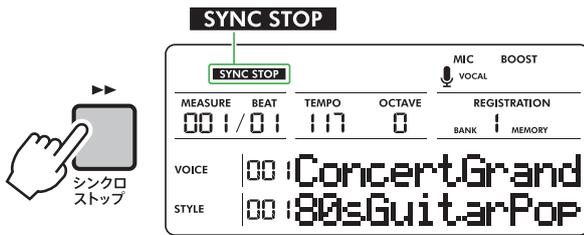
エンディングが再生されます。

エンディング再生終了と同時に、スタイル再生も終了します。

スタイルのシンクロストップを使う

[シンクロストップ](SYNC STOP)ボタンを押してシンクロストップ機能をオンにすると、自動伴奏鍵域でコードを押さえている間だけスタイルが鳴り、鍵盤から指を離すとスタイル再生が止まります。

[シンクロストップ](SYNC STOP)ボタンをもう一度押すとオフになります。

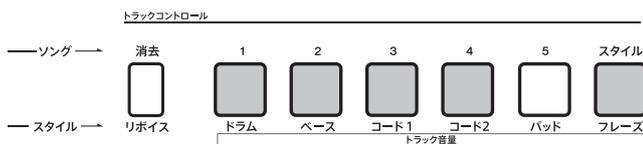


NOTE

- この機能は、スタイル(自動伴奏)がオンで、シーケンサーコントロール[スタイル](ACMP)ボタンが点灯しているときに使えます。

スタイルのトラックをオン/オフする

スタイルは複数のトラックで構成されています。特定のトラックだけを鳴らしたり、ミュートしたりするには、対応するトラックコントロール(TRACK CONTROL)のボタンでトラックをオン/オフします。



各トラックのボタンが点灯しているかどうかでオン/オフを確認します。

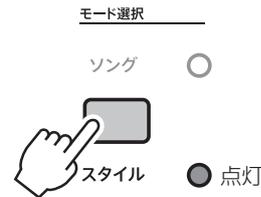
NOTE

- 複数のボタンを同時に押すと、2つのトラックまでまとめてオン/オフされます。
- 一部のスタイルでは、音のないトラックのトラックコントロールボタンが点灯する場合があります。

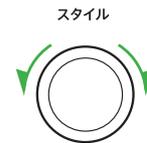
スタイルの各トラックの音量を調節する

スタイルのトラックごとに音量を調節できます。内蔵のスタイルだけでなく、外部から楽器に取り込んだスタイル(スタイル番号346 ~ 355、46ページ)も、トラックごとに音量調節できます。

1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、スタイルモードにします。

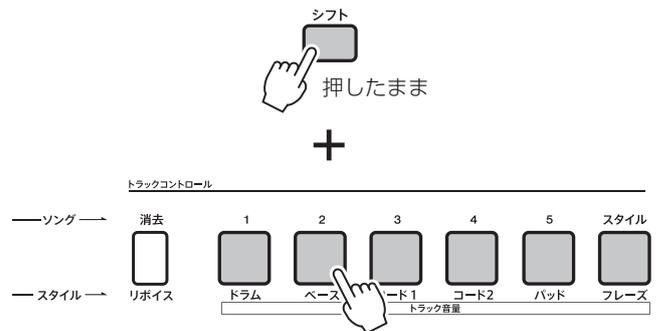


2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みのスタイルを選びます。



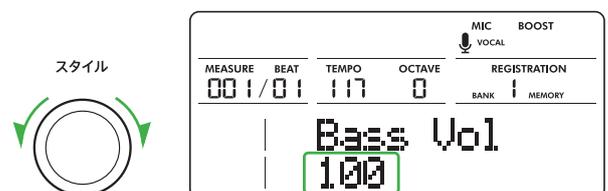
3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、音量調節したいトラックのトラックコントロール(TRACK CONTROL)ボタンを押します。

スタイルトラック音量設定画面が表示されます。



4 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みの音量に設定します。

初期設定：100
設定範囲：0 ~ 127



スタイルを構成するパートのボイスを変更する(スタイルリボイス)

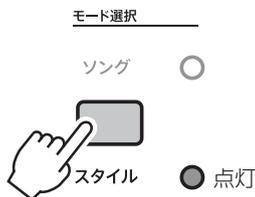
スタイルは下記のように6つのトラックで構成され、各トラックの中にパートが1つか2つ含まれています。この楽器では、スタイルを構成する各パート(ドラム、ベースなど)のボイスを変更することができます。

トラック	パート	パート名表示
ドラム(DRUMS)	Drum1	Drum1 Voice
	Drum2	Drum2 Voice
ベース(BASS)	Bass	Bass Voice
コード1(CHORD 1)	Chord1	Chord1 Voice
コード2(CHORD 2)	Chord2	Chord2 Voice
パッド(PAD)	Pad	Pad Voice
フレーズ(PHRASES)	Phrase1	Phrase1Voice
	Phrase2	Phrase2Voice

NOTE

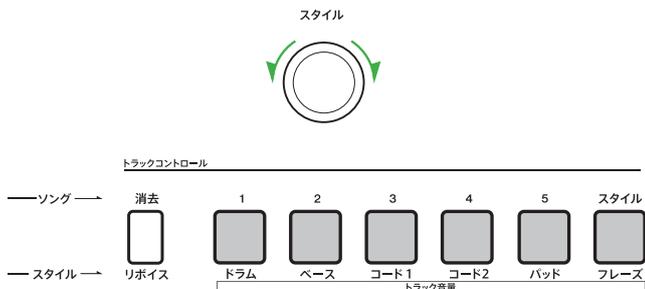
- スタイルによって、上記の中のどのパートを含むかは異なります。

1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、スタイルモードにします。



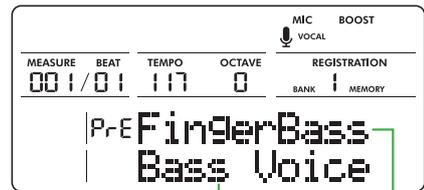
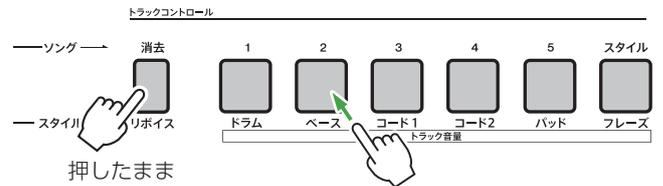
2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、好みのスタイルを選びます。

選んだスタイルに含まれているトラックのトラックコントロール(TRACK CONTROL)のボタンが点灯します。



スタイルに含まれているトラックのボタンが点灯

3 [リボイス](REVOICE)ボタンを押したまま、ボイスを変更したいパートを含むトラックのボタンを押します。



現在のボイス名
ボイスを変更するパート

NOTE

- ボイスが元のままの場合は、ボイス名の左に「PrE」と表示されます。
- トラックにパートが2つ含まれる場合は、手順3の操作でそのトラックの1番目のパートの設定画面が呼び出されます。2番目のパートのボイスを変更する場合は、もう一度手順3の操作を行います。

4 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、好みのボイスを選びます。



5 スタイルを再生してボイスを確認します。

NOTE

- ボイスの変更は一時的なもので、スタイルを選び直すと元に戻ります。設定を保存して後で呼び出したい場合は、レジストレーションメモリー機能(69ページ)を使います。
- 手順4で選べるボイスは、メインボイスで使える効果(DSP1、ハーモニー/アルペジオなど)も含めて個別のボイスとして扱われています。しかし、スタイルの各パートでは、その効果を取り除いた状態で使われます。その違いの影響で、見かけ上は手順4で選んだものと異なる表示になることがありますが、実際は選んだものと同じボイスが使われます。

マルチフィンガーでのコードの弾き方

フィンガリングタイプ(36ページ)を「マルチフィンガー」に設定したときのコードの弾き方を紹介します。ほかにもたくさんコードがありますので、もっと詳しく知りたい場合は、市販のコード表などをご参照ください。

★がルート音(根音)です。

メジャー	マイナー	セブンス	マイナーセブンス	メジャーセブンス
C 	Cm 	C7 	Cm7 	CM7
D 	Dm 	D7 	Dm7 	DM7
E 	Em 	E7 	Em7 	EM7
F 	Fm 	F7 	Fm7 	FM7
G 	Gm 	G7 	Gm7 	GM7
A 	Am 	A7 	Am7 	AM7
B 	Bm 	B7 	Bm7 	BM7

コードとして成立しない鍵盤が押された場合、「コード指定無し」の状態になります。このとき、画面にコード名は表示されず、スタイル演奏は、一部のパートのみ(リズムなど)になります。

NOTE

- 上記の表にないコード(m7♭5など)も指定できます。
- 各コードは、転回形で弾いても指定できます。
- 以下のコードは、転回形で弾いても正しく指定できません。
m7、m7♭5、m7(11)、6、m6、sus4、aug、dim7、7♭5、6(9)、sus2
- 7sus4 は転回形で弾いても指定できますが、一部を省略した転回形は使えません。

メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスは、鍵盤を1～3個だけ押さえて弾くこともできます。

《簡単な押さえ方 Cの例》



C
メジャー (M)

ルート音(★)を押さえてください。



Cm
マイナー (m)

ルート音と、ルート音に一番近い左側の黒鍵を同時に押さえてください。



C7
セブンス(7)

ルート音と、ルート音に一番近い左側の白鍵を同時に押さえてください。



Cm7
マイナーセブンス(m7)

ルート音と、ルート音に一番近い左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえてください。

スマートコードで指定されるコード

フィンガリングタイプがスマートコードの場合、楽譜の調号に基づきスタイルキーを設定(37ページ)すると、自動伴奏鍵域でルート音の鍵盤を押したときに以下のようにコードが指定されます。

楽譜の調号	スタイルキー	ルート音											
		C#/D♭		D#/E♭		F#/G♭		G#/A♭		A#/B♭			
		C	D	E	F	G	A	B					
	FL7 C♭/A♭ min	Cdim	D♭m	Ddim7	E♭1+5	E	Fdim	G♭7	G	A♭m	A	B♭m7♭5	B
	FL6 G♭/E♭ min	Cdim	D♭7	D	E♭m	E	Fm7♭5	G♭	Gdim	A♭m	Adim7	B♭1+5	B
	FL5 D♭/B♭ min	Cm7 ♭5	D♭	Ddim	E♭m	Edim7	F1+5	G♭	Gdim	A♭7	A	B♭m	B
	FL4 A♭/F min	C1+5	D♭	Ddim	E♭7	E	Fm	G♭	Gm7♭5	A♭	Adim	B♭m	Bdim7
	FL3 E♭/C min	Cm	D♭	Dm7♭5	E♭	Edim	Fm	F♯dim7	G1+5	A♭	Adim	B♭7	B
	FL2 B♭/G min	Cm	C♯dim7	D1+5	E♭	Edim	F7	G♭	Gm	A♭	Am7♭5	B♭	Bdim
	FL1 F/D min	C7	D♭	Dm	E♭	Em7♭5	F	F♯dim	Gm	G♯dim7	A1+5	B♭	Bdim
	調号0個 SP0 C/A min (初期設定)	C	C♯dim	Dm	D♯dim7	E1+5	F	F♯dim	G7	A♭	Am	B♭	Bm7♭5
	SP1 G/E min	C	C♯dim	D7	E♭	Em	F	F♯m7♭5	G	G♯dim	Am	A♯dim7	B1+5
	SP2 D/B min	C	C♯m7♭5	D	D♯dim	Em	Fdim7	F♯1+5	G	G♯dim	A7	B♭	Bm
	SP3 A/F♯ min	Cdim7	C♯1+5	D	D♯dim	E7	F	F♯m	G	G♯m7♭5	A	A♯dim	Bm
	SP4 E/C♯ min	C	C♯m	D	D♯m7♭5	E	Fdim	F♯m	Gdim7	G♯1+5	A	A♯dim	B7
	SP5 B/G♯ min	Cdim	C♯m	Ddim7	D♯1+5	E	Fdim	F♯7	G	G♯m	A	A♯m7♭5	B
	SP6 F♯/D♯ min	Cdim	C♯7	D	D♯m	E	Fm7♭5	F♯	Gdim	G♯m	Adim7	A♯1+5	B
	SP7 C♯/A♯ min	Cm7♭5	C♯	Ddim	D♯m	Edim7	F1+5	F♯	Gdim	G♯7	A	A♯m	B

NOTE

- 「1+5」のコードは、楽器の画面では、メジャーと同じ表示になります。
- コード名は楽器の画面表示のもので、一部市販楽譜の表記と異なります。

外部で作られたスタイルファイルを読み込む

スタイル番号346 ~ 355のいずれかに、外部で作られたスタイルファイル(.sty)を読み込み、内蔵スタイルと同じように演奏できます。

読み込み(ロード)の方法は以下の2種類があります。

- USBフラッシュメモリーのルートに保存してあるスタイルファイル(.sty)を読み込む。
- コンピューターから楽器の内蔵メモリーに転送したスタイルファイル(.sty)を読み込む。

ここでは、USBのフラッシュメモリーから読み込む方法を紹介します。

コンピューターからスタイルファイルを転送する方法は99ページをご覧ください。転送したあとに、以下の手順2~7を行い、この楽器に読み込みます。

ご注意

- USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。
- スタイルファイルを読み込むと、読み込み先のスタイル番号にあった既存のデータは上書きされ、消去されます。大切なデータは、別ファイルとして保存しておきましょう。

1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。

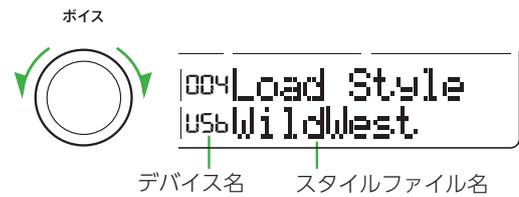


2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



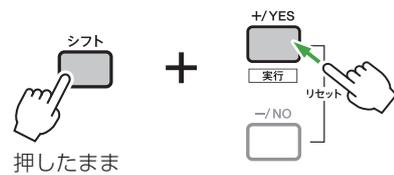
3 「Load Style」(ファイルコントロール操作番号004)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、読み込みたいファイルのファイル名と、そのファイルを保存したデバイス名が表示されます。必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して読み込みたいスタイルファイルを選びます。



4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に、読み込み先のスタイル番号が「***Load To?」(***は346 ~ 355の数字)と表示されます。別の番号に読み込みたいときは、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して番号を選びます。

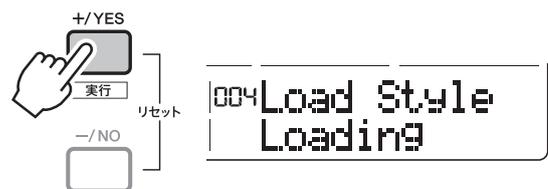


5 もう一度[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に、読み込みの実行を確認する「Load OK?」が表示されます。読み込みを中止する場合は、[- / NO]ボタンを押します。

6 [+ / YES]ボタンを押して、読み込みを実行します。

実行中は、画面下段に「Loading」と表示されます。



読み込みが完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。

ご注意

- 読み込み中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

7 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

8 読み込んだスタイルを選び、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押して、再生してみましょう。

ノブを回して演奏音を変化させる

2つのノブを回すことで、演奏音にさまざまな効果をかけ、音の印象を変化させることができます。

ノブを使う

ここでは、初期設定で2つのノブに割り当てられている機能を使った例を紹介します。

1 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、鍵盤で鳴らすボイスを選びます。

例として、ボイス番号256「Gemini」を選びます。



2 [アサイン](ASSIGN)ボタンを押します。

画面上段にノブで音を変化させるパートが、画面下段に現在ノブ[A]、[B]に割り当てられている機能が表示されます。



音を変化させるパートや、ノブに割り当てる機能を変える方法は、[48ページ](#)をご覧ください。

3 鍵盤を演奏しながら、ノブ[A]や[B]を回してみましょう。

アナログシンセサイザーのような雰囲気を楽しむことができます。

おすすめの使い方

対象パートが「1 Keyboard(キーボード)」のとき

1	カットオフ/レゾナンス	ボイス番号256「Gemini」や287「Noise」を選びます。鍵盤を演奏しながらノブ[A]や[B]を回すと、アナログシンセサイザーのような雰囲気を楽しむことができます。
2	リバーブ/コーラス	ボイス番号013「CP80」を選びます。ノブ[A]、ノブ[B]を最も左に回すことで、エフェクトがかかっていない音にできます。ノブ[B]を右に回していくと、音がうねるようなコーラス効果が徐々にかかります。また、ノブ[A]を右に回すと、ホールで弾いているようなリバーブ効果がかかります。
3	メイン/デュアル	デュアルをオンにしておきます。ボイス番号014「Piano&Strs」を選びます。ノブ[A]でメイン音量(Piano)を調節して、ノブ[B]でデュアル音量(Strings)を調節します。メインとデュアルの音量をそれぞれ調節して、バランスを変えることができます。
4	DSP1	ボイス番号049「JazzLight」を選びます。DSP1タイプ設定画面(28ページ)で、DSP1タイプを「01 D RotSpSlow」に設定します。鍵盤を弾きながら、ノブ[A]でロータリースピーカーの回転速度を変えてみましょう。ゆっくり動かすと本物のロータリースピーカーのように徐々に回転速度が変わる効果を楽しめます。ノブ[B]では各ロータリースピーカーの音量バランスを変えることができます。

対象パートが「2 Backing(バックング)」のとき

1	カットオフ/レゾナンス	スタイル番号131「MainFloor」や132「TranceElctro」を選びます。スタイルを演奏しながらノブ[A]や[B]を回すと、DJのような演奏を楽しむことができます。
2	リバーブ/コーラス	スタイル番号035「6/8ChartBld」や073「SoulR&B」を選びます。ノブ[A]、ノブ[B]を最も左に回すことで素の音にできます。ノブ[B]を右に回していくと、音がうねるようなコーラス効果が徐々にかかります。また、ノブ[A]を右に回すと、ホールで弾いているような残響効果がかかります。

対象パートが「3 System(システム)」のとき

	DSP2	スタイル番号068「DancePop2」を選び、DSP2をOnにします。DSP2タイプは、設定画面(28ページ)で「12 CrossDelay」を選びます。スタイルを演奏しながら、ノブ[A]でフィードバック、ノブ[B]でディレイタイムを調整することで、ディレイのかかり具合を変えることができます。音がいくつも重なって不自然に聞こえる場合は、ノブ[A]を左に回してください。
--	------	--

ノブの設定をする

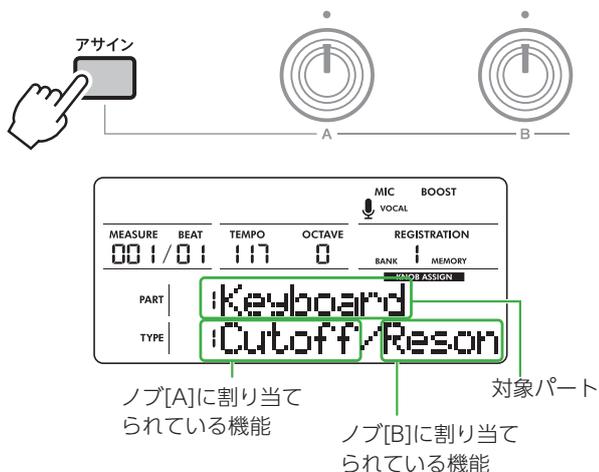
ノブを回して音を変化させるパートや、ノブに割り当てたい機能を選びます。

下表のとおり、パートごとに、割り当てられる機能や効果の対象が異なります。機能の対象は、パートと機能によって自動的に決まります。

対象パート	機能(ノブA/ノブB)	機能の対象
1 Keyboard	1 Cutoff/Resonance	メインボイス、デュアルボイス
	2 Reverb/Chorus	メインボイス、デュアルボイス
	3 Main/Dual Volume	メイン音量： メインボイス デュアル音量： デュアルボイス
	4 DSP1 Parameter A/B	メインボイス
2 Backing	1 Cutoff/Resonance	スタイル
	2 Reverb/Chorus	スタイル
	3 Tempo/ Volume Balance	テンポ：スタイル 音量バランス：スタイル、ソング、外部からのオーディオ入力音
3 System	DSP2 Parameter A/B	DSP2設定画面で指定したパート (28ページ)

ノブに割り当てられる各機能の詳細は、49ページをご覧ください。

1 [アサイン](ASSIGN)ボタンを押して、設定画面を表示させます。



2 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、対象パートを選びます。

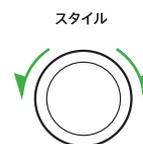
初期設定：1 Keyboard(キーボード)



3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、ノブに割り当てたい機能を選びます。

割り当てられる各機能の詳細は、49ページをご覧ください。

初期設定：1 Cutoff/Resonance(カットオフ/レゾナンス)



NOTE

- 割り当てる機能を変えただけでは、ノブの位置が中央でなくても、演奏音に変化はつきません。ノブを回して初めて設定値の変化が反映されます。
- パネル設定やノブの動かし方によっては、ノブを回しても効果がわかりにくかったり、ノイズが出たりなど、意図と異なる動作をする場合があります。
- DSP1効果には、機能を割り当ててノブを回しても、変化しないものもあります。

4 ノブを回しながら、音の変化を確認してみましょう。

ノブ 動画マニュアル

ノブの使い方を確認できます。

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/knobs/>

ノブに割り当てられる機能

ノブに割り当てられる各機能について説明します。

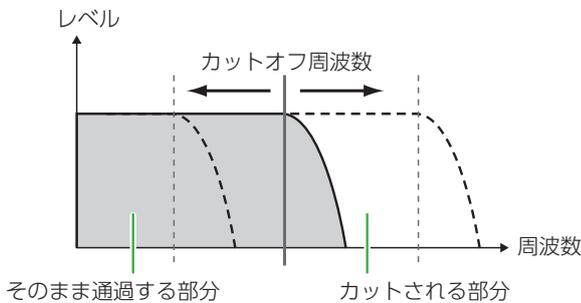
対象パートが「1 Keyboard(キーボード)」のとき

1 Cutoff/Resonance (カットオフ/レゾナンス)

特定の周波数帯域より上の音声信号をカットしたり、レゾナンス効果でくせのある音を作ったりして、音質を変化させる機能です。シンセサイザーのような電子的サウンドを作り出してみましょう。

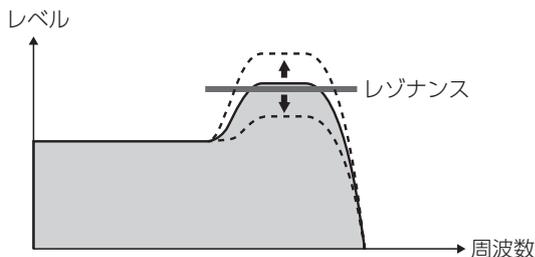
● ノブ[A] : Cutoff

フィルターのカットオフ周波数(どの周波数帯の信号以上をカットするか)を設定して、音の明るさを調整します。右に回すほど明るい音になります。



● ノブ[B] : Resonance

レゾナンス(カットオフ周波数近くの音声信号を持ち上げ、音にクセをつける)効果を増減します。右に回すほどクセのある音になります。



2 Reverb/Chorus (リバーブ/コーラス)

● ノブ[A] : Reverb

リバーブは、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような臨場感を得られる機能です。右に回すほど、効果が深くなります。

● ノブ[B] : Chorus

コーラスは、同時に複数のパートを演奏しているような厚みを得られる機能です。右に回すほど、効果が深くなります。

3 Main/Dual Volume (メイン/デュアル音量)

● ノブ[A] : Main Volume

● ノブ[B] : Dual Volume

ノブ[A]でメインボイスの、ノブ[B]でデュアルボイスの音量を調節できます。右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。

4 DSP1 Parameter A/B (DSP1 パラメーター A/B)

メインボイスにかかるDSP1の効果をコントロールできます。各効果ごとに、ノブ[A]と[B]に1つずつ、合計2つのパラメーターが割り当てられています。

対象パートが「2 Backing(バックিং)」のとき

1 Cutoff/Resonance (カットオフ/レゾナンス)

機能の詳細は、左記の「1 Cutoff/Resonance」をご覧ください。

2 Reverb/Chorus (リバーブ/コーラス)

機能の詳細は、左記の「2 Reverb/Chorus」をご覧ください。

3 Tempo/Volume Balance (テンポ/音量バランス)

● ノブ[A] : Tempo

右に回すとスタイル再生テンポが早くなり、左に回すと遅くなります。

● ノブ[B] : Volume Balance

右に回すと伴奏音(スタイル、ソング)の音量を下げ、左に回すと外部からの入力音([USB TO HOST]端子、[AUX IN]端子)の音量を下げます。これを使って、伴奏音と外部入力音の音量バランスや、伴奏音や外部入力音と鍵盤演奏やクイックサンプリングパッド再生音との音量バランスを調節できます。

NOTE

- オーディオループバック(機能番号070)がオフのときは、[USB TO HOST]端子に接続した外部機器からのオーディオ入力音の音量は調節できません。

対象パートが「3 System(システム)」のとき

DSP2 Parameter A/B (DSP2 パラメーター A/B)

DSP2設定画面で指定したパート(28ページ)にかかる効果をコントロールできます。各効果ごとに、ノブ[A]と[B]に1つずつ、合計2つのパラメーターが割り当てられています。

スケールチューン(音律)に関する設定をする

この楽器では、ピアノなどの楽器と同じように、各鍵盤のピッチ(音高)が平均律であらかじめ調整されています。演奏したいジャンルや目的に応じて、平均律以外の音律に設定することもできます(鍵盤演奏音のみ)。

プリセットの音律を選ぶ

この楽器にあらかじめ搭載されている音律の中から好きな音律を選びます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面に入ります。



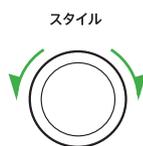
- 2 「Scale」(機能番号055)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在の音律が表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して音律を選びます。

初期設定: 1Equal



音律一覧

1	Equal	平均律
2	Pure Major	純正律長調
3	Pure Minor	純正律短調
4	Bayat	アラブ音律
5	Rast	アラブ音律

- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して機能設定画面から抜けます。



音律のベースノートを変える

音律のベースノート(基準となる音)を変えます。Equal(平均律)以外の音律を使う場合やオリジナル音律を作る場合は、演奏するキーに応じて、ベースノートの設定を忘れずに行いましょう。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面に入ります。



- 2 「Base Note」(機能番号056)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在のベースノートが表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、ベースノートを以下から選びます。

初期設定: C



番号	ベースノート	番号	ベースノート
01	C	07	F#/G b
02	C#/D b	08	G
03	D	09	G#/A b
04	D#/E b	10	A
05	E	11	A#/B b
06	F	12	B

- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して機能設定画面を抜けます。



ノート別にチューニングしてオリジナル音律を作る

ノート(音)別に1セント(半音を100等分したピッチの単位)単位でチューニングすることにより、オリジナルの音律を作ることができます。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面に入ります。



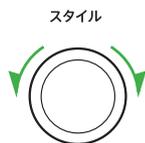
- 2 「Tune Note」(機能番号057)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に現在のチューニング対象ノートが表示されます。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、チューニングしたいノートを以下から選びます。

初期設定: C



番号	対象ノート	番号	対象ノート
01	C	07	F#/Gb
02	C#/Db	08	G
03	D	09	G#/Ab
04	D#/Eb	10	A
05	E	11	A#/Bb
06	F	12	B

- 4 [+]ボタンを押して、画面上段に「Tune XX」を表示させます。

[XX]には手順3で選んだノート名が表示されます。画面下段には選んだノートのチューニング値が表示されます。



- 5 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して-64 ~ 63セントの範囲でチューニングします。



変更した値を初期値に戻したいときは、[+ / YES]、[- / NO]ボタンを同時に押します。

NOTE

- 各ノートの初期値は、次のうち、最後に呼び出された音律の値になります。
 - 機能番号055 「Scale」で設定されたプリセット音律
 - レジストレーションメモリーから呼び出された(編集して保存済みの)オリジナル音律「(Edited)」

- 6 必要に応じて、手順2 ~ 5をくり返します。

- 7 [シフト](SHIFT)ボタンを押して機能設定画面を抜けます。



- 8 音律の設定をレジストレーションメモリーに記録します。

記録しておく、オリジナル音律をあとで呼び出すことができます。

記録方法について詳しくは、70ページをご覧ください。

NOTE

- ノート別のチューニングをしたあと、「Scale」(機能番号055)を呼び出した場合は、「(Edited)」と表示されます。このときに[スタイル](STYLE)ダイヤルを回すと、「(Edited)」表示が消えて1 ~ 5のいずれかが表示され、オリジナル音律は消去されます。

ソング(MIDIデータ)やオーディオファイルを再生する

この楽器では、ソング(MIDIデータ)とオーディオファイルを再生することができます。どちらも、単に再生して楽しむだけでなく、再生しながら演奏を楽しむこともできます。

ソング(MIDIデータ)

この楽器では、内蔵曲や市販の曲データなどのMIDIデータを総称して「ソング」と呼んでいます。MIDIデータは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記憶され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、音源に演奏させることで、はじめて発音されます。鍵盤パートや楽器音色の情報なども記録されているため、パートごとのオン/オフ、ボイス(楽器音色)の変更ができ、演奏の練習に便利です。

この楽器では、楽器内のユーザーソング(60ページ)をMIDIファイルとしてUSBフラッシュメモリーに取り出すことができます。また、外部のMIDIファイルは、ストレージモード(99、109ページ)でコンピューターから本体の内蔵メモリーに転送するか、USBフラッシュメモリーに入れて楽器に接続することで、ソングとして再生できます。再生できるMIDIファイルのフォーマットは、SMF (Standard MIDI File)形式です。

ソングカテゴリー

ソングは、それぞれの特徴によってカテゴリー分けされています。

ソング番号	ソングカテゴリー	
001 ~ 002	デモ	この楽器の魅力を満載したデモ曲(ヤマハオリジナル)です。
003 ~ 012	ユーザー	自分の演奏を録音したユーザーソング(60ページ)です。
013 ~	ダウンロード	コンピューター等から楽器へ転送されたソングです。 ヤマハのウェブサイトからダウンロードできるソングデータや、その楽譜を掲載したソングブックもあります。ダウンロード方法については、2ページをご覧ください。
	USB	USBフラッシュメモリー内のソングです。 USBフラッシュメモリー内の2階層目までのファイルが認識されます。また、ファイル名の文字については制限があります。USBフラッシュメモリー内のフォルダー構成と、ファイル名に使える文字について詳しくは、90ページをご覧ください。

NOTE

- ソング番号013以降のソングについては、ダウンロードソング、USBフラッシュメモリー内のソングの順に番号が割り当てられます。コンピューター等から楽器にソングを転送すると、転送したソングはUSBフラッシュメモリー内のソングの前に挿入されます。
- 容量が250 KBを超えるソングは再生できません。

オーディオファイル

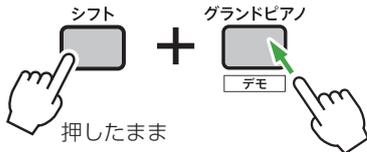
演奏した音そのものを記録したデータです。携帯音楽プレーヤーなどでも再生できるので、手軽に自分の演奏をほかの人に聞いてもらえます。

この楽器では、USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを再生できます。再生できるオーディオファイルのフォーマットは、WAV形式(44.1 kHz、16-bit、ステレオ)です。

デモソングを再生する

[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[グランドピアノ](PORTABLE GRAND)ボタンを押します。

ソング番号001～002が順番に演奏され、002のソングが再生し終わると、また001のソングに戻ってくり返し再生されます。



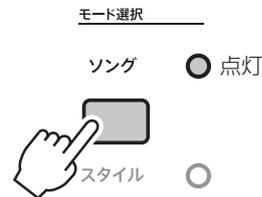
ストップしたいときは、[▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押すか、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

NOTE

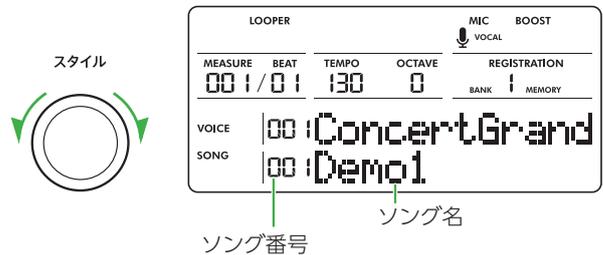
- 上記操作でデモソングを再生した場合、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回しても前後のデモソングを選べません。[+ / YES]または[- / NO]ボタンを使って選んでください。

ソング(MIDIデータ)を再生する

1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。



2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、再生したいソングを選びます。



NOTE

- ダイヤル以外の選択方法は、13ページをご覧ください。

3 [▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押して、ソングを再生してみましょう。



4 再生をストップするには、もう一度[▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押します。

ソングの音量を調節する

ソングの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定画面(105ページ 機能番号034)で調節します。

ソングのテンポを調節する

16ページの「テンポを調節する」をご覧ください。

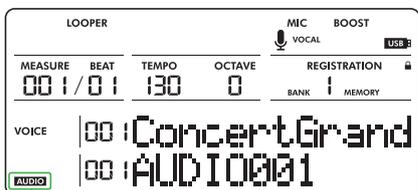
USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを再生する

ご注意

- USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。
- オーディオファイルの再生中はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリー内のデータが壊れるおそれがあります。

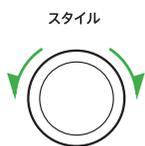
1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[ソング](SONG)ボタンを押して、**AUDIO** アイコンを点灯させます。



AUDIO 点灯
オーディオファイル名

3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、再生したいオーディオファイルを選びます。



NOTE

- ダイヤル以外の選択方法は、13ページをご覧ください。

4 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、オーディオファイルの再生をスタートします。

再生中は、画面に「PLY」の文字と再生時間が表示されます。



NOTE

- オーディオファイルの再生では、次のことはできません。
 - ボイス変更
 - A-Bリピート
 - トラックのミュート
 - テンポ変更

オーディオファイル再生に関するエラーメッセージ一覧

メッセージ	内容
No USB	USBフラッシュメモリーが接続されていません。
No File	USBフラッシュメモリーにオーディオファイルが入っていません。
Can't Use	USBフラッシュメモリー認識中のため、再生できません。
Error Load	オーディオファイルのフォーマットがこの楽器に対応していないため、読み込めません。この楽器で再生できるフォーマットは、WAV形式(44.1 kHz、16-bit、ステレオ)のみです。

5 再生をストップするには、もう一度[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押します。

ソング、オーディオファイルを早送り、早戻し、一時停止する

[▶▶](早送り)ボタン

再生中に押すと、ソング、オーディオファイルを早送ります。ソングでは、停止中に押すと、小節番号が増えます。



[◀◀](早戻し)ボタン

再生中に押すと、ソング、オーディオファイルを早戻しします。ソングでは、小節単位で早戻しされ、停止中に押すと小節番号が減ります。

[||](一時停止)ボタン

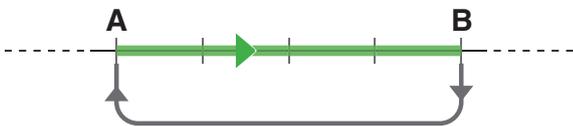
ソング、オーディオファイルを一時停止します。もう一度押すと、一時停止した位置から再生がスタートします。

NOTE

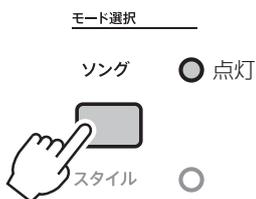
- ソング再生時にA-Bリピート(下記参照)が設定されている場合、早送りや早戻しは、その設定範囲内でのみ可能です。
- DSP2がオンのときにソングの早戻しをすると、DSP2の効果が意図しない状態になることがあります。この場合、DSP2を一度オフにしてからオンにし直すか、ソングの再生を一旦止めると、DSP2の効果がもどに戻ります。

ソングの一部をくり返して聞く(A-Bリピート)

ソング(MIDIデータ)のある特定の範囲(A点とB点)を小節単位で指定して、くり返し再生できます。



- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。



- 2 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、ソング(MIDIデータ)を再生します(53ページ)。



- 3 ソングを再生しながら、くり返し再生の開始位置(A点)にしたいポイントで[A⇌B](A-Bリピート)ボタンを押します。

数秒「A- REPEAT」と画面に表示されます。



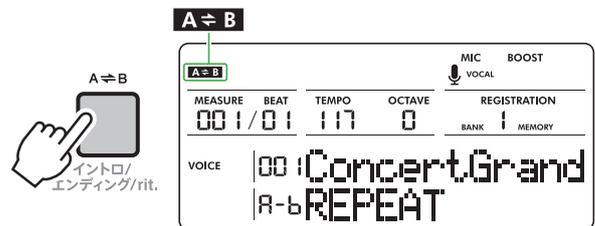
NOTE

- A点をソングの先頭に指定したい場合は、手順2でソングを再生する前に[A⇌B](A-Bリピート)ボタンを押して設定します。

- 4 くり返し再生の終了位置(B点)にしたいポイントに来たら、もう一度[A⇌B](A-Bリピート)ボタンを押します。

これで、A-B間のくり返し再生(リピート再生)が始まります。

画面には、数秒「A-b REPEAT」と表示され、**A⇌B** アイコンが点灯します。



NOTE

- B点をソングの最後に指定したい場合は、A点を指定してから、ソングを最後まで再生させます。

- 5 くり返し設定を取り消すには、もう一度[A⇌B](A-Bリピート)ボタンを押します。

数秒「OFF REPEAT」と画面に表示されます。



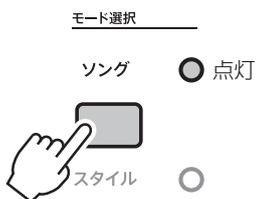
- 6 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、ソング再生をストップします。

録音したフレーズ(ユーザーソング)をくり返し再生する

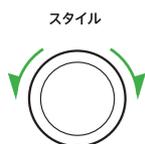
ユーザーソング(60ページ)として録音したフレーズをくり返し再生(ループ再生)できます。

ユーザーソングを録音するときに録音小節数を設定して録音すると(63ページ)、スムーズにくり返し再生されます。

- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。



- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、くり返し再生したい録音済みユーザーソング(ソング番号003 ~ 012)を選びます。



- 3 [↔]ボタンを押して、くり返し再生をオンにします。

[↔]ボタンが点灯します。



- 4 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、ソング再生をスタートします。

選択中のソングが最後まで再生されると、自動でソングの先頭に戻り、再生が始まります。

もう一度[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押すまで再生が続きます。

くり返し再生をやめるには、もう一度[↔]ボタンを押します。

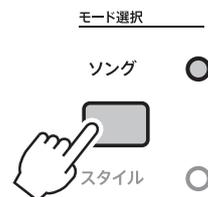
NOTE

- くり返し再生でソングの先頭に戻ったあと、ボイスなどが録音開始時と異なった状態で再生される場合があります。これは、録音中に変更した最後の設定を使ってくり返し再生を行うためです。

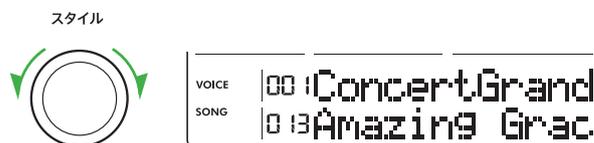
ソングのメロディーボイスを変える

ヤマハウェブサイト(2ページ)などからダウンロードしたソングや、USBフラッシュメモリーなど外部機器内のソングのメロディーボイスを、好みのボイスに変えることができます。

- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。



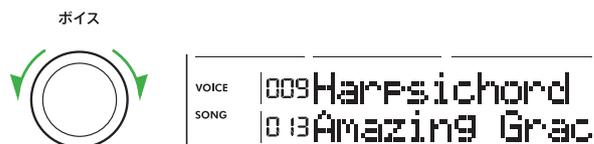
- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、ボイスを変えたいソングを選びます。



NOTE

- ソング番号が003以降のソングのボイスを変えられます。ソング番号001、002のデモソングのボイスは変えられません。
- ダイヤル以外の選択方法は、13ページをご覧ください。

- 3 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、好みのボイスを選びます。

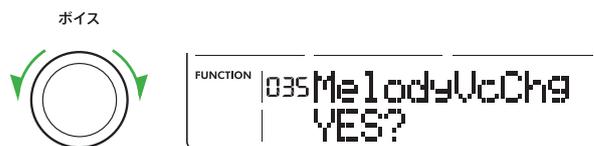


- 4 [機能](FUNCTION)ボタンを押します。



- 5 [MelodyVcChg] (機能番号035)が画面上段に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段にボイス変更を確認する「YES?」のメッセージが表示されます。



次ページへ続く

6 [+ / YES] ボタンを押します。

画面上段に現在のボイス名が表示されます。画面下段には、[SONG MELODY VOICE] がスクロール表示されます。



7 [シフト] (SHIFT) ボタンを押して、ホーム画面 (14 ページ) に戻ります。



8 [▶ / ■] (スタート/ストップ) ボタンを押して、ソングを再生してみましょう。

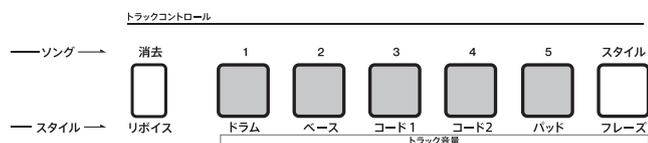


NOTE

- ほかのソングを選ぶと、変更したボイスはリセットされ、元のボイスに戻ります。

ソングの各トラックをミュート (消音) する

ソングの各トラックは、それぞれメロディーやリズム、伴奏など、異なるパートを鳴らしています。一部のトラックをミュートして自分で弾いたり、特定のトラックだけを鳴らしたりすることができます。トラックをミュートするには、ミュートしたいトラックのボタン ([1] ~ [5]、[スタイル]) を押します。ミュートを解除するには、もう一度同じボタンを押します。



各トラックのボタンが点灯しているかどうかでミュートされるかどうかを確認します。

NOTE

- 複数のボタンを同時に押すと、2つのトラックまでまとめてオン/オフされます。

ソングの各トラックの音量を調節する

ソングのトラックごとに音量を調節できます。

1 必要に応じて、モード選択 (MODE SELECT) ボタンを押して、ソングモードにします。

モード選択

ソング 点灯

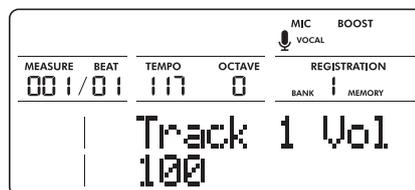
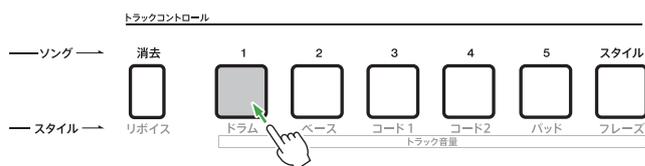


2 [スタイル] (STYLE) ダイアルを回して、好みのソングを選びます。



3 [シフト] (SHIFT) ボタンを押したまま、音量調節したいトラックのトラックコントロール (TRACK CONTROL) ボタンを押します。

ソングトラック音量設定画面が表示されます。



4 [スタイル] (STYLE) ダイアルを回して、好みの音量に設定します。

初期設定: 100

設定範囲: 0 ~ 127

マイクを接続して弾き語りをする

[MIC INPUT]端子にマイクを接続すると、歌声にリバーブやコーラスをかけて弾き語りができます。マイクから入力された音声は、楽器本体のスピーカーから鳴ります。また、歌と歌との合間にトークを入れたいときは、トーク用の設定に切り替えることもできます。

⚠ 注意

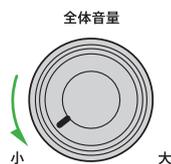
- 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量を最小にしてください。感電または機器の損傷の原因になります。

NOTE

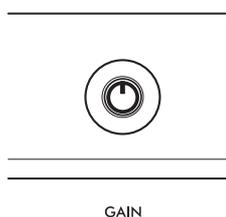
- マイクは、ダイナミックマイクをお使いください。

マイクを接続する

- 楽器の電源を入れる前に、[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。

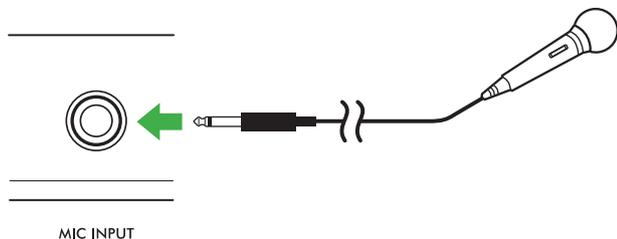


- リアパネル(12ページ)の[GAIN]ノブを中央に設定します。



- リアパネルの[MIC INPUT]端子(モノラル標準フォーンプラグ)にマイクを接続します。

マイクにスイッチがある場合は、手順4の前にマイクのスイッチをオンにします。



- 楽器の電源を入れます。

- [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールで全体音量を調節します。

- [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[マイク](MIC)ボタンを押して、マイク音量設定画面を表示させます。



- マイクに向かって声を出しながら、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回してマイク音量を調節します。

ダイヤルを回してもマイク音量が適切な大きさにならないときは、リアパネルの[GAIN]ノブを回して調節します。



- [シフト](SHIFT)ボタンを押して、マイク音量設定画面を抜けます。

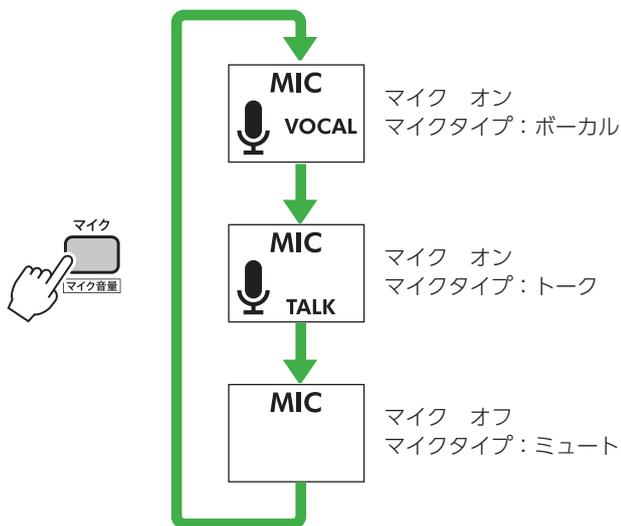
- 鍵盤を弾いたり、ソングを再生したりしながら、歌ってみましょう。

マイクの設定を変える

コンサートで、歌と歌の合間にトークを入れたい場合などに、ワンタッチでトーク用の設定に切り替えることができます。この設定を「マイクタイプ」と呼びます。[マイク](MIC)ボタンを押すたびに、3つのマイクタイプが切り替わります。

マイクタイプ

VOCAL	マイクの音声にリバーブやコーラスがかかります。パン(音が聞こえる位置: 106ページ、機能番号043)も設定できます。
TALK	マイクの音声にリバーブやコーラスはかかりません。パンは「C」(センター)になります。
MUTE	マイクの音声をオフします。



マイクのパン(定位)を調整する

マイク音声の定位(音の位置)を調整できます。機能設定画面(106ページ、機能番号043)で設定します。

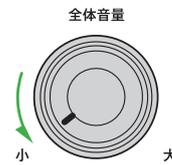
マイクにリバーブとコーラスをかける

マイクを使って歌ったときに、リバーブをかけてホールで歌っているかのように響かせたり、コーラスをかけて音に厚みや自然なゆらぎを与えたりすることができます。機能設定画面(106ページ)で設定します。

- ・リバーブ: 機能番号044
- ・コーラス: 機能番号045

マイクを外す

- 1 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。



- 2 楽器の電源を切ります。
- 3 [MIC INPUT]端子からマイクを外します。

自分の演奏を録音する

この楽器での録音方式

この楽器では、以下の2つの方法で演奏を録音できます。

ソング録音(MIDI録音)

自分の演奏をMIDIデータとして、楽器の内蔵メモリーに録音します。トラック(パート)ごとに録音したり消去したりでき、編集しやすいのが特長です。この方式で録音したソングは「ユーザーソング」と呼びます。

ユーザーソングは、最大10曲、合計約19,000音符まで録音できます。また、USBフラッシュメモリーにMIDIファイルとして書き出して、他のMIDI機器やシーケンサーでデータを再生/編集できます(65ページ)。

オーディオ録音

演奏した音そのものを、WAV形式のオーディオファイルとして、USBフラッシュメモリーに保存します。[MIC INPUT]端子、[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子からの入力音も録音できます。

オーディオファイルのフォーマットは、WAV形式(44.1 kHz、16-bit、ステレオ)で、最大録音時間は80分です。録音したオーディオファイルは、コンピューターやスマートデバイスでも再生できます。

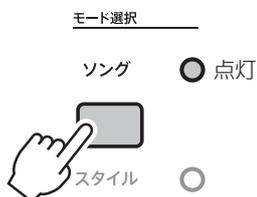
演奏をソングとして新規録音する(MIDI録音)

ここでは、トラックを指定せず、楽器本体の内蔵メモリーに録音する方法を説明します。

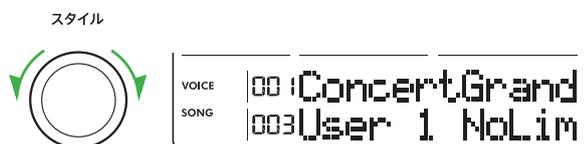
自分の演奏を、ユーザーソング(User1 ~ 10 : ソング番号003 ~ 012)として10曲まで録音できます。

録音されたユーザーソングの再生方法については、53ページ「ソング(MIDIデータ)を再生する」をご覧ください。

1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。

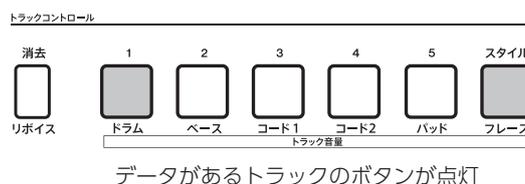


2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、録音データの保存先となるユーザーソング(ソング番号003 ~ 012)を選びます。



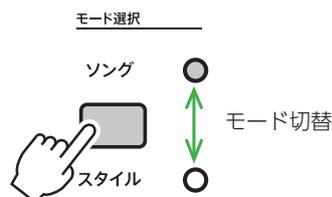
ご注意

- すでに保存先のユーザーソングに録音データがある場合、データがあるトラックコントロール(TRACK CONTROL)ボタンが点灯します。そのまま録音すると、既存のデータは上書き録音されて消えてしまいますのでご注意ください。



3 録音する内容に応じて、モードを選択します。

- メロディー演奏のみ録音: ソングモード
- スタイルを使った演奏を録音: スタイルモード



NOTE

- スタイルモードでは、選択中のスタイルデータに応じたトラックコントロールボタンが点灯します。

次ページへ続く

4 メインボイスの選択(20ページ)など、必要なパネル設定を行います。

5 [録音](REC)ボタンを押して、録音待機状態に入ります。



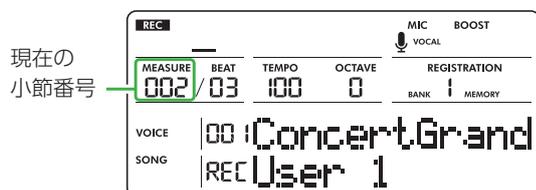
NOTE

- 新規録音時のみ、録音する小節数を設定できます(63ページ)。小節数を設定すると、ユーザーソングをくり返し再生するときに(56ページ)、スムーズに再生できます。
- 録音待機状態では、スタイル(ACMP)のオン/オフを切り替えられません。

録音待機状態から抜けるには、もう一度[録音](REC)ボタンを押します。

6 録音する内容に応じて、鍵盤を弾くか[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音を開始します。

- **メロディー演奏のみ録音:**
鍵盤を弾いて録音を開始します。
- **スタイルの伴奏とリズムを録音:**
 - 自動伴奏鍵域(34ページ)でコードを指定すると、録音およびスタイル再生が始まります。
 - [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押すと、録音およびスタイル再生が開始されます。はじめはリズムだけが再生され、鍵盤を弾くと伴奏が再生されて、伴奏とリズムを録音できます。鍵盤を弾かずにセクション(41ページ)の切り替えだけをする、リズムだけを録音できます。リズムだけを録音するとき、イントロ部分も録音したい場合は、[イントロ/エンディング/rit.] (INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押してから[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押します。



録音中は、現在の小節番号が画面に表示されます。

ユーザーソング録音中の制限事項

- スタイル(ACMP)のオン/オフは切り替えられません。
- スタイル番号は切り替えられません。
- スタイル録音時、リバーブタイプ、コーラスタイル、拍子、スタイル音量は変更できません。
- クイックサンプリングパッド[A] ~ [D]パッドの演奏は録音されません。
- 外部からのオーディオ入力音(接続したコンピュータやオーディオ機器での再生音)は録音されません。

7 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押すか、[録音](REC)ボタンを押して、録音をストップします。



録音が終わると、画面に「Writing!」と表示され、データが保存されます。

ご注意

- [Writing!]表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししたりしないでください。データが失われます。

NOTE

- スタイル録音時は、[イントロ/エンディング/rit.] (INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押してスタイル再生を終了して、録音を終了することもできます。

8 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音した演奏を再生してみましょう。

あとから録音した曲を再生する場合は、53ページ「ソング(MIDIデータ)を再生する」の手順2で、録音したソング番号(003 ~ 012のいずれか)を指定して再生します。

NOTE

- ユーザーソングをUSBフラッシュメモリーに保存したい場合は、65ページをご覧ください。

トラック(パート)ごとに録音する

ここでは、トラック(パート)を指定してユーザーソングを録音する方法を説明します。録音済みのユーザーソングに演奏を追加したり、録音済みの一部のトラックだけ録音し直したりしたい場合に便利です。

ソングのトラック構成

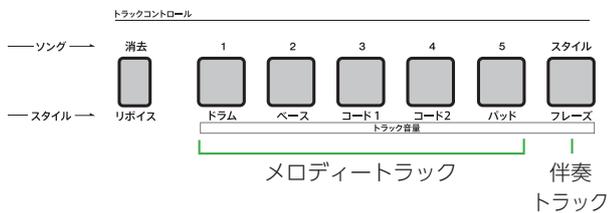
ソングは、6つのトラック(パート)からできています。

● メロディートラック[1] ~ [5]

メロディー演奏が録音されます。

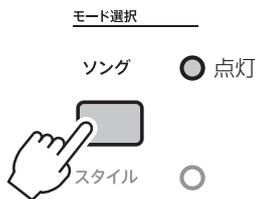
● 伴奏トラック[スタイル]

スタイル演奏のコード進行が録音されます。

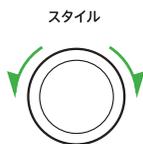


トラックを指定せずに録音した場合は、メロディーはトラック[1]に、伴奏(スタイルのコード)はトラック[スタイル]に保存されます。このとき、録音済みのユーザーソングを選んでいたら、そのソングのトラック[1]とトラック[スタイル]に、上書き録音されます。右手または左手パートだけなど、1トラックずつ録音して1曲に仕上げることもできます。

1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。

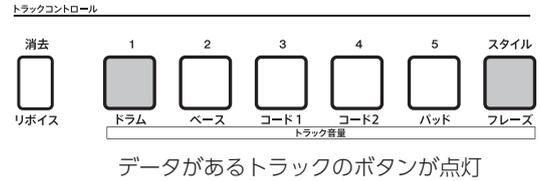


2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、録音データの保存先となるユーザーソング(ソング番号003 ~ 012)を選びます。



ご注意

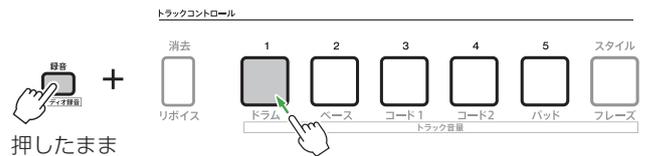
- すでに保存先のユーザーソングに録音データがある場合、データがあるトラックコントロール(TRACK CONTROL)ボタンが点灯します。そのまま録音すると、既存のデータは上書き録音されて消えてしまいますのでご注意ください。



3 (上書き)録音するトラックを指定して、録音待機状態に入ります。

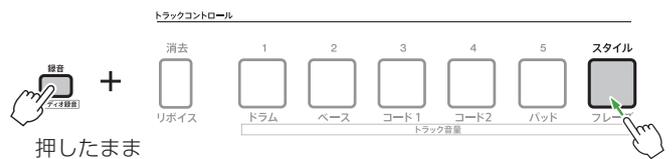
● メロディー演奏だけを録音したい場合

[録音](REC)ボタンを押したまま、録音したいトラックのボタン([1] ~ [5])を押します。



● スタイル演奏だけを録音したい場合

モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、スタイルモードにし、お好みのスタイルを選びます。[録音](REC)ボタンを押したまま、[スタイル](A)ボタンを押します。スタイル(ACMP)が自動的にオンになります。



NOTE

- スタイルモードでは、選択中のスタイルデータに応じたトラックコントロールボタンが点灯します。

4 メインボイスの選択(20ページ)など、必要なパネル設定を行います。

5 録音する内容に応じて、鍵盤を弾くか[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音を開始します。

新規録音のときと同じように、メロディー演奏のみの録音とスタイルの録音とで方法が異なります。詳しくは、[61ページ](#)の手順6をご覧ください。

NOTE

- 録音中に内蔵メモリーがいっぱいになった場合は、メッセージが表示され、録音が終了します。クリア機能([64ページ](#))により空きメモリーを増やしたあとで、録音をやり直してください。

6 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押すか、[録音(REC)]ボタンを押して、録音をストップします。



録音が終わると、画面に「Writing!」と表示され、データが保存されます。

ご注意

- 「Writing!」表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししたりしないでください。データが失われます。

7 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音した演奏を再生してみましょう。

あとから録音した曲を再生する場合は、[53ページ](#)「ソング(MIDIデータ)を再生する」の手順2で、録音したソング番号(003 ~ 012のいずれか)を指定して再生します。

NOTE

- ユーザーソングをUSBフラッシュメモリーに保存したい場合は、[65ページ](#)をご覧ください。

録音する小節数を設定する

ユーザーソングをくり返し再生したい([56ページ](#))ときは、録音前に小節数を設定してください。

NOTE

- 小節数は新規録音時のみ設定できます。上書き録音するときは設定できません。

1 「演奏をソングとして新規録音する(MIDI録音)」([60ページ](#))の手順1 ~ 5を行います。

2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、録音する小節数を設定します。

設定範囲：NoLim(設定なし) ~ Len32(32小節)



3 録音する内容に応じて、鍵盤を弾くか[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音を開始します。

新規録音のときと同じように、メロディー演奏のみの録音とスタイルの録音とで方法が異なります。詳しくは、[61ページ](#)の手順6をご覧ください。

4 演奏が設定した小節数に到達すると、自動的に録音が終了します。

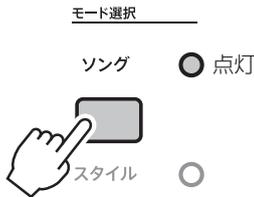
5 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音した演奏を再生してみましょう([53ページ](#))。

くり返し再生するには、[▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押す前に[↺]ボタンを押します。[↺]ボタンが点灯して、くり返し再生機能がオンになります。

ユーザーソングを消去する(ソングクリア)

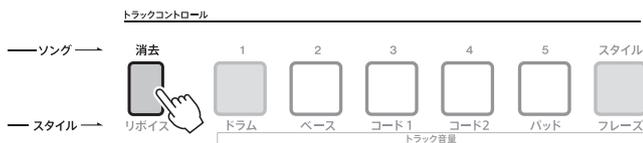
録音済みのユーザーソングを1曲すべて(全トラック)を消去します。

- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。



- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、消去したいユーザーソング(ソング番号003 ~ 012)を選びます。

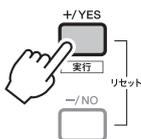
- 3 [消去](CLEAR)ボタンを押します。



確認の画面が表示されます。

Clear User1
YES/NO?

- 4 [+ / YES]ボタンを押します。



ユーザーソングを消去してもよいか再確認する画面が表示されます。

キャンセルするときは、[- / NO]ボタンを押します。

Clear User1
Sure? YES/NO

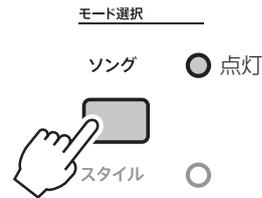
- 5 もう一度[+ / YES]ボタンを押すと、消去が実行されます。

画面に「Writing!」と表示され、ユーザーソングが消去されます。

ユーザーソングの特定のトラックを消去する(トラッククリア)

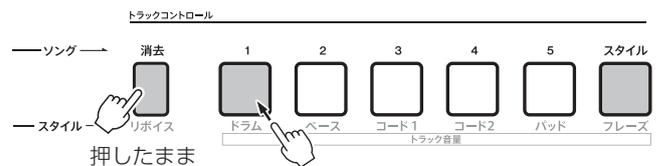
録音済みのユーザーソングの1つのトラックを選んで、そのトラックのデータだけを消去します。

- 1 必要に応じて、モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。



- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、消去したいユーザーソング(ソング番号003 ~ 012)を選びます。

- 3 [消去](CLEAR)ボタンを押したまま、消去したいトラックのボタン([1] ~ [5]、[スタイル])を押します。



確認の画面が表示されます。

Clear Track1
YES/NO?

- 4 [+ / YES]ボタンを押します。



トラックを消去してもよいか再確認する画面が表示されます。

キャンセルするときは、[- / NO]ボタンを押します。

Clear Track1
Sure? YES/NO

- 5 もう一度[+ / YES]ボタンを押すと、消去が実行されます。

画面に「Writing!」と表示され、選んだトラックが消去されます。

ユーザーソングをMIDIファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存する

ユーザーソング(60ページ)をスタンダードMIDIファイル(SMF、フォーマット0)に変換してUSBフラッシュメモリーに保存します。

ご注意

- USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。

NOTE

- DSP効果はSMFに変換されません。
- 楽器本体で設定したトランスポーズは反映されません。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



- 3 「Save SMF」(ファイルコントロール操作番号005)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

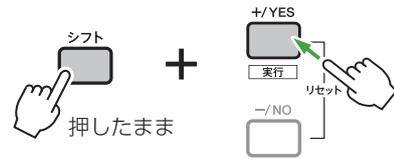
画面下段には、変換の対象となるユーザーソングが「User **」(**は1～10の数字)と表示されます。変換の対象として別のユーザーソングを選びたい場合は、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回してUser 1～10の中から選びます。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押します。

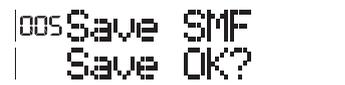
画面下段に、USBフラッシュメモリー上の保存先ファイル名が「SONG***」(***は001～100の数字)と表示されます。保存先として別のファイルを選びたい場合は、

[スタイル](STYLE)ダイヤルを回してSONG001～100の中から選びます。



- 5 もう一度、[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押します。

画面下段に、保存の実行を確認する「Save OK?」が表示されます。保存を中止する場合は、[-/NO]ボタンを押します。



上書きについて

保存先に選んだファイルにすでにデータがある場合は、画面下段に「Overwrite?」と表示されます。

- 6 [+/YES]ボタンを押して、保存を実行します。

実行中は、画面下段に「Saving」と表示されます。USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに、ユーザーファイルが保存されます。



保存が完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。「USER FILES」フォルダーは自動的に作成されます。

ご注意

- 保存の実行中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

NOTE

- USBフラッシュメモリーの状態により、保存に長時間かかる場合があります。

- 7 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

USBフラッシュメモリー内のMIDIファイルを削除する

楽器本体で録音し、USBフラッシュメモリー内に保存したMIDIファイル(SMF、フォーマット0)を、個別に削除することができます。

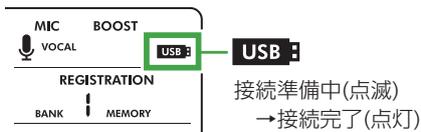
ご注意

- USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。

NOTE

- 削除するファイルは、USB内フラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内にある必要があります。フォルダー外にあるファイルは認識されません。また、ソング名は必ず「SONG***」(***は001～100)である必要があります。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



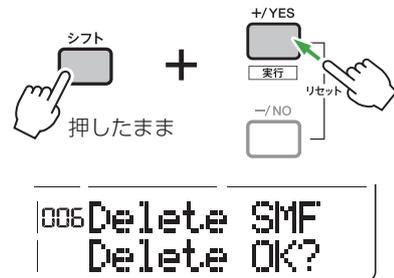
- 3 「Delete SMF」(ファイルコントロール操作番号006)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、USBフラッシュメモリー内のMIDIファイルが「SONG***」(***は001～100の数字)と表示されます。必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して削除したいユーザーファイルを選びます。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に、削除の実行を確認する「Delete OK?」が表示されます。削除を中止する場合は、[- / NO]ボタンを押します。



- 5 [+ / YES]ボタンを押して、削除を実行します。

実行中は、画面下段に「Deleting」と表示されます。



削除が完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。

ご注意

- 削除中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

- 6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

演奏をオーディオファイルとして USBフラッシュメモリーに録音する

演奏をオーディオファイルとして、USBフラッシュメモリーに録音します。

ご注意

- USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。

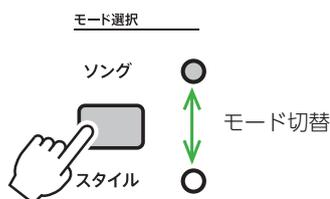
NOTE

- オーディオ録音機能を使うときは、電源アダプターをご使用ください。電池をご使用の場合は、オーディオ録音機能は使えません。
- 録音中に画面に表示されるメッセージの詳細は、68ページをご覧ください。

1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



2 モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードかスタイルモードを選択します。



スタイルを使った演奏を録音したいときは、スタイルモードを選択します。

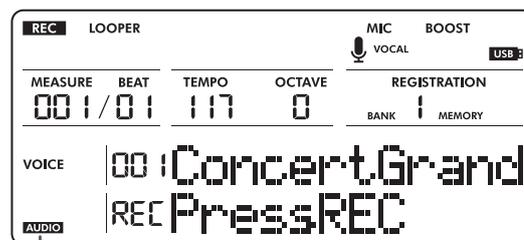
3 録音したい演奏の設定をします。

手順2で選択したモードによって、録音できるものが異なります。

- **ソングモードのとき**
鍵盤演奏、[MIC INPUT]/[AUX IN]/[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音
- **スタイルモードのとき**
スタイル、鍵盤演奏、[MIC INPUT]/[AUX IN]/[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音

4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[録音](REC)ボタンを押して、オーディオ録音待機状態に入ります。

画面左下に **AUDIO** アイコンが点灯します。



AUDIO 点灯

録音待機状態から抜けるには、もう一度[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[録音](REC)ボタンを押します。

5 [録音](REC)ボタンを押して録音を開始します。

録音中は、画面に録音時間が表示されます。最長録音時間は、80分またはUSBフラッシュメモリーの容量がいっぱいになるまでのいずれか短いほうです。スタイルを録音する場合は、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押してスタイル演奏を再生/停止させます。

ご注意

- 録音中はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリー内のデータが壊れるおそれがあります。

NOTE

- [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すとスタイルの再生/停止はできますが、録音の開始/停止はできません。

6 [録音](REC)ボタンを押して録音を停止します。

[Writing!]と表示され、演奏が保存されます。保存が終わると、[Complete]が表示され、録音したオーディオファイル名が「AUDIO***」(***は数字)と表示されます。

7 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押して、録音したオーディオファイルを再生してみましょう。

次ページへ続く

オーディオ録音に関するメッセージ一覧

メッセージ	内容
No USB	USBフラッシュメモリーが接続されていません。
Can't Use	USBフラッシュメモリー認識中のため、再生できません。
Use Adapter	楽器の電源に電池を使用している場合は、オーディオ録音できません。電源アダプターを接続してください。
File Full	USBフラッシュメモリーに保存できるファイル数の上限を超えています。不要なファイルを削除するか、別のUSBフラッシュメモリーを使用してください。
Unformat	USBフラッシュメモリーがフォーマットされていません。フォーマットしてください(91ページ)。
Protect	USBフラッシュメモリーがプロテクトされています。
Time Up	録音時間が80分を超えました。
Media Full	USBフラッシュメモリーの容量がなくなりました。
USB Error	USBフラッシュメモリーに不具合があるときに表示されます。 ・ USBフラッシュメモリーが動作確認済みのものか、ウェブサイト上の動作確認済み機器リスト(88ページ)でご確認ください。 ・ USBフラッシュメモリーをフォーマットしてください(91ページ)。

USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを削除する

録音済みのオーディオファイルを消去します。

ご注意

- ・ USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。

1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



3 「Delete Audio」(ファイルコントロール操作番号007)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルが「AUDIO***」(***は数字)と表示されます。[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して削除したいファイルを選びます。



4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に、削除の実行を確認する「Delete OK?」が表示されます。削除を中止する場合は、[- / NO]ボタンを押します。



5 [+ / YES]ボタンを押して、削除を実行します。

実行中は、画面下段に「Deleting」と表示されます。削除が完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。



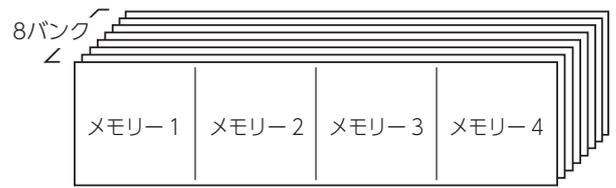
ご注意

- ・ ファイル削除中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

お好みの設定を記録する/呼び出す(レジストレーションメモリー)

レジストレーションメモリーは、ボイスやスタイルなどのパネル設定をボタンに記録し、ワンタッチで呼び出せる機能です。4つのレジストレーションメモリーボタンに記録した設定を1バンクとして扱い、8バンク保存できます。



32種類(8バンク×4)の設定を記録、保存できます。

この楽器には、お買い上げ時に、バンク1～8のすべてのメモリーにあらかじめ設定が記録されています。バンクごとに特徴があり、その特徴に合った設定が記録されています。ここでは、バンク1を例として紹介します。設定を呼び出し(下記参照)、スタイルを再生しながら、黒鍵を押してみましょう。

(例) バンク1: スタイルを再生しながら黒鍵を押すだけで、簡単に演奏を楽しめる設定

メモリー	ボイス	スタイル
1	001 Live! Concert Grand Piano	079 Future Trap
2	024 Tremolo Smooth Electric Piano	031 Cinematic Pop
3	085 S.Art Lite Distortion Guitar	048 80s Power Rock
4	280 Funky Lead	017 Boy Band Pop

ボイス、スタイル以外の設定は、呼び出して、パネルボタンの点灯状態や画面表示でご確認ください。

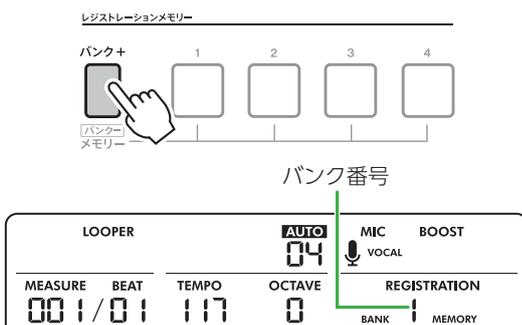
NOTE

- バンク2～8の特徴は、ウェブサイト上の[データリスト](#)をご覧ください。
- バンク1～8の設定に、お好みの設定を上書きして記録できます。記録する方法は[70ページ](#)をご覧ください。

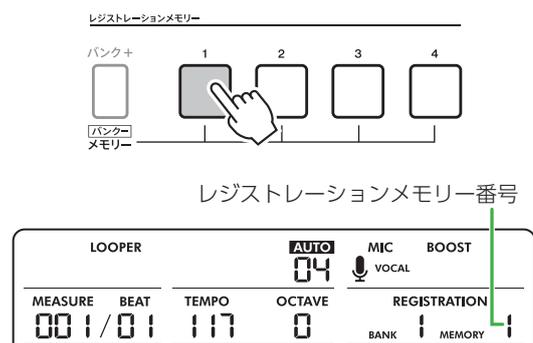
レジストレーションメモリーに記録された設定を呼び出す

お買い上げ時に記録されている設定や、自分で記録したお好みの設定を呼び出します。

- 呼び出したい設定のバンク番号とメモリー番号を確認します。
- [バンク+](BANK+)ボタンを押して、呼び出したいバンク番号(1～8)を選びます。



- 呼び出したいメモリー番号の[1]～[4]ボタンを押します。



NOTE

- ソングモード(14ページ)選択中は、スタイルの設定を登録したレジストレーションメモリー番号のボタンを押しても、設定は呼び出されません。**モード選択(MODE SELECT)**ボタンを押してスタイルモードを選んでから、設定を呼び出してください。

パネル設定をレジストレーションメモリーに記録する

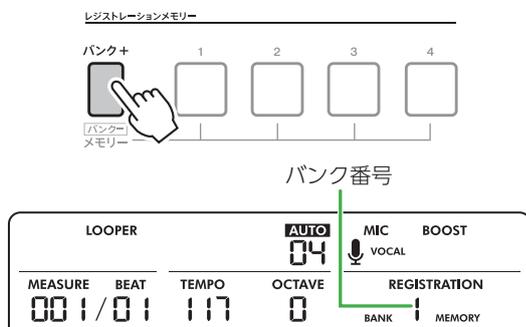
お好みの設定を、バンク1～8に上書きして記録することができます。

1 本体の設定(ボイス、スタイルなど)を、記録させたい状態にします。

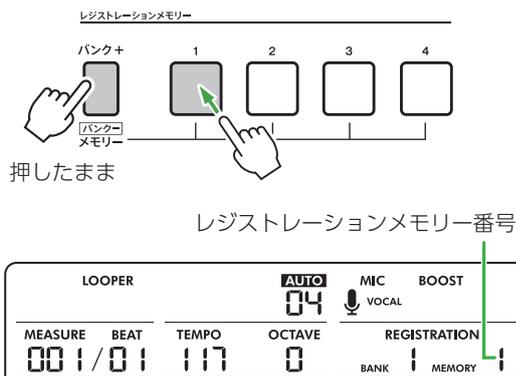
NOTE

- ソング再生中、録音待機中、録音中は、レジストレーションメモリーに記録できません。

2 [バンク+](BANK+)ボタンを押して、バンク番号(1～8)を選びます。



3 [バンク+](BANK+)ボタンを押したまま、[1]～[4]ボタンを押して、設定をレジストレーションメモリーに記録します。



画面のレジストレーションメモリー番号が点滅します。設定が記録されると、レジストレーションメモリー番号が点灯します。

ご注意

- レジストレーションメモリーに記録すると、データは上書き保存され、以前のデータは消えてしまいます。誤消去防止のため、どこに何を記録したのか、メモしておくことをおすすめします。

レジストレーションメモリーに記録できる内容

- **スタイル設定**：スタイル番号、スタイル オン/オフ、スタイル音量、トラック音量、トラックオン/オフ、メインセクションA/B、テンポ、フィンガリングタイプ、スタイルキー、オートコードプレイ オン/オフ、オートコードプレイコード進行、スタイルリボイス
- **ボイス**
 - **メインボイス**：ボイス番号、機能設定「メインボイス」(104ページ)
 - **デュアルボイス**：オン/オフ、機能設定「デュアルボイス」(104ページ)
 - **スプリットボイス**：オン/オフ、機能設定「スプリットボイス」(105ページ)
- **エフェクト**：リバーブタイプ、リバーブトータルレベル、コーラスタイプ、モーションエフェクトの設定
- **ハーモニー / アルペジオ**：オン/オフ、機能設定の全項目
- **DSP**：DSP1/2オン/オフ、DSP1/2タイプ、DSP2効果対象パート、ノブのDSP1/2パラメーター A/Bの値
- **その他**：トランスポーズ、スプリットポイント、ピッチベンドレンジ、オクターブ(OCTAVE)[▲][▼]ボタンの設定、スケールチューン、ペダル機能、ノブの設定、サンプリングパッド音量、ルーパー音量

NOTE

- レジストレーションメモリーの内容を、お買い上げ時の内容に戻りたいときは、バックアップクリアの操作を行い、楽器を初期化してください(110ページ)。
- クイックサンプリング機能(72ページ)のサンプルは、レジストレーションメモリーに記録されません。

記録したパネル設定のうち、呼び出したくない項目を指定する(フリーズ)

レジストレーションメモリーにはさまざまな設定を記録できますが、演奏の場面によっては呼び出したくない設定があるかもしれません。たとえば、スタイルだけは変更せずに、ボイスの設定やエフェクトの設定を切り替えたいときなどです。このような場合にフリーズ機能を使えば、レジストレーションメモリーのボタンを押しても、スタイル関連の設定だけは呼び出さずに現状のまま固定(フリーズ)できます。

この楽器には、呼び出したくない設定に応じた3つのフリーズ機能があり、機能設定画面(109ページ)で設定します。

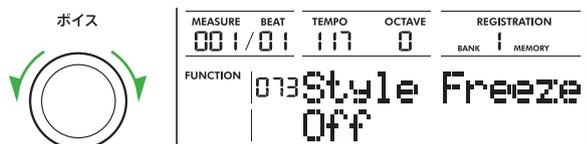
1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を表示させます。



2 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、呼び出したくない設定に応じたフリーズ機能の設定画面を表示させます。

初期設定は「Off」(オフ)です。

- スタイルフリーズ(Style Freeze): 機能番号073
- トランスポーズフリーズ(Trans Freeze): 機能番号074
- ボイスフリーズ(Voice Freeze): 機能番号075



3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、フリーズ機能を「On」(オン)に設定します。

画面の右側にアイコンが点灯します。



クイックサンプリング機能を使う

この楽器には、音をサンプリングし、パッドを押して再生できる機能「クイックサンプリング」が搭載されています。

サンプリング

曲や音源の一部を録音し、演奏に使用できる「サンプル」を作ることです。サンプルは通常のオーディオファイルと異なり、効果音のように使ったり、ループさせてリズムパターンのように使ったりすることができます。

サンプリング可能な入力音は、以下の3種類です。

- [AUX IN]端子に接続した外部機器からの音声(97ページ)
- [MIC INPUT]端子に接続したマイクからの音声(58ページ)
- [USB TO HOST]端子に接続したコンピューターやスマートデバイスからの音声(101ページ)

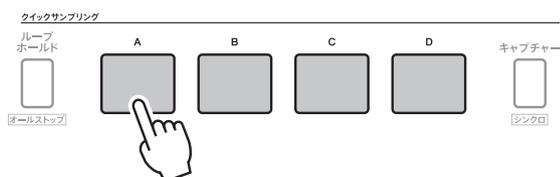
USBフラッシュメモリーに保存されたWAVファイルをサンプルとして登録することもできます(78ページ)。

お買い上げ時に、4つのパッドにサンプル(サンプリングされた音声)が入っています。

まずは、楽器に入っているサンプルを再生して、サンプルがどのようなものなのかを実感してみましょう。

サンプルを再生する

- 1 クイックサンプリングパッド[A]～[D]のいずれかを押し、サンプルを再生します。



押したパッドが点灯し、パッドを押している間だけサンプルが再生されます。

パッドを押し続けた場合は、サンプルが最後まで再生されると、再生が止まります。これを「ワンショット再生」といいます。

- 2 クイックサンプリングパッドから指を離します。

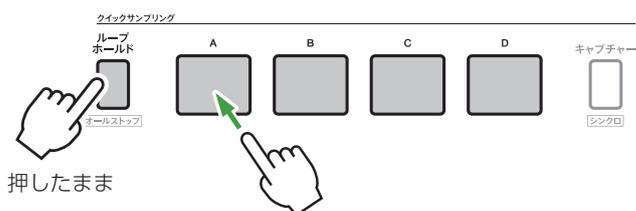
サンプル再生中の場合は、パッドが消灯し、サンプルの再生が止まります。

NOTE

- 各クイックサンプリングパッドのサンプルの音量は、機能設定画面(106ページ、機能番号047)で変更できます。

サンプルをループ再生する

- 1 [ループホールド](LOOP HOLD)ボタンを押したまま、クイックサンプリングパッド[A]～[D]のいずれかを押し、サンプルを再生します。



押したまま

パッドから指を離しても、押したパッドが点灯し、サンプルが鳴り続けます。

サンプルが最後まで再生されたら、もう一度先頭から再生されます。これを「ループ再生」といいます。

- 2 点灯しているクイックサンプリングパッドを押します。

パッドが消灯し、サンプルのループ再生が止まります。

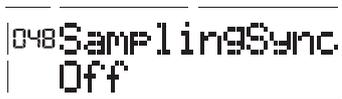
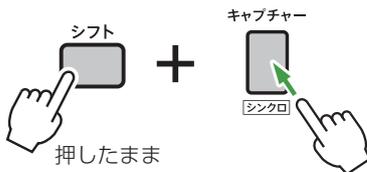
NOTE

- クイックサンプリングパッド[A]～[D]は、それぞれワンショット再生またはループ再生ができます。
- 4つのサンプルすべてを同時に再生できます。
- すべてのサンプルの再生を同時に止めるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[ループホールド](LOOP HOLD)ボタンを押します。
- パッドの再生には、音源の同時発音数を使います。このため、スタイルやソングの再生などと合わせて多数の音を同時に鳴らした場合、ループ再生中のパッドが点灯したまま消音されることがまれにあります。その場合は、一度パッドを押して消灯させてから、もう一度手順1を実行してループ再生を開始してください。この現象が頻発する場合は、同時に使う音の数を減らして演奏してください。

スタイル/ソングの再生に合わせてサンプリングを再生する(同期再生)

スタイル/ソング再生のタイミングに合わせて、サンプリングを再生することができます。

- 1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、サンプリング同期再生設定画面を表示させます。



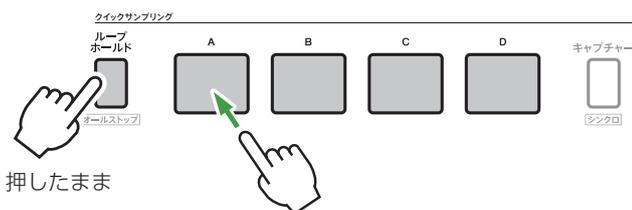
- 2 スタイル(STYLE)ダイヤルを回して、サンプリング同期再生をオン(On)にします。



- 3 サンプリング再生をしたいタイミングに応じて、以下の操作を行います。

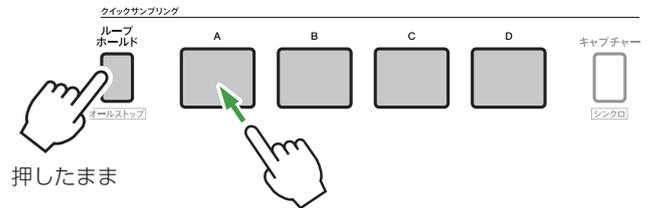
スタイル/ソング再生の小節の変わり目に合わせて再生する

- 3-1 お好みのスタイル、またはソングを再生します (34、53ページ)。
- 3-2 再生を開始したいタイミングより少し早めに、[ループホールド](LOOP HOLD)ボタンを押したまま、再生したいクイックサンプリングパッドを押します。
パッドを押したすぐあとの小節頭から、サンプリングが再生されます。



スタイル/ソング再生開始に合わせて再生する

- 3-1 [ループホールド](LOOP HOLD)ボタンを押したまま、再生したいクイックサンプリングパッドを押します。



- 3-2 お好みのスタイル、またはソングを再生します (34、53ページ)。
スタイル/ソング再生開始と同時に、サンプリングが再生されます。

- 4 サンプリング再生をストップするには、再生中のクイックサンプリングパッドを押します。

- 5 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、ホーム画面(14ページ)に戻ります。



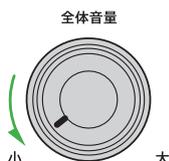
サンプリングの準備をする

サンプリングするための外部機器を接続し、録音できる十分な音量になるように調節します。

NOTE

- 音声入力の音量が小さすぎると、サンプリングができません。

- 1 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。



- 2 サンプリングする外部機器を接続します。

各外部機器の接続方法について詳しくは、下記ページをご覧ください。

- [AUX IN]端子: 97ページ
- [MIC INPUT]端子: 58ページ
- [USB TO HOST]端子: 101ページ

- 3 入力される音量を十分に大きくします。

- [AUX IN]端子
外部機器の再生音量を最大にします。
- [MIC INPUT]端子
リアパネルの[GAIN]ノブを最大にします。
- [USB TO HOST]端子
コンピューター/スマートデバイス上で、MIDIファイルやオーディオファイルの再生音量を最大にします。

NOTE

- [AUX IN]端子に接続した外部機器の音量を最大にしても入力音が小さいときは、機能設定画面(108ページ、機能番号068 [Aux In Vol])で音量を上げて調節できます。ただし、値が初期設定の50を上回ると、音がひずむ場合があります。
- コンピューター/スマートデバイス上の再生音量を最大にしても入力音が小さいときは、機能設定画面(108ページ、機能番号069 [USB In Vol])で音量を上げて調節できます。

- 4 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを回して、スピーカーから出る音量を調節します。

NOTE

- スピーカーから出る音量そのものは、サンプリング結果には影響しません。

サンプリングをする

音声入力をサンプリングし、クイックサンプリングパッド[A]～[D]のいずれかに登録します。

NOTE

- サンプリングレートは44.1 KHz、16-bit、ステレオです。
- 登録したサンプルは、USBフラッシュメモリーに保存できます(77ページ)。

- 1 サンプリングの準備をします。

音声入力の準備をします。詳しくは、「サンプリングの準備をする」をご覧ください。

ご注意

- サンプリングを実行すると、登録済みのサンプルは上書きされ、消えてしまいます。大切なサンプルは、USBフラッシュメモリーに保存してください(77ページ)。

NOTE

- メロディーキャンセル機能(98ページ)を使った状態でサンプリングしたい場合は、サンプリングモードに入る前に設定します。
- サンプリングの先頭および末尾の無音部分を自動でカットしたい場合は、機能設定画面(106ページ、機能番号046 [Blank Cut])で「On」を選びます。

- 2 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードに入ります。

画面上段に「Sampling」、下段に「Press A-D」と表示されます。

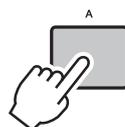


Sampling
Press A-D

サンプリングを中止するときは、もう一度[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押してクイックサンプリングモードから抜けます。

- 3 サンプル登録したいクイックサンプリングパッドを押して、録音待機状態に入ります。

パッドが点滅し、画面下段に「Start?」と表示されます。



Sampling
Start?

NOTE

- パッドを選び直したい場合は、別のパッドを押します。
- 録音待機状態から抜けたい場合は、もう一度[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押します。

4 外部機器の再生を、サンプリングしたい音やフレーズの頭の位置で停止します。またはマイクに向かって音を出す準備をします。

5 点滅しているパッドを押して、サンプリングを開始します。

画面下段左側に「REC」と表示されます。



ご注意

- サンプリング中は、USBフラッシュメモリーを抜き挿ししないでください。楽器の動作が不安定になり、サンプリングが正しく行われない場合があります。

NOTE

- [+ / YES]ボタンを押して、サンプリングを開始することもできます。

6 外部機器の再生を開始します。または、マイクに向かって音を出します。

NOTE

- 外部機器またはマイクからの音量が小さすぎた場合は、画面に「Low Input」と表示され、サンプリングがキャンセルされます。その後、手順3の録音待機状態に戻ります。

7 サンプリングしたい音やフレーズの終わりの位置で、音声入力を止めます。

外部機器を再生している場合は、再生を停止します。マイクを使っている場合は、音を止めます。

8 点灯しているパッドをもう一度押して、サンプリングを終了します。

画面上段に「Writing!」と表示され、サンプルが上書き保存されます。パッドが消灯し、サンプリングが終わり、手順2の状態に戻ります。

Writing!



Sampling
Press A-D

NOTE

- サンプリングできる時間は最大約9.6秒です。制限時間を超えると、サンプリングが自動的に終了し、そこまでのサンプルが保存されます。

9 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押してクイックサンプリングモードから抜けます。



10 クイックサンプリングパッドを押して、サンプルを再生してみましょう。

音を流しながらサンプリングをする方法

サンプリングの操作に慣れてきたら、外部機器からの音を流しながらサンプリングしてみましょう。

1. 「サンプリングをする」(74ページ)の手順2、3を行います。
2. サンプリングしたい音やフレーズの数小節前の位置で、外部機器の再生を停止します。
3. 外部機器の再生を開始します。
4. 開始したいところで点滅しているパッドを押して、サンプリングを開始します。
5. 終了したいところでパッドを押して、サンプリングを終了します。
6. 外部機器の再生を止め、サンプリングの結果を確認しましょう。

NOTE

- 録音したい空白部分がカットされてしまうときは、機能設定画面(106ページ、機能番号046「Blank Cut」)で「Off」を選びます。

クイックサンプリング 動画マニュアル

スマートデバイスからのサンプリング操作を確認できます。

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/sampling/>

初期設定のサンプルに戻す

クイックサンプリングパッドごとに、自分で登録したサンプルを削除して、初期設定のサンプルに戻せます。

ご注意

- 初期設定のサンプルに戻すと、登録したサンプルは失われます。大切なサンプルは、初期設定に戻す前にUSBフラッシュメモリーに保存してください(77ページ)。

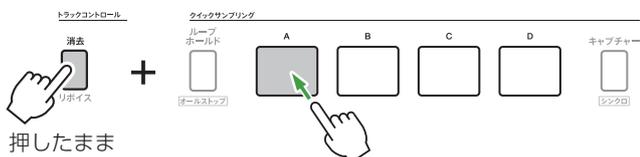
1 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードに入ります。

画面上段に「Sampling」、下段に「Press A-D」と表示されます。



2 [消去](CLEAR)ボタンを押したまま、削除したいサンプルが登録されているクイックサンプリングパッドを押します。

パッドが点滅し、画面下段に「Clear Smp1?」と表示されます。



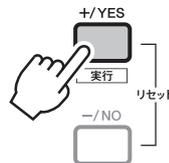
3 [+/YES]ボタンを押します。

クイックサンプリングパッドが点灯し、画面下段に「Sure? YES/NO」と表示されます。キャンセルするときは、[-/NO]ボタンを押します。キャンセルすると、クイックサンプリングパッドが消灯し、手順2に戻ります。



4 もう一度[+/YES]ボタンを押します。

画面上段に「Writing!」表示されます。クイックサンプリングパッドが消灯し、初期設定のサンプルが保存されます。



5 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードから抜けます。



サンプルをUSBフラッシュメモリーに保存する

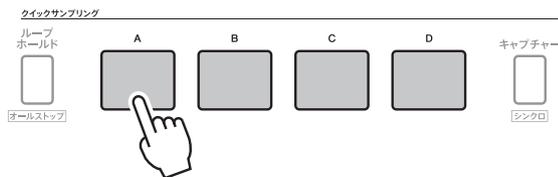
クイックサンプリングパッド[A]～[D]に登録されたサンプルを、パッド単位でサンプルファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存できます。

また、保存されたサンプルファイルは、読み込んでパッドに再登録できます。

NOTE

- クイックサンプリングモード中の場合は、[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードを終了します。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子(12ページ)に接続します。
- 2 クイックサンプリングパッド[A]～[D]を押して、保存したいサンプルが登録されているパッドを確認します。



- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



- 4 [Save Smpl] (ファイルコントロール操作番号011) が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には「Press A-D」と表示されます。

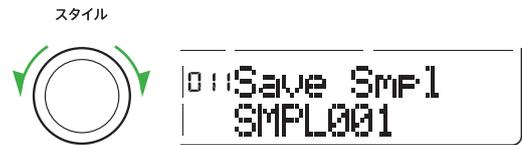


- 5 保存したいサンプルが登録されているクイックサンプリングパッドを押します。

押したパッドが点滅します。サンプルが登録されていないパッドを押したときは、「No Data」と表示されます。パッドを選び直してください。

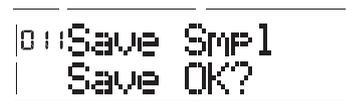
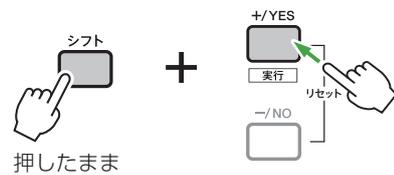
- 6 スタイル(STYLE)ダイヤルを回して、保存したいファイルを選びます。

- ・「SMPL001」～「SMPL250」



- 7 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押して(実行)、保存したいファイルを確認します。

画面下段に「Save OK?」と表示されます。保存しないときは、[-/NO]ボタンを押すと、手順4の画面に戻ります。



上書きについて

保存先に選んだファイルにすでにデータがある場合は、画面下段に「Overwrite?」と表示されます。

- 8 [+/YES]ボタンを押します。

画面下段に「Saving」と表示され、サンプルが保存されます。



- 9 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、ファイルコントロール画面から抜けます。



USBフラッシュメモリー内のWAVファイルをサンプルとして取り込む

USBフラッシュメモリーに保存されたWAVファイルを、楽器内蔵メモリーにサンプルとして取り込み、クイックサンプリングパッドに登録することができます。

NOTE

- 読み込めるファイルのフォーマットは、PCM(WAV)形式(44.1kHz、16-bit、1チャンネルモノラルまたは2チャンネルステレオ)です。

ご注意

- USBフラッシュメモリーからWAVファイルを取り込むと、登録したいクイックサンプリングパッドに上書き登録されます。大切なサンプルはあらかじめUSBフラッシュメモリーに保存しておきましょう(77ページ)。

1 クイックサンプリングモード中の場合は、[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードを終了します。

2 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子(12ページ)に接続します。

3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。

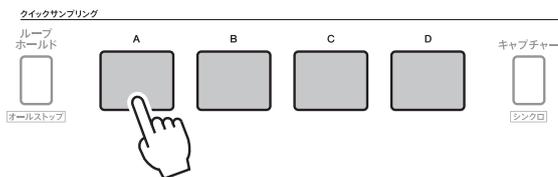


4 [Import WAV] (ファイルコントロール操作番号014)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には「Press A-D」と表示されます。USBフラッシュメモリーにWAVファイルが保存されていないときは、「No File」と表示されます。



5 登録したいクイックサンプリングパッドを押します。

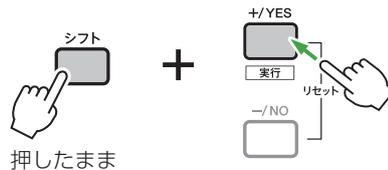


6 スタイル(STYLE)ダイヤルを回して、取り込みたいファイル名を選びます。



7 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押して(実行)、取り込みたいファイルを確認します。

画面下段に「Import OK?」と表示されます。登録しないときは、[- / NO]ボタンを押すと、手順4の画面に戻ります。



8 [+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に「Importing」と表示され、WAVファイルがサンプルとして取り込まれます。



9 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、ファイルコントロール画面から抜けます。



10 登録したサンプルで遊んでみましょう。

登録したパッドを押すと、登録したサンプルが鳴ります。

サンプルをUSBフラッシュメモリーから読み込む

USBフラッシュメモリーに保存したサンプルを、もう一度楽器内蔵メモリーに読み込み、クイックサンプリングパッドに割り当てられます。

ご注意

- USBフラッシュメモリーからサンプルを読み込むと、登録したいクイックサンプリングパッドに上書き登録されます。大切なサンプルはあらかじめUSBフラッシュメモリーに保存しておきましょう(77ページ)。

- 1 クイックサンプリングモード中の場合は、[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードを終了します。
- 2 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子(12ページ)に接続します。
- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。

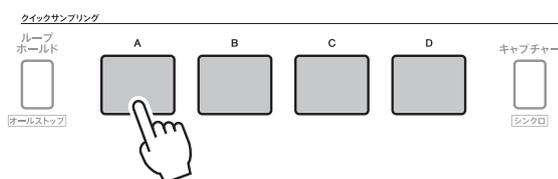


- 4 [Load Smp1] (ファイルコントロール操作番号012)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には「Press A-D」と表示されます。USBフラッシュメモリーにサンプルが保存されていないときは、「No File」と表示されます。



- 5 登録したいクイックサンプリングパッドを押します。

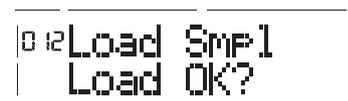
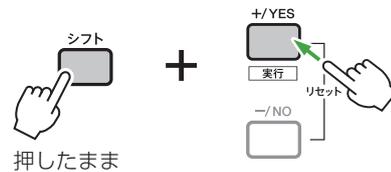


- 6 スタイル(STYLE)ダイヤルを回して、読み込みたいファイル名を選びます。



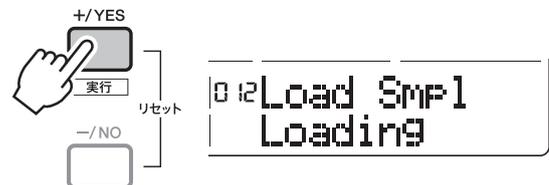
- 7 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押して(実行)、読み込みたいファイルを確認します。

画面下段に「Load OK?」と表示されます。登録しないときは、[- / NO]ボタンを押すと、手順4の画面に戻ります。



- 8 [+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に「Loading」と表示され、サンプルが登録されます。



- 9 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、ファイルコントロール画面から抜けます。



- 10 登録したサンプルで遊んでみましょう。

登録したパッドを押すと、登録したサンプルが鳴ります。

USBフラッシュメモリー内のサンプルを削除する

- クイックサンプリングモード中の場合は、[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードを終了します。
- USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子(12ページ)に接続します。
- [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



- [Delete Smp1] (ファイルコントロール操作番号 013)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

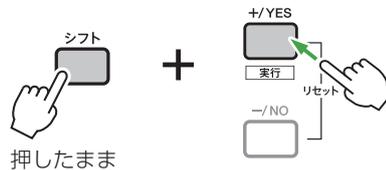
画面下段にはUSBフラッシュメモリーに保存されているサンプルのファイル名が表示されます。サンプルが保存されていないときは、「No File」と表示されます。



- スタイル(STYLE)ダイヤルを回して、削除したいファイル名を選びます。



- [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押して(実行)、削除したいファイルを確認します。画面下段に「Delete OK?」と表示されます。削除しないときは、[-/NO]ボタンを押すと、手順4の画面に戻ります。



013 Delete Smp1
Delete OK?

- [+/YES]ボタンを押します。

画面下段に「Deleting」と表示され、サンプルが削除されます。



- [シフト](SHIFT)ボタンを押して、ファイルコントロール画面から抜けます。



ルーパー機能を使う

ルーパー機能とは、フレーズを録音して、それをループ再生(くり返し再生)する機能です。たとえば、演奏したい曲の印象的なパートを録音し、スタイルに合わせてループ再生すると、より原曲に近い演奏を楽しめます。

ルーパー機能 動画マニュアル フレーズ録音やルーパーを使った演奏例を確認できます。
<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/videos/w/looper/>

フレーズを録音する

1 演奏したいフレーズのテンポを設定したり(16ページ)、ボイスを選んだり(20ページ)します。

2 [録音](REC)ボタンを押したまま、[ルーパー](LOOPER)ボタンを押して、録音待機状態に入ります。画面上段に「Looper」と表示されます。



3 必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、録音小節数を設定します。

設定中の拍子によって、設定可能な小節数が異なります。最長で4分音符32個分の長さまで設定できます。

【例】

- 4/4拍子に設定中の場合：1～8小節まで設定可能
- 1/4拍子に設定中の場合：1～32小節まで設定可能
- 16/2拍子に設定中の場合：1小節のみ設定可能



4 必要に応じて、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回して、クオンタイズの値を設定します。



クオンタイズとは、録音タイミングの「ずれ」を補正する機能です。正確に弾いたつもりでも、タイミングが微妙に遅れたり早かったりします。録音する演奏の最も細かい音符に設定すると、正確に補正されます。逆に演奏したままで録音したい場合は、「Off」に設定します。

この楽器では、以下の7つの設定値から選んで設定できます。

Q:Off	クオンタイズ設定なし
Q:32	32分音符 (初期設定)
Q:16	16分音符
Q:8	8分音符
Q:32T	3連32分音符
Q:16T	3連16分音符
Q:8T	3連8分音符

5 [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すか、いずれかの鍵盤を押して、録音をスタートします。

メトロノームが鳴るので、メトロノームに合わせて演奏しましょう。メトロノーム音は録音されません。画面上段にはボイス名、下段には「Recording」と表示されます。



手順3で設定した録音小節数の終わりに到達すると、録音したフレーズのループ再生が始まります。

録音をやり直す(ルーパー アンドゥ)

録音したフレーズのループ再生が始まり、想定どおりに録音できていない場合、録音をやり直すことができます。

初期設定では、ループ再生中に[◀◀]ボタンを押すと、最後に録音した音が消えます。[◀◀]ボタンを押すたびに、フレーズの最後から音が1つずつ消えます。消した音を戻すには、[▶▶]ボタンを押します。

録音をやり直す方法は、機能設定画面(105ページ、機能番号036)で変更できます。

次ページへ続く

6 録音をストップするには、[スタート/ストップ]ボタン、または[録音](REC)ボタンを押します。

画面上段に「Writing!」と表示されます。



既に別のフレーズが録音されている場合は、画面上段に「Save Looper」、画面下段には上書き保存を確認する「Sure? YES/NO」が表示されます。



- 上書き保存する場合
[+/YES]ボタンを押します。
画面上段に「Writing!」と表示され、上書き保存されます。
- 上書き保存しない場合
[-/NO]ボタンを押します。
ホーム画面(14ページ)に戻ります。

録音済みフレーズも新しく録音したフレーズも保存しておきたい場合は、録音済みフレーズをUSBフラッシュメモリーに保存して、上書き保存してください。USBフラッシュメモリーへの保存方法は85ページをご覧ください。

オーバードブ録音(多重録音)する

録音したフレーズに、新しい演奏を重ねて録音できます。この録音方法を「オーバードブ録音(多重録音)」といいます。

81ページ手順5でループ再生されるフレーズに合わせてオーバードブ録音することもできますが、ここでは録音済みのフレーズに重ねて録音する方法を説明します。

NOTE

- オーバードブ録音するときにボイスやテンポを変えると、録音済みのフレーズのボイスやテンポも変わります。ボイスやテンポを変えたくない場合は、録音済みのフレーズと同じボイスやテンポで録音してください。

- 1 必要に応じて、録音済みのフレーズと同じテンポを設定したり(16ページ)、同じボイスを選んだり(20ページ)します。
- 2 [録音](REC)ボタンを押したまま、[ルーパー](LOOPER)ボタンを押して、録音待機状態に入ります。



- 3 [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すか、いずれかの鍵盤を押して、録音済みのフレーズを再生します。

オーバードブ録音のときは、メトロノームが鳴りません。録音済みフレーズに合わせて演奏しましょう。画面上段にはボイス名、下段には「Recording」と表示されます。



- 4 録音をストップするには、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタン、または[録音](REC)ボタンを押します。

画面上段に「Save Looper」、画面下段には上書き保存を確認する「Sure? YES/NO」が表示されます。

- 上書き保存する場合
[+/YES]ボタンを押します。
画面上段に「Writing!」と表示され、上書き保存されます。
- 上書き保存しない場合
[-/NO]ボタンを押します。
ホーム画面(14ページ)に戻ります。

録音したフレーズをループ再生する

- 1 [ルーパー] (LOOPER) ボタンを押すと、ループ再生がスタートします。

再生中は、画面上部の **LOOPER** アイコンが点滅します。



NOTE

- ルーパー録音後に、スタイルやソングを選び直したり、電源を入れ直したりした場合、再生テンポが録音時と異なっている場合があります。再生した状態が録音時と異なる場合は、テンポをご確認ください(16ページ)。

- 2 もう一度[ルーパー] (LOOPER) ボタンを押すと、ループ再生がストップします。



スタイル/ソング再生に合わせてフレーズをループ再生する (同期再生)

スタイルやソングの再生開始に合わせて、ループ再生を開始させることができます。

- 1 フレーズのループ再生と一緒に再生したいスタイルやソングを選びます(13ページ)。

- 2 [録音] (REC) ボタンを押したまま、[ルーパー] (LOOPER) ボタンを押します。

同期再生待機状態となり、画面上部の **LOOPER** アイコンが点滅します。



- 3 [スタート/ストップ] (START/STOP) ボタンを押して、1で選んだスタイル/ソングを再生します。

スタイル/ソングと同時に録音したフレーズがループ再生します。



ループ再生するフレーズの音量を変更する

ループ再生するフレーズの音量を調節することにより、スタイル/ソング再生とのバランスをとることができます。機能設定画面(105ページ、機能番号037)で調節します。

録音したフレーズを消去する

[消去](CLEAR)ボタンを押したまま、[ルーパー](LOOPER)ボタンを押します。

画面上段に「Clear Looper」、画面下段には消去を確認する「Sure? YES/NO」が表示されます。



Clear Looper
Sure? YES/NO

- ・消去する場合
[+ / YES]ボタンを押します。
画面上段に「Writing!」と表示され、消去されます。
- ・消去しない場合
[- / NO]ボタンを押します。
ホーム画面(14ページ)に戻ります。

ルーパー機能で録音したフレーズをUSBフラッシュメモリーに保存する

ルーパー機能で録音したフレーズをUSBフラッシュメモリーに保存できます。また、保存したルーパーファイルを読み込んで再生できます。保存したルーパーファイルの読み込み方法は86ページをご覧ください。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



- 3 [Save Looper] (ファイルコントロール操作番号008)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、保存先のルーパーファイル名が[LOP***] (***)は001 ~ 100の数字)と表示されます。別のファイルを選びたい場合は、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回してLOP001 ~ 100の中から選びます。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に、保存の実行を確認するメッセージ[Save OK?]が表示されます。保存を中止する場合は、[- / NO]ボタンを押します。



008 Save Looper
Save OK?

上書きについて

保存先に選んだファイルにすでにデータがある場合は、画面下段に「Overwrite?」と表示されます。

- 5 [+ / YES]ボタンを押して、保存を実行します。

実行中は、画面下段に「Saving」と表示されます。USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに、ルーパーファイルが保存されます。



保存が完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。「USER FILES」フォルダーは自動的に作成されます。

ご注意

- 保存の実行中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

NOTE

- USBフラッシュメモリーの状態により、保存に長時間かかる場合があります。

- 6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

ルーパーファイルをUSBフラッシュメモリーから読み込む

USBフラッシュメモリーに保存したルーパーファイルを、もう一度楽器内蔵メモリーに取り込み、再生できます。

ご注意

- USBフラッシュメモリーからルーパーファイルを読み込むと、録音したフレーズが上書きされ、消去されます。大切なデータはあらかじめUSBフラッシュメモリーに保存しておきましょう(77ページ)。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



- 3 [Load Looper] (ファイルコントロール操作番号009)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段にはルーパーファイル名が「LOP***」(***は001～100の数字)と表示されます。USBフラッシュメモリーにルーパーファイルが保存されていないときは、「No File」と表示されます。

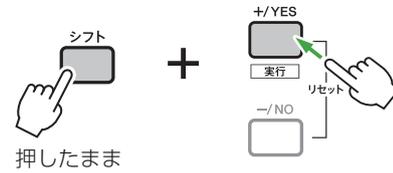


- 4 スタイル(STYLE)ダイヤルを回して、読み込みたいファイル名を選びます。



- 5 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押して、読み込みたいファイルを確認します。

画面下段に「Load OK?」と表示されます。キャンセルするときは、[- / NO]ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。



- 6 [+ / YES]ボタンを押します。

読み込み中は、画面下段に「Loading」と表示されます。



読み込みが完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。

- 7 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

- 8 読み込んだルーパーファイルを再生してみましょう(83ページ)。

USBフラッシュメモリー内のルーパーファイルを削除する

USBフラッシュメモリー内のルーパーファイルを削除します。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



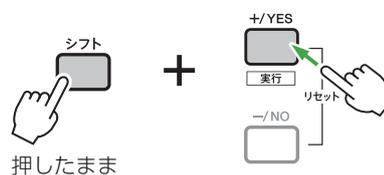
- 3 「DeleteLooper」(ファイルコントロール操作番号010)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段にはルーパーファイル名が「LOP***」(***は001～100の数字)と表示されます。USBフラッシュメモリーにルーパーファイルが保存されていないときは、「No File」と表示されます。
必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して削除したいファイルを選びます。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押します。

画面下段に、削除の実行を確認する「Delete OK?」が表示されます。削除を中止する場合は、[-/NO]ボタンを押します。



- 5 [+/YES]ボタンを押して、削除を実行します。

実行中は、画面下段に「Deleting」と表示されます。



削除が完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。

ご注意

- 削除中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

- 6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

USBフラッシュメモリーを接続する

[USB TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリー(別売)に、ユーザーソングや楽器の設定などを、個別のファイルとして保存できます。保存したファイルは、あとで楽器本体に読み込むことができます。

ご注意

- USBフラッシュメモリーを使った操作を行う場合は、電源アダプターを使用してください。電池を使用すると、操作中に電源が切れてデータを失うおそれがあります。また機能によっては、画面上に「Use Adapter」と表示され、操作ができません。

NOTE

- USBフラッシュメモリー内のデータを再生したい場合は、「ソング(MIDIデータ)を再生する」(53ページ)や「USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを再生する」(54ページ)をご覧ください。

[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)

ご使用上の注意

本製品には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

- USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

■ USBフラッシュメモリー

上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」で確認できます。機器を購入する前にご確認ください。

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/downloads/>

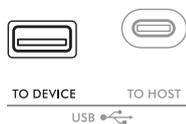
本製品では、USB1.1～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本製品の状態により異なりますのでご了承ください。

ご注意

- [USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5 V/500 mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



ご注意

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本製品にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で作成したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台のみです。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本製品でフォーマット(91ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本製品で正しく動作しない場合があります。

ご注意

- フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

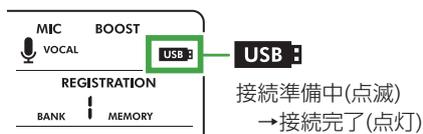
電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリー内のファイルを操作する

ご注意

- USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず「[[USB TO DEVICE]端子(USB Type-A)ご使用上の注意」(88ページ)をご覧ください。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



画面上に「Unformat」について「Format OK?」が表示された場合

接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマットする必要があります。91ページの手順2以降の説明に従ってフォーマットしてください。

NOTE

- 以下の場合、ファイルコントロール画面には入れません。
 - スタイル、ソングの再生/録音中
 - クイックサンプリングモード中、オーディオモード中
 - USBフラッシュメモリーを接続したにもかかわらず、画面右上にUSBアイコンが点灯しない場合
- ファイルコントロール画面が表示されている間は、鍵盤を押しても音は鳴りません。また、ファイル操作に関するボタン以外は使用できなくなります。

- 3 [ボイス](VOICE)ダイヤルを回して操作項目を選びます。



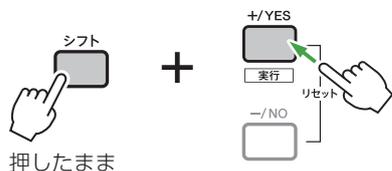
必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルで、該当のデータ(ファイル)を指定します。
詳細は下記「ファイルコントロール操作一覧」の参照先の説明をご覧ください。

ファイルコントロール操作一覧

	表示	操作	参照先 (ページ)
001	Save User	USBフラッシュメモリーにユーザーデータを保存する	92
002	Load User	USBフラッシュメモリーからユーザーファイルを読み込む	93
003	Delete User	USBフラッシュメモリー内のユーザーファイルを削除する	94
004	Load Style	USBフラッシュメモリーからスタイルファイルを読み込む	46
005	Save SMF	ユーザーソングをMIDIファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存する	65
006	Delete SMF	USBフラッシュメモリー内のMIDIファイルを削除する	66
007	Delete Audio	USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを削除する	68
008	Save Looper	USBフラッシュメモリーにルーパーデータを保存する	85
009	Load Looper	USBフラッシュメモリーからルーパーファイルを読み込む	86
010	Delete Looper	USBフラッシュメモリー内のルーパーファイルを削除する	87
011	Save Smpl	USBフラッシュメモリーにサンプルを保存する	77
012	Load Smpl	USBフラッシュメモリーからサンプルを読み込む	79
013	Delete Smpl	USBフラッシュメモリー内のサンプルを削除する	80
014	Import WAV	USBフラッシュメモリーからWAVファイルをサンプルとして読み込む	78
015	Format	USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する	91

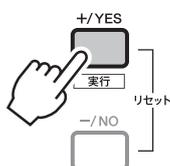
4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ /YES]ボタンを押して操作を実行します([実行])。

選んだ項目によっては、再度[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ /YES]ボタンを押して操作を実行します。



5 [Save OK?]や、[Load OK?]などの確認画面が表示されたら、[+ /YES]ボタンを押します。

キャンセルする場合は、[- /NO]ボタンを押します。



6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。



NOTE

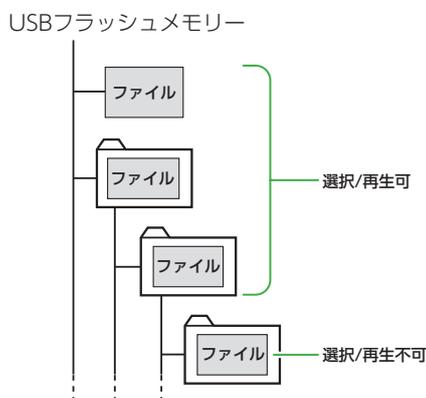
- 以下のボタンのいずれかを押した場合も、ファイルコントロール画面を抜けられます。
 - [機能](FUNCTION)ボタン
 - [グランドピアノ](PORTABLE GRAND)ボタン

ファイル名に使える文字

ユーザーソングなどのファイル名に使える文字は、半角英数字のみです。ファイル名に漢字やかなが含まれているファイルは認識されません。ただし、半角カタカナに限り、機能設定画面で「言語」(109ページ、機能番号080)を「Japanese」に切り替えることで読み込めるようになります。

USBフラッシュメモリー内の認識可能なフォルダー構成

コンピューターなどでUSBフラッシュメモリー内のファイルを管理する場合、ルートフォルダーか、1階層目/2階層目のフォルダーにファイルを保存してください。3階層目以降のフォルダーに保存されたファイルは、この楽器では選択や再生ができません。



NOTE

- USBフラッシュメモリーの中に大量のデータがある場合は、読み込みに時間がかかる場合があります。

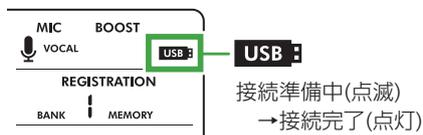
USBフラッシュメモリーをフォーマットする

市販のUSBフラッシュメモリーを、この楽器で使用できる状態にすることをフォーマット(初期化)といいます。

ご注意

- フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



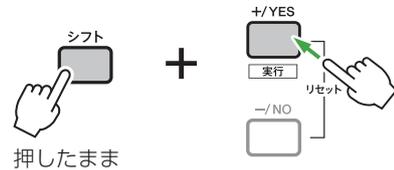
- 3 [Format] (ファイルコントロール操作番号015)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段に「Format OK?」と表示されます。



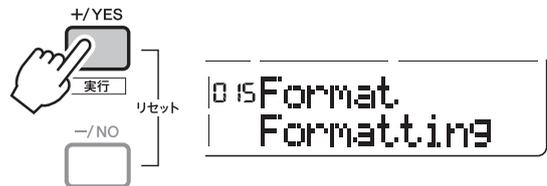
- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押します。

画面下段に、フォーマットの実行を再確認するメッセージ「Sure? YES/NO」が表示されます。フォーマットを中止する場合は、[-/NO]ボタンを押します。



- 5 [+/YES]ボタンを押して、フォーマットを実行します。

実行中は、画面下段に「Formatting」と表示されます。



フォーマットが完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。USBフラッシュメモリーに「USER FILES」フォルダーが自動的に作成されたあと、手順3の画面に戻ります。

ご注意

- フォーマット実行中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

- 6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

ユーザーデータをUSBフラッシュメモリーに保存する

この楽器本体で作った下記5つのデータを「ユーザーデータ」といいます。

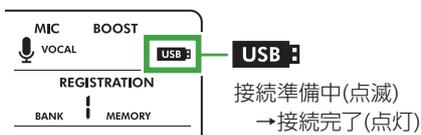
- 全10曲のユーザーソングデータ(60ページ)
- コンピューターから転送し、スタイル番号346 ~ 355に読み込んだスタイルデータ(46ページ)
- オートコードプレイ ユーザーコード進行データ(39ページ)
- 全レジストレーションメモリーデータ(70ページ)
- ルーパーデータ(81ページ)

これらをまとめて1つのユーザーファイル(.usr)として、USBフラッシュメモリーに保存します。

NOTE

- ユーザーソングデータは、個別にMIDIファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存できます(65ページ)。
- サンプルの保存については77ページをご覧ください。
- ユーザーファイルの拡張子は楽器本体の画面には表示されません。USBフラッシュメモリーをコンピューターに接続したときに、コンピューターの画面上でご確認ください。

1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



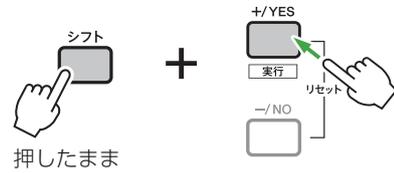
3 [Save User] (ファイルコントロール操作番号001) が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、保存先のユーザーファイル名が「USER***」(***は001 ~ 100の数字)と表示されます。別のファイルを選びたい場合は、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回してUSER001 ~ 100の中から選びます。



4 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+ / YES]ボタンを押します。

画面下段に、保存の実行を確認するメッセージ「Save OK?」が表示されます。保存を中止する場合は、[- / NO]ボタンを押します。



上書きについて

保存先に選んだファイルにすでにデータがある場合は、画面下段に「Overwrite?」と表示されます。

5 [+ / YES]ボタンを押して、保存を実行します。

実行中は、画面下段に「Saving」と表示されます。USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに、ユーザーファイルが保存されます。保存が完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。「USER FILES」フォルダーは自動的に作成されます。



ご注意

- 保存の実行中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

NOTE

- USBフラッシュメモリーの状態により、保存に長時間かかる場合があります。

6 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

ユーザーファイルをUSBフラッシュメモリーから読み込む

USBフラッシュメモリーから、ユーザーファイル(.usr)として保存したユーザーデータ(92ページ)を、まとめて楽器本体に読み込みます(ロードします)。

ご注意

- ユーザーファイルを読み込むと、楽器本体内のユーザーデータ(ユーザーソング全10曲、スタイル番号346～355のスタイルデータ、ユーザーコード進行データ、レジストレーションメモリーデータ、ルーパーデータ)はすべて上書きされ、消去されます。大切なデータは、読み込む前に、別ファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存しておきましょう。

NOTE

- サンプルの読み込みについては79ページをご覧ください。

1 読み込みたいユーザーファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに保存しておきます。

「USER FILES」フォルダー外にあるファイルは認識されません。

2 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



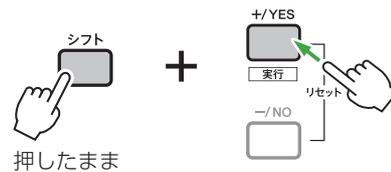
4 「Load User」(ファイルコントロール操作番号002)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、USBフラッシュメモリー内のユーザーファイルが「USER***」(***は数字)と表示されます。必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して読み込みたいユーザーファイルを選びます。



5 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押します。

画面下段に、読み込みの実行を確認する「Load OK?」が表示されます。読み込みを中止する場合は、[-/NO]ボタンを押します。



6 [+/YES]ボタンを押して、読み込みを実行します。

実行中は、画面下段に「Loading」と表示されます。



読み込みが完了すると、画面下段に「Complete」と表示されます。

ご注意

- 読み込み中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

7 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

8 読み込んだユーザーデータを呼び出して、内容を確認しましょう。

USBフラッシュメモリー内のユーザーファイルを削除する

USBフラッシュメモリー内のユーザーファイル(.usr)を削除します。

- 1 削除したいユーザーファイルを、USBフラッシュメモリー内の[USER FILES]フォルダーに保存しておきます。

[USER FILES]フォルダー外にあるファイルは認識されません。

- 2 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面右上に **USB** アイコンが点灯することを確認します。



- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



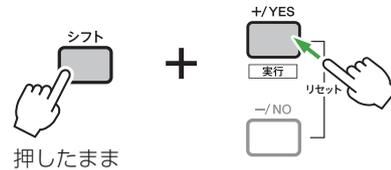
- 4 [Delete User] (ファイルコントロール操作番号003) が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。

画面下段には、USBフラッシュメモリー内のユーザーファイルが[USER***] (***)は数字)と表示されます。必要に応じて、[スタイル](STYLE)ダイヤルを回して削除したいファイルを選びます。



- 5 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+/YES]ボタンを押します。

画面下段に、削除の実行を確認する[Delete OK?]が表示されます。削除を中止する場合は、[-/NO]ボタンを押します。



- 6 [+/YES]ボタンを押して、削除を実行します。

実行中は、画面下段に[Deleting]と表示されます。



削除が完了すると、画面下段に[Complete]と表示されます。

ご注意

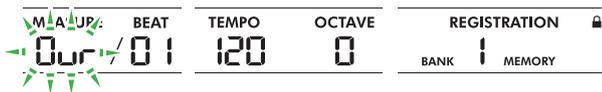
- 削除中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

- 7 ファイルコントロール画面を抜けるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。

ファイルコントロール操作に関する エラーメッセージ一覧

メッセージ	意味
Can't Use	USBフラッシュメモリーが読み書き中のため、現在ファイルの操作ができません。
Media Full	メモリー容量がいっぱいになったため、データを保存できません。別のUSBフラッシュメモリーに保存するか、既存のデータを削除してから、改めて保存してください。
Error!	ファイルにエラーがあるか、操作中にエラーが起きました。
Protect	USBフラッシュメモリーにライトプロテクト(書き込み禁止)がかかっているため、書き込みできません。ライトプロテクトスイッチをオフにするか、ライトプロテクトのかかっていない別のUSBフラッシュメモリーをご使用ください。
No File	ファイルがありません。
No Data	データがありません。
Use Adapter	楽器の電源に電池を使用している場合は、USBフラッシュメモリーへの書き込みはできません。電源アダプターを接続してください。
Data Error	データのフォーマットが正しくありません。
File Full	ファイル数の制限を超えたため、保存できません。別のUSBフラッシュメモリーに保存するか、既存のファイルを削除してから、改めて保存してください。
Unformat	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーが接続されています。

USBフラッシュメモリー接続時の「Ovr」点滅表示



USBフラッシュメモリーに過電流が流れると、楽器とUSBフラッシュメモリーの通信が停止し、画面左上に「Ovr」が点滅表示されます。この場合は、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。

他の機器と接続する

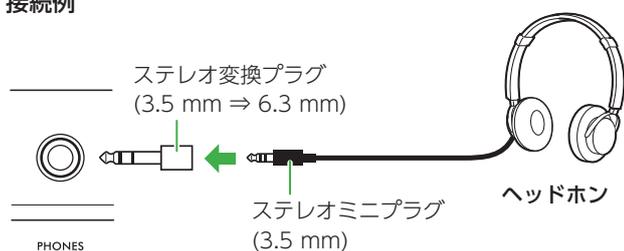
⚠ 注意

- 他の機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量を最小にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

ヘッドホンを使う

別売のヘッドホンを[PHONES]端子に接続します。ヘッドホンを接続すると、自動的にこの楽器のスピーカーからは音が出なくなります。ミニプラグのヘッドホンを使う場合は、下図のように、ステレオ変換プラグが必要です。

接続例



⚠ 注意

- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

NOTE

- 機能設定(109ページ)の機能番号077「スピーカー」を「1 Phones Sw」以外に設定すると、ヘッドホンの接続の有無に関係なくスピーカーをオンまたはオフにできます。
- [PHONES]端子にプラグがささっていると、楽器のスピーカーから音が出ません。ヘッドホンを使用しないときは、ヘッドホン(と変換プラグ)を外してください。

ペダル(フットスイッチ)を使う

別売のフットスイッチ(FC5またはFC4A)を[FOOT SWITCH]端子に接続すると、サステイン(107ページ)、アーティキュレーション(24ページ)、アルペジオ(26ページ)の3つの機能をコントロールできます。



初期設定ではサステイン機能が割り当てられています。ピアノのダンパーペダルと同様に、フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を響かせることができます。サステイン以外の機能を使う場合は、機能設定画面(107ページ 機能番号054)で設定します。

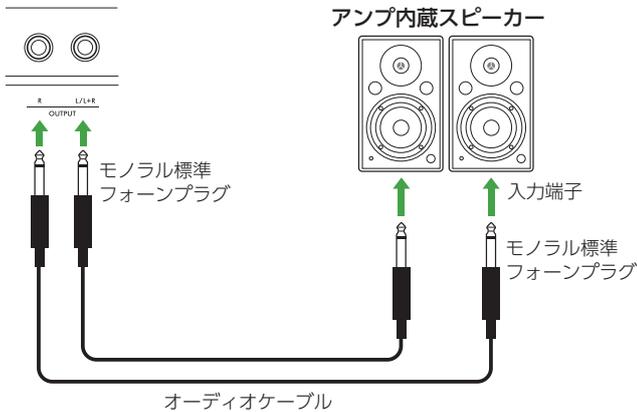
NOTE

- フットスイッチのプラグは、電源を切った状態で抜き差ししてください。また、フットスイッチを踏んだまま電源を入れないでください。フットスイッチのオン/オフが逆になります。
- スプリットボイス(22ページ)にはサステインはかかりません。
- ボイスによっては、フットスイッチを離すまで音が減衰せずに持続します。

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす

OUTPUT端子を使ってアンプ内蔵スピーカーと接続すると、より大きな音で迫力ある演奏ができます。

接続例



[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを使って、外部機器への出力音量を調節できます。

ご注意

- 外部機器の損傷を防ぐため、この楽器の音を外部機器に出力するときは、最初にこの楽器、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次にこの楽器の順に電源を切ってください。
- オートパワーオフ機能(8ページ)により、自動的に楽器の電源が切れることがあります。一定時間本体を操作しない場合は、外部機器の電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- OUTPUT端子の出力を[AUX IN]端子に直接つながないでください。また、OUTPUT端子で外部機器と接続した場合も、その外部機器の出力端子を[AUX IN]端子に接続しないでください。これらの形で接続した場合、[AUX IN]端子に入力された音はOUTPUT端子からそのまま出力され、発振が起こり、両機器の故障の原因になります。

NOTE

- オーディオケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。
- モノラル機器と接続する場合は、[L/L+R]端子をお使いください。

本体スピーカーをオフに設定する

機能設定(109ページ)の機能番号077「スピーカー」を、「3 Speaker Off」に設定します。

オーディオ機器の音をこの楽器で鳴らす

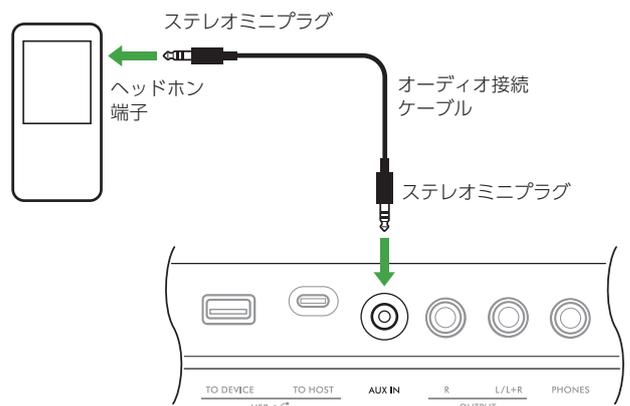
楽器の[AUX IN]端子に、スマートフォンなどのオーディオ機器を接続すれば、楽器本体のスピーカーからオーディオ機器の再生音を鳴らし、再生に合わせて鍵盤を弾くことができます。

ご注意

- 機器の損傷を防ぐため、外部機器の音をこの楽器から鳴らすときは、最初に外部機器、次にこの楽器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初にこの楽器、次に外部機器の順に電源を切ってください。

1 オーディオ機器のヘッドホン端子と楽器本体の[AUX IN]端子をオーディオケーブルで接続します。

接続例



NOTE

- コンピューター、またはスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスをお使いの場合は、[USB TO HOST]端子に接続して楽器から音を鳴らすこともできます(98、101ページ)。

2 オーディオ機器、楽器本体の順に電源を入れます。

3 オーディオ機器での再生をスタートします。

オーディオ機器の再生音が楽器本体のスピーカーで鳴ります。

4 オーディオ機器と楽器本体の音量バランスを調整します。

オーディオ機器でオーディオ再生音の音量を調節し、楽器本体の[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールで全体音量を調節します。

次ページへ続く

NOTE

- ノブで、外部からのオーディオ入力音の音量と、スタイル/ソングの音量バランスを調節できます。詳しくは47～49ページをご覧ください。
- 機能設定画面(108ページ、機能番号068)で[AUX IN]端子からのオーディオ入力音の音量を調節することもできます。ただし、初期設定の50を上回る値にすると、音がひずむ場合があります。

5 オーディオ再生音に合わせて鍵盤を弾いてみましょう。

NOTE

- オーディオ再生音のメロディー部分をキャンセル(小さく)できます。次項の「メロディーパートの音を小さくする(メロディーキャンセル)」の手順をご覧ください。

6 演奏が終わったら、オーディオ機器での再生を停止します。

メロディーパートの音を小さくする(メロディーキャンセル)

[AUX IN]端子や[USB TO HOST]端子に接続した外部オーディオ機器やコンピューターでのオーディオ再生音をこの楽器で鳴らす場合、メロディーパートの音を小さくできます。オーディオ再生に合わせて、メロディーパートを自分で演奏したいときなどに便利です。

機能設定画面(109ページ)で設定します。

- **機能番号071** 「メロディーキャンセル」 :
メロディーキャンセル機能をオン/オフします。
- **機能番号072** 「メロディーキャンセルパン」 :
キャンセルをかける位置を調節します。

NOTE

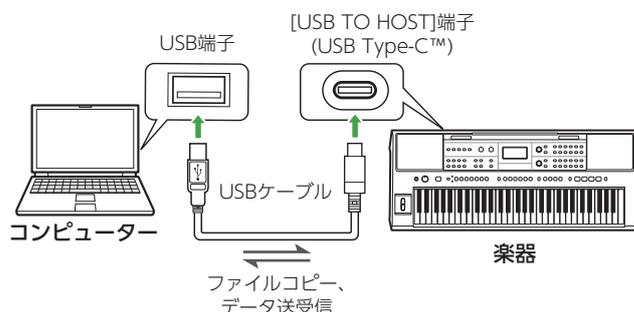
- [USB TO HOST]端子に接続してオーディオ再生音を鳴らす場合、機能設定の「オーディオループバック」(108ページ、機能番号070)がオフのときは、メロディーキャンセル機能は使えません。

コンピューターと接続する

USBケーブルで楽器とコンピューターを接続すると、次のようなことができるようになります。

- スタイルやソングのファイルをコピー
- バックアップファイル(110ページ)をコンピューターに保存
- MIDIデータを送受信
- オーディオデータを送受信(USBオーディオインターフェース機能)

接続例



[USB TO HOST]端子ご使用時の注意

[USB TO HOST]端子でコンピューターと接続するときは、コンピューターや楽器本体の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

ご注意

- USBケーブルはACまたはCCタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。また、充電専用ではなく、USB規格に準拠したデータ通信可能なケーブルをご使用ください。
- 楽器本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行ってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 楽器本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、楽器本体からデータが送信されます。)
- 楽器本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

コンピューターや楽器本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、楽器の電源を入れ直してください。

ソングファイル、スタイルファイル、バックアップファイルをコピーする

ここでは、以下2点を説明します。

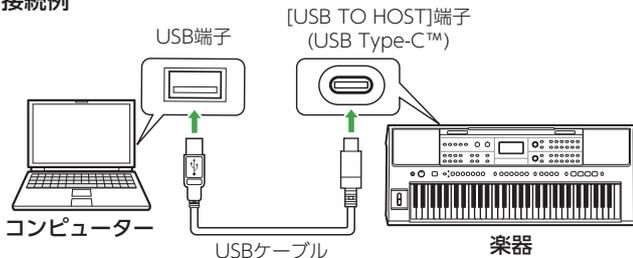
- ソング(MIDI)/スタイルファイルをコンピューターから楽器に取り込む。
- バックアップファイル(.BUP、110ページ)を楽器からコンピューターに取り出す。

ファイルを取り込んだり、取り出したりするには、「ストレージモード」という機能を使います。この機能を使うと、コンピューター上で簡単にファイルを操作できます。

1 楽器の電源を切ります。

2 USBケーブルを使って、リアパネルの[USB TO HOST]端子(12ページ)とコンピューターを接続します。

接続例



接続時の注意事項は、98ページの「[USB TO HOST]端子ご使用時の注意」をご覧ください。

3 楽器の電源を入れます。

4 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を呼び出します。



5 「Storage Mode」(機能番号076)が画面上段に表示されるまで、[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。



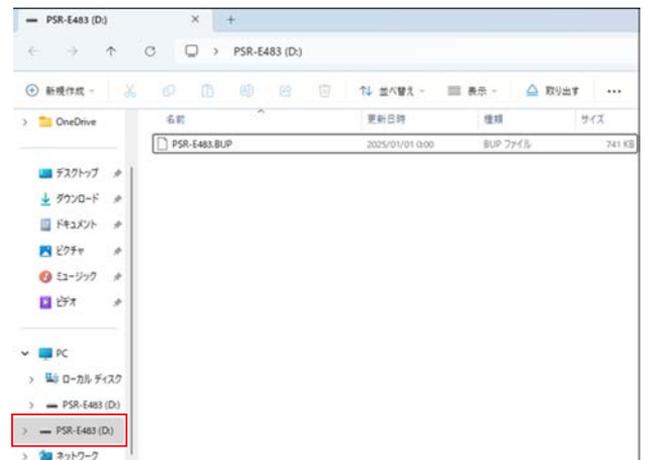
6 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、ストレージモードをオンにします。



7 コンピューターの画面上にバックアップファイル(.BUP)があるのを確認します。

手順6でストレージモードがオンになると、コンピューター上に楽器のドライブが作られ、自動的にエクスプローラー等のアプリケーションが起動します。楽器のドライブ内には、バックアップファイル(PSR-E483.BUP)が入っています。

例: Windows 11の場合



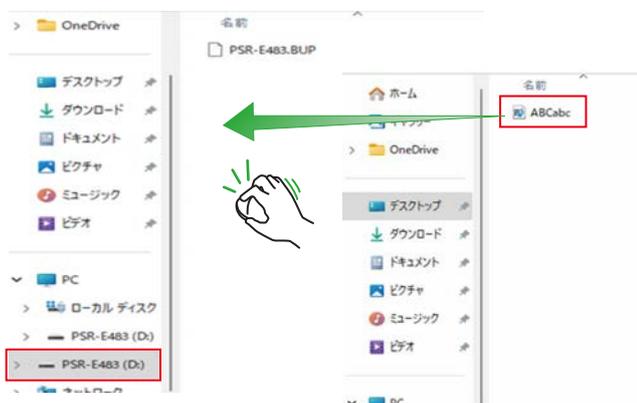
NOTE

- 楽器側に十分な空き容量がない場合、ストレージモードをオンにしたとき、楽器にエラーメッセージが出ます。コンピューター上のエクスプローラーなどのアプリケーションが立ち上がったあと、楽器側のソングファイルやスタイルファイルを削除して空き容量を確保してください。

次ページへ続く

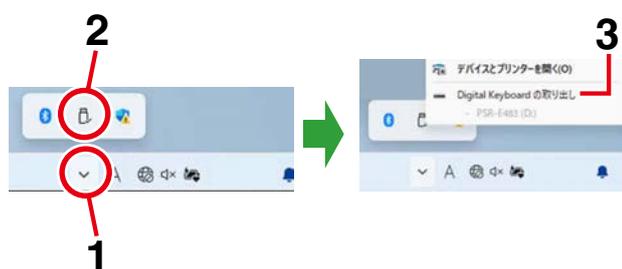
8 コンピューターの画面上で、楽器に取り込みたいファイルを楽器のドライブにコピーします。

バックアップファイルをコンピューターに保存する場合は、楽器のドライブにあるPSR-E483.BUPのファイルをコンピューターにコピーします。



9 コピーが終わったら、コンピューター上で楽器のドライブを取り出します。

Windows 11の場合、下記のイラストのように、「Digital Keyboardの取り出し」をクリックします。



10 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、ストレージモードをオフにします。



11 ストレージモード設定画面からホーム画面(14ページ)に戻るには、[シフト](SHIFT)ボタンを押します。



12 楽器とコンピューターを接続しているUSBケーブルを外します。

13 楽器に取り込んだファイルが正しくコピーできたかどうか、再生して確認してみましょう(101ページ)。

ご注意

- USBケーブルをコンピューターから抜く前に、必ずコンピューター上で、楽器のドライブの取り外し(手順9)を行ってから抜いてください。ファイルが破損するおそれがあります。
- コンピューター上でバックアップファイル(拡張子:.BUP)のファイル名を変更(リネーム)しないでください。バックアップデータが、楽器に取り込まれなくなります。
- バックアップファイルを再度楽器に取り込むと、それまで楽器にあった設定が破棄され、バックアップファイルの内容に書き替わります。ユーザーソングや、登録したスタイルファイルも書き替わりますのでご注意ください。
- 楽器のドライブにはフォルダーを作らないでください。コピーされたファイルを楽器が正しく認識しないおそれがあります。
- 楽器のドライブはフォーマットしないでください。楽器が正常に動作しなくなるおそれがあります。

コピーできるファイル(合計約1.5MB以内)

- **スタイルファイル(拡張子:.STY)**
この楽器にはスタイルファイルを作る機能はありませんが、他の機器で作ったスタイルファイルを読み込むことはできます。1ファイルあたりの容量上限は50 KBです。上限を超えたファイルは楽器上で認識されません。
- **ソングファイル(拡張子:.MID)**
他の楽器やコンピューターで作ったソングファイルをこの楽器にコピーできます。なお、この楽器で作ったユーザーソングを単独のファイルとしてコンピューターにコピーすることはできません。
- **バックアップファイル(拡張子:.BUP)**
楽器内のデータを、1つのバックアップファイルとして保存できます。保存される内容については、「バックアップされるデータや設定」(110ページ)をご覧ください。

コピーしたファイルを確認する

楽器にコピーしたファイルが正しくコピーできたかどうか、確認してみましょう。

● スタイルファイル

コピーしたスタイルファイルを楽器で使用する場合は、楽器にそのスタイルを読み込ませる作業が必要です。楽器に読み込ませたら、そのスタイルを再生してみましょう。楽器にスタイルファイルを読み込ませる方法は46ページをご覧ください。

スタイルファイルの再生方法は34ページをご覧ください。

● ソングファイル

取り込んだソングファイルは、ソング番号13番以降に入ります。

- 1 モード選択(MODE SELECT)ボタンを押して、ソングモードにします。
- 2 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して、取り込んだソングを選びます。
- 3 [▶ / ■](スタート/ストップ)ボタンを押すと、取り込んだソングが再生されます。

NOTE

- 楽器にコピーされたソングファイルは、楽器内ではファイル名で、記号>数字>アルファベット順に並びます。

● バックアップファイル

録音したユーザーソングや、読み込んだスタイルファイルなど、保存したときの設定に戻っているか確認してください。

コンピューター / スマートデバイスと楽器の間でデータを送受信する

コンピューターやスマートデバイスと楽器を接続して、MIDIデータやオーディオデータを送受信できます。コンピューターと楽器の接続については98ページを、スマートデバイスと楽器の接続方法については、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル」(本書2ページ)をご覧ください。

MIDIデータを送受信する

- 送信: 楽器での演奏情報を送信して、コンピューターやスマートデバイスに記録します。
- 受信: コンピューターやスマートデバイスで再生中のMIDIソングを楽器で鳴らします。

【活用例】

コンピューター上で音楽制作ソフトや楽譜作成ソフトを使う音楽制作ソフトや楽譜作成ソフトに、楽器の鍵盤で音符を入力できます。

オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェース機能)

コンピューターやスマートデバイス上で再生したオーディオデータを楽器で聞いたり、楽器での演奏をオーディオデータとしてコンピューターに送信したりできます。

Windowsの場合:

オーディオデータの送受信には専用のUSBドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が必要です。下記ウェブページから「Yamaha Steinberg USB Driver」をダウンロードし、ドライバーをコンピューターにインストールしてください。インストール方法は、ダウンロードファイルに付属のインストールガイドでご確認ください。

<https://manual.yamaha.com/mi/rt/psr-e483/software/jp/>

Macの場合:

macOSに用意されている標準ドライバーを使いますので、ドライバーのインストールは不要です。

ご注意

- DAW(Digital Audio Workstation)などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合は、機能設定「オーディオループバック」(108ページ、機能番号070)をオフにしてください。オンにして使用すると、オーディオデータと楽器の音がミックスされたものがDAWへ送られ、ハウリングや異音が発生することがあります。

次ページへ続く

NOTE

- [USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音は[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールで音量を調節できません。鍵盤演奏とオーディオ入力音をミックスして DAW 録音する場合は、この点にご注意ください。
- [USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音の音量は、機能設定画面(108ページ、機能番号069)で調節できます。

アプリを使う

コンピューターやスマートデバイスと楽器を接続すると、この楽器に対応したアプリを使えます。お好みのMIDIソングをスタイルファイルに変換したり、楽器演奏の撮影や楽器内のデータの転送などを簡単に行ったりできます。コンピューターと楽器の接続については98ページを、スマートデバイスと楽器の接続方法については、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル」(本書2ページ)をご覧ください。

対応アプリ

● コンピューター用アプリ



MIDI Song to Style

MIDIソング(SMF: Standard Midi File (.mid))をスタイルファイル(.sty)に自動変換するアプリケーションです。自分が弾きたい曲を、楽器上でスタイルとして再生しながら演奏できます。

● スマートデバイス用アプリ



Rec'n'Share

楽器の演奏を撮影/録音/編集して、それらのデータをSNSなどインターネットにアップロードできます。



MusicSoft Manager

外部で作られた曲データ(MIDI)をスマートデバイスから楽器に転送したり、楽器のバックアップファイル(.BUP)をスマートデバイスに保存したりできます。

アプリに関する情報については、下記ウェブサイトでご確認ください。

- MIDI Song to Style

<https://jp.yamaha.com/support/updates/>

* 上記ページ内の「製品カテゴリ」欄から「エレクトーン・キーボード」を選び、「MIDI Song to Style」を検索してください。

- Rec'n'Share、MusicSoft Manager

<https://www.yamaha.com/kbdapps/>

ご注意

- USBケーブルは、ACまたはCCタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。

NOTE

- [USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音の音量は、機能設定画面(108ページ、機能番号069)で調節できます。

機能設定

チューニングやスプリットポイント、各ボイスやエフェクトなどの細かな設定をするのが機能設定です。設定したい項目を、機能リスト(103 ~ 109ページ)で見つけてから、下記の操作で設定します。

機能設定の基本操作

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を表示させます。



- 2 設定したい項目名、および機能番号が画面に表示されるまで[ボイス](VOICE)ダイヤルを回します。



- 3 [スタイル](STYLE)ダイヤルを回して値を設定します。

[+/YES]ボタンと[-/NO]ボタンを同時に押すと、初期設定値に戻ります。



- 4 [シフト](SHIFT)ボタンを押して、機能設定画面から抜けます。



機能リスト

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
楽器全体						
001	テンポロック	Tempo Lock	On/Off	Off	スタイルを切り替えたとき、テンポもあわせて切り替えるかどうかを設定します。 ・ On: スタイルの再生中かどうかに関わらず、切り替える前のテンポが保持されます。 ・ Off: スタイル再生中に切り替えると、切り替える前のテンポが保持されます。スタイルの停止中に切り替えると、切り替えたあとのスタイルの初期設定のテンポに変わります。	
002	トランスポーズ	Transpose	-12 ~ +12	0	ピッチ(音高)を半音単位で設定します。	
003	チューニング	Tuning	427.0 Hz ~ 453.0 Hz	440.0 Hz	楽器全体のピッチ(音高)を約0.2 Hz単位で設定します。	✓
004	ピッチバンドレンジ	PB Range	1 ~ 12	2	ピッチバンドの変化幅を設定します。	
005	スプリットポイント	Split Point	C1(036) ~ C6(096)	F # 2/G♭2 (054)	鍵盤の領域を左右に分けるポイントを設定します。指定した鍵盤とそこより左の鍵盤が、左手鍵域(自動伴奏鍵域)になります。	✓
006	タッチレスポンス	Touch Respons	1: Soft 2: Medium 3: Hard 4: Off	2: Medium	鍵盤を弾く強さを変えたときの音の強弱の付き方を設定します。 設定値の詳細は、18ページをご覧ください。	✓

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
メインボイス						
007	メインボイス音量	M. Volume	0 ~ 127	*	メインボイスの音量を設定します。	
008	オクターブ	M. Octave	-2 ~ +2	*	メインボイスの音域をオクターブ単位で設定します。	
009	パン	M. Pan	L63 ~ L01、C、R01 ~ R63	*	メインボイスの左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。	
010	リバーブの深さ	M. Reverb	0 ~ 127	*	メインボイスへのリバーブのかかり具合を設定します。	
011	コーラスの深さ	M. Chorus	0 ~ 127	*	メインボイスへのコーラスのかかり具合を設定します。	
012	アタックタイム	M. Attack	0 ~ 127	64	メインボイスの音の立ち上がり方を設定します。大きい値では音の立ち上がりが遅く、小さい値では速くなります。	
013	リリースタイム	M. Release	0 ~ 127	64	離鍵時におけるメインボイスの減衰の仕方を設定します。大きい値では余韻が長く、小さい値では余韻が短くなります。	
014	フィルターカットオフ	M. Cutoff	0 ~ 127	64	フィルターのカットオフ周波数(どの周波数帯の信号以上をカットするか)を設定します。値が大きいほど、音は明るくなります。	
015	フィルターレゾナンス	M. Resonance	0 ~ 127	64	レゾナンス(カットオフ周波数近くの音声信号を持ち上げ、音にクセをつける)効果を設定します。値が大きいほど、クセのある音になります。	
デュアルボイス						
016	デュアルボイス音量	D. Volume	0 ~ 127	*	デュアルボイスの音量を設定します。	
017	オクターブ	D. Octave	-2 ~ +2	*	デュアルボイスの音域をオクターブ単位で設定します。	
018	パン	D. Pan	L63 ~ L01、C、R01 ~ R63	*	デュアルボイスの左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。	
019	リバーブの深さ	D. Reverb	0 ~ 127	*	デュアルボイスへのリバーブのかかり具合を設定します。	
020	コーラスの深さ	D. Chorus	0 ~ 127	*	デュアルボイスへのコーラスのかかり具合を設定します。	
021	アタックタイム	D. Attack	0 ~ 127	64	デュアルボイスの音の立ち上がり方を設定します。大きい値では音の立ち上がりが遅く、小さい値では速くなります。	
022	リリースタイム	D. Release	0 ~ 127	64	離鍵時におけるデュアルボイスの減衰の仕方を設定します。大きい値では余韻が長く、小さい値では余韻が短くなります。	
023	フィルターカットオフ	D. Cutoff	0 ~ 127	64	フィルターのカットオフ周波数(どの周波数帯の信号以上をカットするか)を設定します。値が大きいほど、音は明るくなります。	
024	フィルターレゾナンス	D. Resonance	0 ~ 127	64	レゾナンス(カットオフ周波数近くの音声信号を持ち上げ、音にクセをつける)効果を設定します。値が大きいほど、クセのある音になります。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
スプリットボイス						
025	スプリットボイス音量	S.Volume	0 ~ 127	*	スプリットボイスの音量を設定します。	
026	オクターブ	S.Octave	-2 ~ +2	*	スプリットボイスの音域をオクターブ単位で設定します。	
027	パン	S.Pan	L63 ~ L01、C、R01 ~ R63	*	スプリットボイスの左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。	
028	リバーブの深さ	S.Reverb	0 ~ 127	*	スプリットボイスへのリバーブのかかり具合を設定します。	
029	コーラスの深さ	S.Chorus	0 ~ 127	*	スプリットボイスへのコーラスのかかり具合を設定します。	
スタイル						
030	スタイル音量	Style Volume	0 ~ 127	100	スタイルの音量を設定します。	✓
031	フィンガリングタイプ	Fing. Type	1: Multi Finger 2: Smart Chord	1: Multi Finger	スタイル再生時に、自動伴奏鍵域で弾くコードの弾き方(フィンガリングタイプ)を設定します。 フィンガリングタイプの詳細は、 36ページ をご覧ください。	✓
032	スタイルキー	Style Key	FL7 ~ FL1、SP0 ~ SP7 FL7(♭7個): C♭ Major/A♭ minor SP0(調号なし): C Major/A minor SP7(♯7個): C♯ Major/A♯ minor	SP0 (調号なし): C Major/ A minor	フィンガリングタイプがスマートコードに設定されているときに、楽譜に記載されたシャープ(♯)やフラット(♭)の数から、その曲の調を設定します。調が正しく設定されていると、コードのルート音(根音)を弾くだけで、自動的に曲に合ったコードを鳴らせます。 • FL7 ~ FL1: フラット(♭)が1 ~ 7つある曲の場合 • SP0: シャープもフラットもない曲の場合 • SP1 ~ SP7: シャープ(♯)が1 ~ 7つある曲の場合	
033	コード進行	Chord Prog.	001 ~ 110	001	オートコードプレイ機能(38ページ)を使って再生するコード進行を選びます。 コード進行の詳細は、ウェブサイト上の データリスト をご覧ください。	
ソング						
034	ソング音量	Song Volume	0 ~ 127	100	ソングの音量を設定します。	✓
035	ソングメロディーボイス	MelodyVcChg	001 ~ 860	**	選択中のソングのメロディーボイスを、好みのボイスに変えることができます。 変更方法の詳細は、 56ページ をご覧ください。	
ルーパー						
036	ルーパーアンドゥ	Looper Undo	1: Last Event 2: Last Timing 3: Last Loop	1: Last Event	ルーパー機能を使った録音をやり直したいときに、どの部分を取り消してやり直すかを設定できます。 1: Last Event.....最後に録音した単音を取り消します。 2: Last Timing...最後に録音した和音を取り消します。 3: Last Loop.....最後に録音した1ループを取り消します。	
037	ルーパー音量	LooperVolume	0 ~ 127	100	ルーパー機能を使って録音したフレーズの音量を設定します。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
エフェクト						
038	リバーブタイプ	Reverb	01 ~ 04: Hall 05: Cathedral 06 ~ 09: Room 10 ~ 12: Stage 13 ~ 15: Plate 16: Off	**	リバーブタイプ(31ページ)を選びます。リバーブタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。	
039	リバーブトータルレベル	Reverb Level	0 ~ 127	64	リバーブのかかり具合を設定します。	
040	コーラスタイプ	Chorus	1 ~ 3: Chorus 4 ~ 6: Flanger 7: Celeste 8: Off	**	コーラスタイプ(31ページ)を選びます。コーラスタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。	
041	マスターEQタイプ	Master EQ	1: Standard 2: Bright 1 3: Bright 2 4: Mellow 1 5: Mellow 2	1: Standard	楽器の本体スピーカーなどで鳴らすサウンドを、お好みの音に設定します。マスターEQタイプの詳細は、32ページをご覧ください。	✓
マイク						
042	マイク音量	Mic Volume	0 ~ 127	マイクタイプによる	マイク入力音の音量を設定します。	✓
043	パン	Mic Pan	L63 ~ L01、C、R01 ~ R63	マイクタイプによる	マイク入力音の左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。ただし、マイクがオフ、またはマイクタイプが[TALK]のときは、「---」と表示され、設定できません。	✓
044	リバーブの深さ	Mic Reverb	0 ~ 127	マイクタイプによる	マイク入力音へのリバーブのかかり具合を設定します。ただし、マイクがオフ、またはマイクタイプが[TALK]のときは、「---」と表示され、値を指定できません。	✓
045	コーラスの深さ	Mic Chorus	0 ~ 127	マイクタイプによる	マイク入力音へのコーラスのかかり具合を設定します。ただし、マイクがオフ、またはマイクタイプが[TALK]のときは、「---」と表示され、値を指定できません。	✓
サンプリング						
046	ブランクカット	Blank Cut	On/Off	On	[On]にすると、サンプリング終了時に、サンプルの冒頭と終わりの無音部分を自動でカットします。	✓
047	サンプリングパッド音量	Sampling Vol	000 ~ 127	100	クイックサンプリングパッドに登録されているサンプルの音量を設定します。	
048	サンプリング同期再生	Sampling Sync	On/Off	Off	クイックサンプリングパッドを、押してすぐに再生するか、スタイルやソングの再生に合わせて小節の頭から再生するかどうかを設定します。	
ハーモニー / アルペジオ						
049	ハーモニータイプ	Harmony	01 ~ 26	*	ハーモニータイプを選びます。ハーモニータイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。	
050	ハーモニー音量	Harmony Vol	0 ~ 127	*	ハーモニーの音量を設定します。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
051	アルペジオタイプ	Arpeggio	001 ~ 164	*	アルペジオタイプを選びます。 アルペジオタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。	
052	アルペジオペロシティー	Arp Velocity	1: Original 2: Key	**	アルペジオを再生するときのペロシティー(強さ)を設定します。 1: Original...鍵盤を押したときの強さに関係なく、各アルペジオの初期値の強さで再生されます。 2: Key.....鍵盤を押したときの強さで再生されます。	
053	アルペジオクオンタイズ	Arp Quantize	1: Off 2: 1/4 3: 1/8 4: 1/16	**	アルペジオ クオンタイズの設定を確認/変更します。 アルペジオ クオンタイズとは、ソングやスタイルの再生とタイミングが合うように、アルペジオの音のタイミングを補正する機能です。 1: Off..... ずれを補正しません。 2: 1/4.....4分音符のタイミングで同期がとれるようにずれを補正します。 3: 1/8.....8分音符のタイミングで同期がとれるようにずれを補正します。 4: 1/16... 16分音符のタイミングで同期がとれるようにずれを補正します。	
ペダル						
054	フットスイッチ	Foot Switch	1: Sustain 2: Arpeggio Hold 3: Sustain+Arpeggio Hold 4: Articulation	1: Sustain	[FOOT SWITCH]端子に接続したペダル(フットスイッチ)に割り当てる機能を設定します。 1: Sustain.....ペダルを踏んでいる間、サステインがかかり、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。 2: Arpeggio Hold.....ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離してもアルペジオが鳴り続けます。 3: Sustain+Arpeggio Hold... ペダルを踏んでいる間、サステインがかかり、アルペジオが鳴り続けます。 4: Articulation.....ペダルを踏んでいる間、アーティキュレーション効果がかかります。	
スケールチューン(音律)						
055	スケール	Scale	1: Equal (平均律) 2: Pure Major (純正律長調) 3: Pure Minor (純正律短調) 4: Bayat (アラブ音律) 5: Rast (アラブ音律)	1: Equal (平均律)	使用する音律を設定します。音律を変えると、各鍵盤のピッチ(音高)が変わります。 機能番号057 、 058 を使って独自の音律を設定した場合は、スケールの表示が「(Edited)」になります。値を変更して1~5を選ぶと、設定した独自の音律は失われます。	
056	ベースノート	Base Note	01: C、02: C#/D♭、 03: D、04: D#/E♭、05: E、 06: F、07: F#/G♭、08: G、 09: G#/A♭、10: A、 11: A#/B♭、12: B	01: C	スケールのトニックノート(主音)を設定します。Equal(平均律)以外のスケールを使う場合やオリジナルの音律を作る場合は、演奏するキーに応じて、ベースノートの設定を忘れずに行いましょう。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
057	チューニング対象ノート	Tune Note	01: C、02: C#/D♭、03: D、04: D#/E♭、05: E、06: F、07: F#/G♭、08: G、09: G#/A♭、10: A、11: A#/B♭、12: B	01: C	ノート(音)別にピッチ(音高)を設定します。この機能を使ってオリジナル音律を設定できます。 ・057「チューニング対象ノート」：ピッチを設定するノートを選択します。 ・058「チューニング」：対象ノートのピッチを設定します。1セント単位(半音を100等分したピッチの単位)で、平均律の場合との差分を設定します。 上記の設定をした後に機能番号055「スケール」の値を変更すると、オリジナル音律設定はすべて消去されます。オリジナル音律を設定したときは、レジストレーションメモリーへの記録(保存)(70ページ)をおすすめします。	
058	ノート別チューニング	Tune	-64 ~ 63	スケールによる		
メトロノーム						
059	拍子(分子)	Time Sig Top	00 ~ 60	**	メトロノームの拍子を設定します。	
060	拍子(分母)	Time Sig Btm	2 (2分音符) 4 (4分音符) 8 (8分音符) 16 (16分音符)	**	メトロノームの1拍の音符の長さを設定します。	
061	メトロノーム音量	MetronomeVol	0 ~ 127	100	メトロノームの音量を設定します。	✓
MIDI						
062	ローカルコントロール	LocalControl	On/Off	On	この楽器の鍵盤演奏を、この楽器の内部音源で鳴らす(On)か鳴らさない(Off)かを設定します。	
063	外部クロック	Ext Clock	On/Off	Off	この楽器の自動演奏(ソング、スタイルなど)を、内部クロックで動作させる(Off)か、外部クロックで動作させる(On)かを設定します。	
064	キーボードアウト	Keyboard Out	On/Off	On	鍵盤の演奏情報を、MIDIメッセージとして[USB TO HOST]端子から送信する(On)か、しない(Off)かを設定します。	
065	スタイルアウト	Style Out	On/Off	Off	スタイル機能で再生された演奏情報を、MIDIメッセージとして[USB TO HOST]端子から送信する(On)か、しない(Off)かを設定します。	
066	ソングアウト	Song Out	On/Off	Off	ソング機能で再生された演奏情報を、MIDIメッセージとして[USB TO HOST]端子から送信する(On)か、しない(Off)かを設定します。	
067	イニシャルセンド	Initial Send	-	-	この楽器のパネル設定をコンピューターに送信します。[+/YES]ボタンを押すと実行、[-/NO]ボタンを押すとキャンセルになります。コンピューター上の音楽制作アプリケーションに、この楽器上の演奏をMIDI録音する場合は、録音スタート直後に実行しておくとういでしょう。	
オーディオ						
068	[AUX IN] オーディオ音量	Aux In Vol	0 ~ 127	50	[AUX IN]端子からのオーディオ入力音の音量を設定します。	✓
069	[USB TO HOST] [USB TO DEVICE] オーディオ音量	USB In Vol	0 ~ 127	100	下記の音量を設定します。 ・[USB TO HOST]端子から入力されるオーディオの音量 ・[USB TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリー内のオーディオファイルの再生音量	✓
070	オーディオループバック	Loopback	On/Off	On	[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を、楽器での演奏音に重ねて再度コンピューターに出力するかどうかを設定します。楽器での演奏音しか出力したくない場合は「Off」に設定します。	✓

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
071	メロディーキャンセル	Melody Suppr	On/Off	Off	[AUX IN]端子に接続した外部オーディオ機器や、[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターなどからのオーディオ入力音をこの楽器で鳴らしているときに、メロディーパートの音をキャンセル(小さく)する(On)か、しない(Off)かを設定します。	
072	メロディーキャンセルパン	MelSuppr Pan	L63～L01、C、R01～R63	C	メロディーキャンセルが「On」のときに、左右の定位(音の位置)のうち、どこをキャンセルする(小さくする)かを調節します。	
レジストフリーズ						
073	スタイルフリーズ	Style Freeze	On/Off	Off	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、スタイル設定は呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合は「On」に設定します。	✓
074	トランスポーズフリーズ	Trans Freeze	On/Off	Off	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、トランスポーズは呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合は「On」に設定します。	✓
075	ボイスフリーズ	Voice Freeze	On/Off	Off	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、ボイスは呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合は「On」に設定します。	✓
ストレージ						
076	ストレージモード	Storage Mode	On/Off	Off	この楽器とコンピューターとの間でファイルを転送する時に「On」にします。ストレージモードを「On」にしている間は、楽器を演奏することができません。	
スピーカー						
077	スピーカー	Speaker	1: Phones Sw 2: Speaker On 3: Speaker Off	1: Phones Sw	楽器本体のスピーカーから音を出すかどうかを設定します。 1: Phones Sw..... ヘッドホンが接続されているときは、スピーカーから音を出さず、ヘッドホンから音を出します。ヘッドホンが接続されていないときは、スピーカーから音を出します。 2: Speaker On..... ヘッドホンの接続の有無によらず、スピーカーから音を出します。 3: Speaker Off..... ヘッドホンの接続の有無によらず、スピーカーから音を出しません。	
電源						
078	オートパワーオフ	AutoPowerOff	Disabled (無効)、 5/10/15/30/60/120 (分)	15 (分)	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。「Disabled」に設定すると、自動では電源は切れません。	✓
079	電池選択	Battery	1: Alkaline 2: Ni-MH	1: Alkaline	使用する電池の種類を設定します。 1: Alkaline ..アルカリ乾電池、マンガン乾電池 2: Ni-MH..... 充電式ニッケル水素電池	✓
言語						
080	言語切替	Language	English (英語)/Japanese (日本語)	English (英語)	USBフラッシュメモリー内のファイルや、コンピューターから楽器本体に転送されたファイルのファイル名を表示するときの言語を設定します。ただし、「Japanese」を選択しても全角文字は表示されません。	✓

* ボイスの組み合わせごとに最適な設定値になっています。

** 現在選ばれている「スタイル」「ソング」「アルペジオ」ごとに最適な設定値になっています。

バックアップと初期化

バックアップされるデータや設定

本製品上にある以下のデータや設定は、電源をオフしても維持されます。保存領域は、バックアップエリアと、フラッシュエリアに分かれています。

バックアップエリア (「バックアップクリア」でリセットされる)

- ユーザーソング (60ページ)
- スタイル番号346 ~ 355に登録されたスタイルファイル (46ページ)
- クイックサンプリングパッドに登録されたサンプル (72ページ)
- ルーパーデータ (81ページ)
- ユーザーコード進行データ (39ページ)
- レジストレーションメモリー (*1) (69ページ)
- 機能設定の各設定 (*1 *2) (103ページ)

*1 電源がオフになるときに、バックアップファイル(.BUP)に保存、上書きされます。

ご注意

下記の状況で電源が切れたときは設定が保存されず、電源を入れてからの操作結果は失われます。

- 電源が入っている状態で、電源アダプターを抜いたとき
- 停電などで突然電源が切れたとき
- 電池のみで使用、電池が消耗して電源が切れたとき
- 電池のみで使用、電源アダプターを接続したとき

*2 機能リスト(103 ~ 109ページ)の「バックアップ対象」列にチェックマークが入っている設定です。

フラッシュエリア (「フラッシュクリア」でリセットされる)

- コンピューターからコピーされた全ソングファイル (101ページ)
- コンピューターからコピーされた全スタイルファイル (101ページ)

バックアップファイル(.BUP)について

- バックアップエリアの全データや全設定は、ストレージモード(109ページ)をオンにしてコンピューターと通信するときに、1つの圧縮ファイル「バックアップファイル」(.BUP)として、バックアップエリアからフラッシュエリア内に書き出されます。書き出されたバックアップファイルは、コンピューターに保存できます。
- コンピューターやスマートデバイスに保存したバックアップファイル(.BUP)は、必要に応じて楽器本体に戻すことが可能です。ストレージモードをオンにして、コンピューター上のバックアップファイルを楽器に上書きコピーする(楽器本体に戻す)と、ストレージモードをオフにするときに、バックアップファイル内のデータと設定がバックアップエリアに書き戻されます。バックアップファイルのコピーについて詳しくは、99ページをご覧ください。

NOTE

- バックアップファイルの容量は、本体に保存されたデータ量に応じて変わります。最大の容量は、約618 KB です。

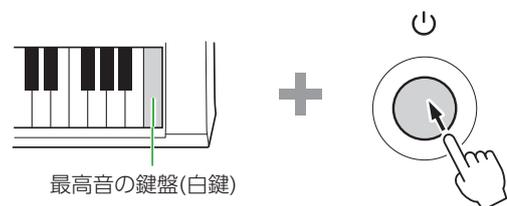
楽器を初期化する

バックアップデータなどを消去し、設定を工場出荷時の状態に戻すことを「初期化」と呼びます。

バックアップクリア

バックアップエリアの全データを消去し、設定を初期状態に戻します。

最高音の鍵盤(白鍵)を押したまま[ON](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



フラッシュクリア

フラッシュエリアの全データを消去します。

最高音の鍵盤(白鍵)と一番高い黒鍵3つを同時に押したまま[ON](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



ご注意

- 初期化の前に、消去したくないデータは、必要に応じてコンピューターやスマートデバイスに転送/保存しておきましょう。フラッシュクリアで初期化する場合、購入した有料のデータも消去される可能性があります。

結線図(ブロックダイアグラム)

結線図について

本製品に搭載されているエフェクトのつながり(結線)を表したもので、各パートの音にどのようにエフェクトがかけられるのかを確認できる資料です。

● 凡例

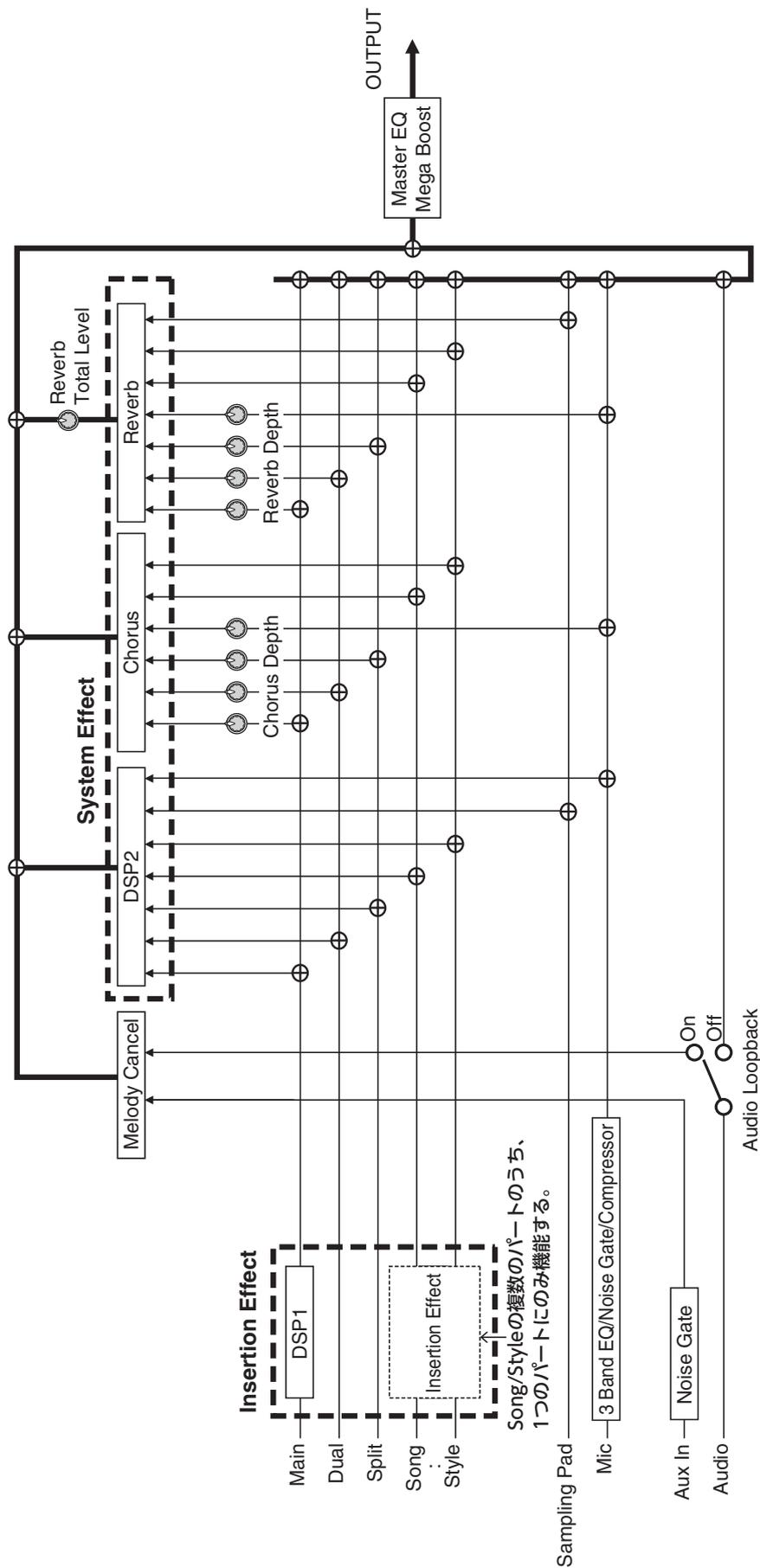
□: 図で囲まれた内容: この楽器に搭載されているエフェクトです。

⊕: 結線が複数に分岐しているところ、または複数から合流する箇所を示しています。

⊙: 深さを調整できることを示しています。

● 図の見方

各パートの音は、下図の左から右に向かって流れ、その順番にエフェクトがかけられていきます。たとえば、Mainは、最初にDSP1を通り、次にDSP2、Chorus、Reverbを通り、最後にMaster EQ、Mega Boostを通して出力されます。また、Mainと違い、Dual、SplitはDSP1を通っていないので、DSP1がかからないことが分かります。



困ったときは

現象	原因と解決方法
[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押して、電源を入れたときに、ポツンという音がする。	本体に電流が流れるためです。故障ではありません。
[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押して、電源を入れたとき、電源がすぐ切れる。	過電圧保護機能が働いたためです。指定以外の電源アダプターを使用すると、電源を入れたときに電源がすぐに切れる場合があります。電源アダプターは必ず指定のものをご使用ください。
本体スピーカーやヘッドホンから雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話やスマートフォンを使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。携帯電話やスマートフォンの電源を切るか、スマートフォンの機内モードをオンにしてお使いください。
電源が勝手に切れる。	オートパワーオフ機能(8ページ)が働いたためです。電源が切れるまでの時間を変更するか、機能を解除してください。
<ul style="list-style-type: none"> 音量が小さくなった。 音質が劣化した。 スタイル/ソング/アルペジオが勝手に止まる。 ソングなどの録音内容が、正しく演奏(再生)されない。 突然画面の表示が消え、パネル設定がリセットされた。 USBフラッシュメモリーを接続すると電源が切れる。 	電池が消耗しています。すべての電池を新品または充電が完了したものに交換するか、電源アダプターを使用してください。
鍵盤を押さえても音が鳴らない。 スタイル/ソングをスタートさせても音が鳴らない。	[PHONES]端子にヘッドホン、またはヘッドホン変換プラグが残ったままになっていないか、確認してください(96ページ)。 機能番号077「スピーカー」(109ページ)が「3 Speaker Off」に設定されています。「1 Phones SW」または「2 Speaker On」に設定してください。
フットスイッチ(サステイン)のオン/オフが逆になった。(フットスイッチを踏むと音がカットされ、フットスイッチから足を離すとサステインが効く)	フットスイッチを踏んだまま電源を入れたり、電源が入った状態でフットスイッチの抜き差しをしたためです。電源を切り、フットスイッチを踏まずに、もう一度電源を入れ直してください。
鍵盤演奏をしているとき、同時に押さえた鍵盤で鳴らない音がある。また、スタイル/ソング/アルペジオ/クイックサンプリングパッドの演奏音が途中で途切れることがある。	最大同時発音数(64音)を超えています。最大同時発音数を超えた場合は、前の音を消してあとの音を優先的に鳴らすしくみになっています。
押さえる鍵盤によって、音質や音量が異なる。	この楽器では、オリジナルの楽器の音を忠実に表現するために、鍵盤をいくつかに分けて楽器音をサンプリングしています。そのため、一部のボイスは、音域によって音質や音量が異なります。
鍵盤で弾いた音やスタイル/ソング再生音が、ひずんだり、リバーブが深くかかりすぎた状態になるなど、通常とは違うサウンドになったが、元に戻す方法がわからない。	ノブの操作などの影響で、意図しない設定になっています。これを元に戻すには、[グランドピアノ](PORTABLE GRAND)ボタンを押すなどの方法で、パネル設定をリセットしてください。
[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押しても、ソング/スタイルがスタートしない。アルペジオをオンにして鍵盤を弾いても、アルペジオがスタートしない。	機能番号063「外部クロック」(108ページ)がオン(On)に設定されています。通常は外部クロックをオフ(Off)に設定しておきましょう。
スタイル/ソングの再生音量が小さい。	スタイル、ソングの音量は個別に設定できます(105ページ)。それぞれの音量が下がっていないか、設定内容を確認してください。

次ページへ続く 

現象	原因と解決方法
スタイル再生で、リズム(ドラム)パート以外の音が鳴らない。	スタイル(ACMP)がオンになっていません。シーケンサーコントロールの[スタイル](ACMP)ボタンを押して、ボタンを点灯させてください。
特定のスタイルを選んでいるとき、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押してもリズムが鳴らない。	リズムパートが入っていないスタイルです。シーケンサーコントロールの[スタイル](ACMP)ボタンをオンにして、自動伴奏鍵域(33ページ)を弾くと、スタイルが再生されます。
オーディオ録音待機状態に入れない。	楽器の電源に電池を使用している場合は、オーディオ録音できません。電源アダプターを接続してください。
楽器を操作しても楽器が反応しない。	機能番号076「ストレージモード」(109ページ)がオン(On)に設定されています。ストレージモードをオフ(Off)にしてください。
押さえたコードのとおりスタイルが鳴らない。	機能番号031「フィンガリングタイプ」(105ページ)の設定がコードの弾き方と合っていません。設定をご確認ください。押さえたコードが設定に応じて楽器にどう認識されるかは、44～45ページをご覧ください。
	機能番号005「スプリットポイント」(103ページ)の設定が不適切です。適切な位置に設定してください。
	機能番号031「フィンガリングタイプ」(105ページ)が、「1 Multi Finger」に設定されている場合、以下のような現象が発生しますが、正常な動作です。 <ul style="list-style-type: none"> • 同じようなコードが連続した場合(マイナーセブンスコードに、同じルート音のマイナーコードが続いた場合など)、スタイルが変化しないことがあります。 • 鍵盤を2つだけ押さえた場合、直前に押さえたコードをもとに最適なコードが検出されます。 • オクターブ(完全8度)の鍵盤を押さえた場合は、ルート音だけの伴奏が鳴ります。
スマートデバイスのアプリケーションが楽器を認識しない。	機能番号076「ストレージモード」(109ページ)がオン(On)に設定されています。ストレージモードをオフ(Off)にしてください。
「LowInput」と表示され、サンプリングが実行できない。	機能番号070「オーディオループバック」(108ページ)がオフ(Off)に設定されています。このとき、サンプリング機能へのオーディオの入力もオフになっています。オーディオループバックをオン(On)にして、再度サンプリングを実行してください。

下記ウェブサイトの「よくあるお問い合わせ(Q&A)」もご確認ください。

それでも解決しない場合は、製品に付属の取扱説明書に記載された「電子ピアノ・キーボードご相談窓口」へお問い合わせください。



<https://yamaha.io/faq-jp-pk>

索引

A			
A-Bリピート	55		
D			
DSP	28		
M			
MIDI	52, 53		
MIDI録音	60		
O			
OTS	20		
S			
S. Art Liteボイス	24		
U			
USBオーディオインターフェース	101		
USBフラッシュメモリー	88		
ア			
アーティキュレーション	24		
アプリ	102		
アルペジオ	26		
イ			
一時停止	55		
移調→トランスポーズ	19		
イントロ	41		
エ			
エンディング	41		
オ			
オーディオ機器	97		
オーディオファイル	52, 54, 67		
オーディオ録音	60, 67		
オートコードプレイ	38		
オートパワーオフ	8		
オクターブ	19		
音色(楽器)	20		
音律	50		
音量	7		
音量(スタイル)	35		
音量(ソング)	53		
音量(メトロノーム)	16		
カ			
外部スピーカー	97		
画面	14, 15		
乾電池→電池	6		
キ			
機能設定	103		
ク			
クイックサンプリング	72		
グランドピアノ	20		
くり返し再生	56		
ケ			
結線図	111		
コ			
効果	28		
コード進行	39		
コーラス	31		
コーラストाइプ	31		
困ったときは	112		
コンピューター	98, 101		
サ			
再生(オーディオ)	54		
再生(ソング)	53		
サンプリング	72		
シ			
自動伴奏	33		
初期化	110		
シンクロスタート	34		
シンクロストップ	42		
ス			
スケールチューン(音律)	50		
スタイル	33		
スタイル(音量)	35		
スタイルキー	37		
スタイルリボイス	43		
スピーカー	97		
スプリットボイス	22		
スプリットポイント	22		
スマートコード	36, 45		
スマートデバイス	101		
セ			
セクション	41		
全体音量	7		
ソ			
ソング	52, 53		
ソング音量	53		
ソングデータ	2		
ソングブック	2		
ソング録音	60		
タ			
タッチ感度	18		
タッチレスポンス	18		
チ			
チューニング	19, 51		
テ			
デモソング	53		
デュアルボイス	21		
電源	6, 7		
電源アダプター	6		
電池	6		
テンポ	16		
ト			
動画マニュアル	2		
トラック(スタイル)	42		
トラック(ソング)	57		
トラック(録音)	62		
トランスポーズ	19		
ノ			
ノブ	47		
ハ			
ハーモニー	25		
ハーモニータイプ	25		
バックアップ	110		
早送り	55		
早戻し	55		
ヒ			
ピッチバンドホイール	32		
拍子	17		
フ			
ファイルコピー	99		
ファイルコントロール	89		
フィンガリングタイプ	36		
フォーマット	91		
フットスイッチ(ペダル)	96		
譜面立て	8		
フリーズ	71		
ヘ			
ベースノート	50		
ペダル(フットスイッチ)	96		
ホ			
ボイス(楽器音色)	20		

マ

マイク	58
マスターEQ	32
マルチフィンガー	36, 44

メ

メイン	41
メインボイス	20
メガブースト	18
メッセージ一覧	54, 68, 95
メトロノーム	16, 17
メトロノーム音量	16
メロディーキャンセル	98

モ

モーションエフェクト	30
------------------	----

ユ

ユーザーソング	52, 60
---------------	--------

リ

リバーブ	31
リバーブタイプ	31
リボイス	43

ル

ルーパー	81
------------	----

レ

レジストレーションメモリー	69
---------------------	----

ロ

録音	60
----------	----

ワ

和文シート	8
ワンタッチセッティング	20